

A ドクゼリ セリ科

2009	
2017	A
2023	A

Cicuta virosa L.

【種の特性】 大型の多年生草本。高さ1mに達する。根茎は太く、節間に隙間がある。茎は分枝し、先端に花序を付ける。葉は、2から3回複葉で、小葉は披針形で鋭い鋸歯がある。花序は基部で、小花序に分かれ、長い小花序枝の先に散形に花を付ける。果実は、2つ合わせて球形になり、幅2mm。虫媒で、重力散布。花期は、5月から8月。湿地に生育する。ホソバノヨツバムグラ大形スゲ群団。[H~HH]

【分布】 北海道・本州・九州。ユーラシア。

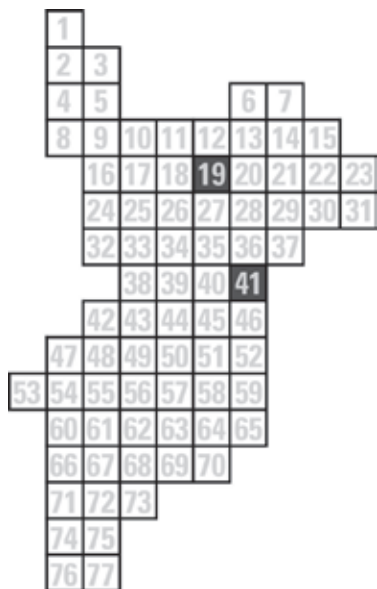
【県内の状況】 東金市で1956年9月16日に採集された標本（CBM BS-7581）と成田市で1994年5月18日に採集された標本（CBM BS-138571）と多古町で2004年6月6日に採集された標本（CBM BS-267565）がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:345 / 新千植誌 1975:390 / 千植誌 2003:425 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017 393

【写真】 1994.5.11 成田市 標本: CBM BS-139572

(天野誠)



最重要保護
A

A ヤマゼリ セリ科

2009	C
2017	A
2023	A

Ostericum sieboldii (Miq.) Nakai

【種の特性】 夏緑性の多年生草本。茎は高さ50~80cm。葉は2~3回3出複葉。花は8~10月に咲き、大型の散形を花序に白い花を密につける。果実は楕円形。[H]

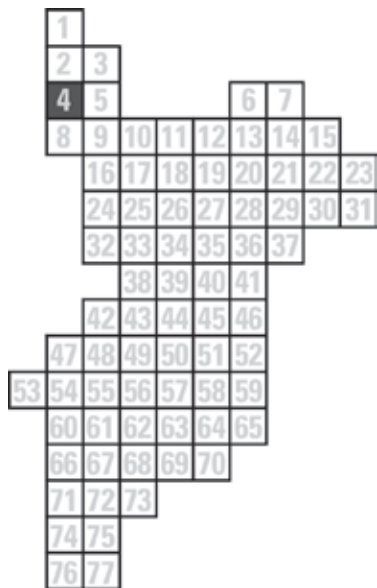
【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国

【県内の状況】 2007年に野田市で発見された。それまで千葉県からヤマゼリの報告はあったが、確認できた限りではそれらはカノツメソウなどの誤認であった。神奈川県などでは丹沢などの山麓の湿った林縁などに普通に見られる。

【保護対策】 自生地を保全する。

【文献】 千植誌 2003: 428,417 / 土屋守 2008. 野田市にヤマゼリが産する. 千植資料 24: 224-225

【写真】 2010.11.7 野田市 CBM BS-353260 (大場達之/天野誠 追補)



A シムラニンジン セリ科

2009	A
2017	A
2023	A

Pterygopleurum neurophyllum (Maxim.) Kitag.

【種の特性】中形の多年生草本。茎は高さ80～120cm。葉は3出複葉、羽状複葉で互生。虫媒で水散布。花は5～6月。果実は6～8月に熟す。

ほかの草にやや寄りかかって直立し、茎の上部でやや枝分かれをする。長く持続した自然で構成種数の多いオギ群落にのみ見られ、新しく再生したオギ群落には見られない。大きな河川の下流域の氾濫原で年に数回は洪水の冠水するやや湿った草原。九州では山地の湿った草原に生える。ハナムグラオギ群落。[G]

【分布】本州（関東地方：利根川、荒川の下流域）・九州。朝鮮。

【県内の状況】最初、市川市で採集されたが絶滅。1995年に香取市で発見された。極めて個体数が少なく、生育環境も狭いので絶滅する恐れが高い。

【保護対策】生育地への立ち入りを避けるとともに、草刈りにあたって十分留意する。採取をしないことが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：391 / 千植誌 2003：426, 415

【写真】1995 佐原市 大場達之
(大場達之/天野誠)



A オオツクバネウツギ スイカズラ科

2009	
2017	A
2023	A

Abelia tetrasepala (Koidz.) H.Hara & S.Kuros.

【種の特性】小型の低木。茎は高さ2～3m、枝は白い髄がある。葉は広卵形から披針状卵形。花は花柄の先に2つ付く。萼片は5つのうち1つが小さい花冠は、ツクバネウツギより大きい。虫媒で、鳥散布。花期は、4月～6月。林縁に生育する。[N]

【分布】本州、四国、九州。

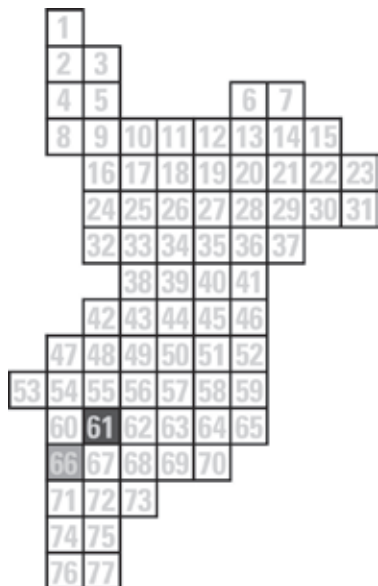
【県内の状況】富津市で1971年4月に採集された標本(CBM BS-182782)と鋸南町で1961年11月23日に採集された標本(CBM BS-191195)がある。

【保護対策】生育地の林を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 321 / 新千植誌 1975 366 / 千植誌 2003 557 / 改訂新版日本の野生植物 5 2017 415

【写真】2009.5.26 成田市 谷城勝弘

(天野誠)



A ミヤマウグイスカグラ スイカズラ科

2009	D
2017	A
2023	A

Lonicera gracilipes Miq. var. *glandulosa* Maxim.

【種の特性】 落葉低木。高さ1～2m。枝は中実。腺毛が多い。葉は卵形から、縁に鈍鋸歯がある。花は、通常1花で薄紅色。小苞は、小さく目立たない。花冠は漏斗状で5裂する。果実は、赤色。虫媒で、動物散布。林に生育する。ブナ群網。[N]

【分布】 本州、四国、九州。

【県内の状況】 山武市で1929年7月7日に採集された標本（CBM BS-25556）と同市で1933年4月25日に採集された標本（CBM BS-136）と富津市で2013年5月19日に採集された標本（CBM BS-294251）がある。

【保護対策】 生育地の林を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 558 /改訂新版日本の野生植物 3 2016 81

【写真】 1929.7.7 山武市 標本: CBM BS-025550

(天野誠)



A キンギンボク スイカズラ科

2009	
2017	A
2023	A

Lonicera morrowii A.Gray

【種の特性】 小型の低木。茎は高さ1～2m、枝は中空になる。葉は広楕円形から狭楕円形。花は花柄の先に2つ付く。花冠は、ほぼ相称性。果実は離れ、赤熟する。虫媒で、鳥散布。花期は、4月～6月。林縁に生育する。[N]

【分布】 北海道、本州。

【県内の状況】 南房総市で1991年4月18日に採集された標本（CBM BS-235309）と、市原市で1992年6月19日に採集された標本（CBM BS-37546）と、館山市で2010年4月23日に採集された標本（CBM BS-371543）がある。

【保護対策】 生育地の林を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 558 /改訂新版日本の野生植物 5 2017 418

【写真】 1992.6.19 市原市 標本: CBM BS-37546

(天野誠)



A ナベナ マツムシソウ科

2009	B
2017	X
2023	A

Dipsacus japonicus Miq.

【種の特性】 大形の2年草。乾いた日当たりのよい林縁、礫の多い斜面などに生える先駆的植物で林道脇などに見られることが多い。茎は直立して高さ1.5m以上になり、茎には棘がある。葉は対生し羽状に裂ける。花は8～10月。長い枝の先に頭状花序をつけ花被は紅紫色。[Th]

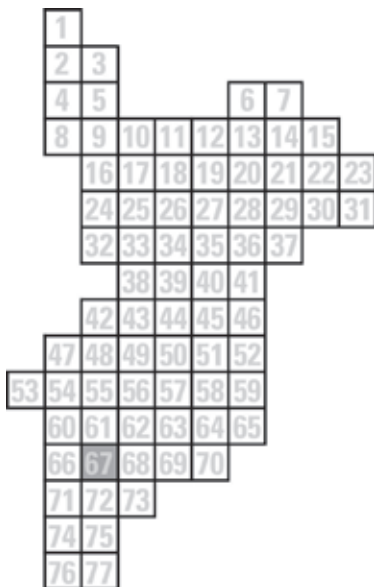
【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 印西市と南房総市で採集されたことがあるのみで近年は記録を見ない。

【保護対策】 すでに30年以上報告がないので、自生を確認する必要がある。

【文献】 千植誌 2003：560, 554

【写真】 1982 長野県 大場達之
(大場達之/天野誠)



最重要保護 A

B コウホネ スイレン科

2009	B
2017	B
2023	B

Nuphar japonicum DC.

【種の特性】多年生の中～大型草本。地下に太く灰白色の地下茎があり、河骨の名がついた。葉は根生し単葉で対生、水中の葉は薄く全体に波曲している、空中葉は長卵形で著しい光沢があり、下面には幼葉が縦に巻いていた時の名残が印されている。花は6～9月に咲き、地下茎から出た長い直立した柄の先に黄色で直径3～5cm、5弁の花を単生する。虫媒で水散布あるいは鳥散布。[HH]。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】池・沼、流れの遅い川、水田の水路などに多く見られたが、現在では河川改修、圃場整理などによって激減している。

【保護対策】水路などを自然な状態に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975 384 / 千植誌 2003 : 202,209

【写真】1999 東京都 大場達之 (大場達之 / 天野誠)



B アブラチャン クスノキ科

2009	C
2017	C
2023	B

Lindera praecox (Siebold & Zucc.) Blume

【種の特性】夏緑性の中高木。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。低地遺存ブナ帯要素。[N～M]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾。

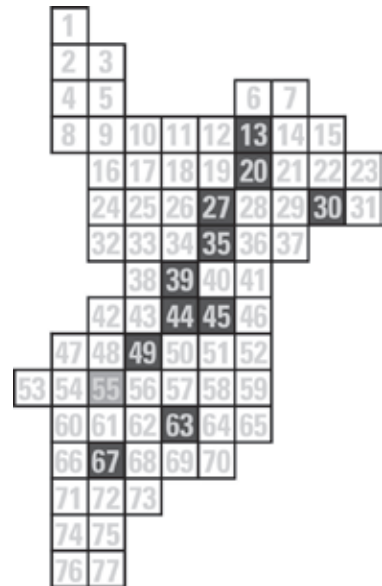
【県内の状況】本来ブナ帯に分布の中心のある種類で千葉県では点々と分布が知られる。寒冷期からの依存と考えられる。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 184, 192 / 福田洋 2006 守ろう千葉の植物・扉

【写真】1976.3.25 鴨川市 標本 : CBM BS-381340

(大場達之 / 天野誠)



B バリバリノキ クスノキ科

2009	C
2017	D
2023	B

Litsea acuminata (Blume) Sa.Kurata

【種の特性】常緑性の中～高木。葉は単葉で互生し狭披針形で長さ15～25cmで縁は波打つ。花は8月に咲き、花被片は脱落する。虫媒で鳥散布。カクレミノースダジイ群目。[MM]

【分布】本州・四国・九州。

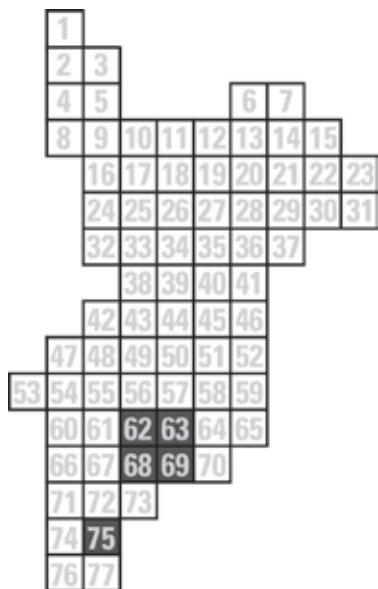
【県内の状況】房総丘陵に見られるが、開花するような株は少ない。

【保護対策】自生する照葉樹林を保全する。

【文献】千植誌 2003：184, 192

【写真】2011.8.24 鴨川市 標本：CBM BS-298377

(天野誠)



B イヌガシ クスノキ科

2009	
2017	B
2023	B

Neolitsia acuminata (Blume) Koidz.

【種の特性】大型の常緑高木。枝はシロダモより、細い。葉は倒卵状楕円形でシロダモより小さく。葉脈は三行脈。花は腋性の芽に付き、花被は暗赤色。ヤブツバキ群綱。[MM]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾。

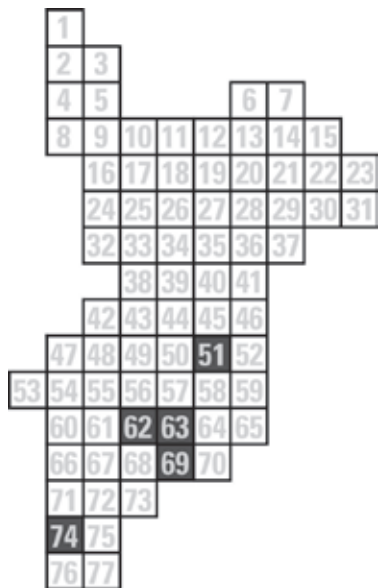
【県内の状況】鴨川市で1998年6月24日に採集された標本(CBM BS-387858)と君津市で2012年9月26日に採集された標本(CBM BS-330771)と大多喜町で1996年6月13日に採集された標本(CBM BS-123003)などがある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 413 / 新千植誌 1975 455 / 千県誌 2013 838 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016 88

【写真】1988.6.24 鴨川市 標本：CBM BS-387858

(天野誠)



B サジオモダカ オモダカ科

2009	B
2017	B
2023	B

Alisma plantago-aquatica L.

【種の特性】 多年生草本。主に北日本の湖沼、ため池、水路などの浅い水域または湿地に生える。単葉で互生。葉柄と葉身は境目が明瞭である。虫媒で水散布。[HH]。ヨシ群綱。

【分布】 北海道・本州・四国。ユーラシア中部・東部、朝鮮、中国。

【県内の状況】 県北部台地の谷津、川沿いに複数の記録があるが、近年は確認されないところが多い。八千代市には多産地が現存する。

【保護対策】 水辺環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 大野景徳・谷城勝弘 2002 八千代市の植物相とその保護について。八千代市水辺の自然環境調査報告書 53-101 / 千植誌 (2003) : 652,643

【写真】 2008.8.31 市川市
谷城勝弘

(谷城勝弘)



B アギナシ オモダカ科

2009	C
2017	C
2023	B

Sagittaria aginashi (Makino) Makino

【種の特性】 抽水性～湿性の多年生草本。湖沼、ため池、湿地などに生育する。オモダカに似るがやや高標高の池沼の水辺など攪乱の少ない安定した環境に生えることが多い。葉の側裂片先端はやや丸みを帯びる。夏の終わり頃から葉柄基部に多数の小球茎(むかご)を形成する。ヨシ群綱。[HH]

【分布】 北海道、本州、四国、九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 県内全域に記録が点在する。記録中には本種によく似たホソバオモダカ f. *longiloba* Makino を誤同定したものが含まれる可能性がある。

【保護対策】 自然的な湿地を保存する。

【文献】 千植誌 2003:653

【写真】 2014.8.26 千葉市 CBM BS-366520

(谷城勝弘)



B ミミガタテンナンショウ サトイモ科

2009	A
2017	A
2023	B

Arisaema limbatum Nakai & F.Maek. ex F.Maek.

【種の特性】 中～やや大型の多年性草本。葉は鳥足状複葉で互生。花は3月。全体にヒガンマムシグサに似るが、総苞は濃褐紫色で、内面に光沢があり、総苞口部の耳状の反曲は大きい。虫媒で鳥散布。[G]

【分布】 本州・四国。

【県内の状況】 銚子市にのみ分布が知られる。古いスギ植林と照葉樹などの2次林に見られる。関東から東南北部にかけての太平洋側の低山地～山地には普通であるが千葉県では南部にヒガンマムシグサが圧倒的に多く、銚子市とヒガンマムシグサの分布圏の間には、このミミガタテンナンショウ類が発見されていない。

【保護対策】 生育地を保全する。また銚子市猿田丘陵など利根川沿岸の丘陵には更に分布している可能性があるので精査が必要である。

【文献】 千植誌 2003 : 811, 799

【写真】 2012.4.15 銚子市 谷城勝弘 (大場達之/天野誠)



B コウキクサ サトイモ科

2009	
2017	B
2023	B

Lemna minor L.

【種の特性】 小型の多年性草本で浮漂植物。葉状体のまま、越冬する。根の鞘に翼はない。根は1本で、根冠は鈍頭。葉状体は緑色、ほぼ左右相称で、円形から広卵形。花期は、6月から8月。水媒で、重力散布。池や溝に生育する。[HH]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。北半球の温帯。

【県内の状況】 千葉市などに生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975:454 / 千植誌 2013:813 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016 108

【写真】 2019.6.25 千葉市 標本: CBM BS-411767

(天野誠)



B ムサシモ トチカガミ科

2009	B
2017	A
2023	B

Najas ancistrocarpa A.Br.

【種の特性】一年生草本の沈水植物。茎はよく分岐する。種子は曲がり、表面に縦に長い網目模様がある。[HH] ヒツジグサ群団。

【分布】本州・四国。

【県内の状況】印旛沼、手賀沼畔での次の採集記録がある。成田市(1985.9.12 CBM BS-79889)、印旛沼(1985.9.14 CBM BS-83779)、柏市(2002.8.26 CBM BS-190859)。2008年には印旛沼畔の実験地で発生が確認された。本種の種子は横芝光町などからもみつかっており、かつては県内の広い範囲に生育していたことが推察される。

【保護対策】埋土種子からの発生を促し、生育地の環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 671,665

【写真】2008.11.24 成田市

谷城勝弘

(谷城勝弘)



B ホッスモ トチカガミ科

2009	B
2017	B
2023	B

Najas graminea Delile

【種の特性】一年生草本の沈水植物。ムサシモに似るが葉鞘の先が耳状に著しく突き出て尖る。種子は曲がらない。ヒツジグサ群団。

【分布】本州・四国・九州・琉球。世界の温帯～熱帯。

【県内の状況】県内各地のため池や湿地の水溜りに採集記録がある。山武市(2005.8.12 CBM BS-274145)や千葉市(2007.8.25 CBM BS-343698)では水田で確認されている。農業が多用され乾田化の進む以前には県内各地の水田(湿田)に生育していたものと推察される。

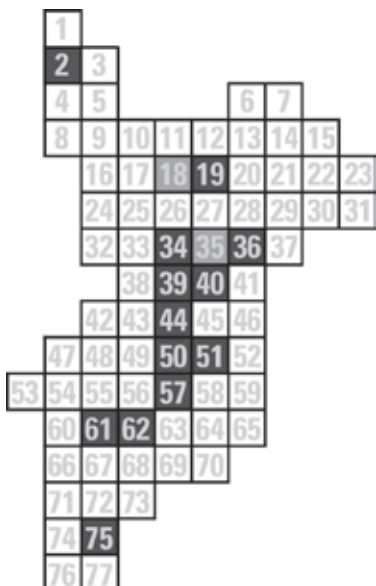
【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 :

671,665

【写真】2007.9.18 千葉市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B イトリゲモ トチカガミ科

2009	B
2017	B
2023	B

Najas japonica Nakai

【種の特性】水田、池沼、ため池などに生える一年生の沈水植物。葉身は糸状で1節から5葉を生じることがあり、種子は各節に2個つく。[HH] ヒツジグサ群団。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】富津市（1997.10.31 CBM BS-154770）、成田市（1999.10.28 CBM BS-363395）、横芝光町（2007.8.30 CBM BS-363395）の標本がある。横芝光町では造成地の埋土種子からの発生であった。かつては各地に生育していたと思われるが、土地の改変や環境の変化によって激減したと推察される。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：670,665

【写真】2007.7.31 横芝光町 谷城勝弘
(谷城勝弘)



B イバラモ トチカガミ科

2009	A
2017	A
2023	B

Najas marina L.

【種の特性】一年生の沈水植物。植物体は剛直で厚みがある。葉は幅2～3mmで鋸歯は顕著。ヒツジグサ群団。[HH]

【分布】北海道、本州、四国、九州、奄美大島。世界の温帯～熱帯。

【県内の状況】印旛沼と手賀沼に記録があり、佐倉市（1964.9.6 CBM BS-12732）などの標本がある。印旛沼では1980年代まで生育が確認された。手賀沼畔の実験堀で埋土種子から発生が確認された。標本が得られている（2002.8.26 CBM BS-190875）。2008年に印旛沼の実験堀でも発生が確認された。

【保護対策】埋土種子からの発生を促し、生育地の環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：670,664

【写真】1964.9.6 酒々井町 標本：CBM BS-194578
(谷城勝弘)



B オオトリゲモ トチカガミ科

2009	B
2017	B
2023	B

Najas oguraensis Miki

【種の特長】池沼、ため池などの生える一年生草本の沈水植物。植物体は硬く、葉は2～4cmで外側に反り返る。雄ずいの葯は4室。通常は水深が20～40cmの場所に生育する。[HH]

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】袖ヶ浦市、東金市、手賀沼（1997.8.31 CBM BS-363395）、印旛沼（2001.8.12 CBM）での採集記録がある。袖ヶ浦市、東金市の生育地は後に消滅した。印旛沼の実験池には現在も多く生育する。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：671,665

【写真】2007.9.18 成田市 谷城勝弘
(谷城勝弘)



B コウガイモ トチカガミ科

2009	B
2017	B
2023	B

Vallisneria denseserrulata (Makino) Makino

【種の特長】沈水性の多年生草本。池・沼、水路等の底に生える。地下茎には小さな棘がありざらつく。秋に地下茎の先に細長いイモ状の殖芽をつける。葉は単葉ですべて根生し、長さ10～60cm、幅5～15mmで葉縁には鋭い小鋸歯がある。風媒で水散布。沈水葉は線形で、長10～20cm、幅3～9mm。花は9～10月に咲く。[HH] ヒルムシロ群綱。

【分布】本州・九州。中国。

【県内の状況】印旛沼、手賀沼のほか東金市、香取市、松戸市などで記録されているが、印旛沼などでは湖水の透明度低下のため見られなくなっている。しかし印旛沼周辺に造られた養魚場などには多量に生育しているところがある。

【保護対策】ため池や水路の汚濁をなくし、生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 432 / 新千植誌 1975 476 / 千植誌 2003 655,661

【写真】2002.8.14 松戸市 大場達之
(大場達之/天野誠)



B ガシャモク ヒルムシロ科

2009	B
2017	A
2023	B

Potamogeton dentatus Hagstr.

【種の特性】沈水性の多年生草本。湖沼、ため池等に生える。葉は単葉で互生～対生。ササバモに似るが、葉柄がほとんどない。陸生葉は作らない。風媒で水散布。[HH] ヒルムシロ群綱。

【分布】本州（関東、滋賀）・北九州。中国。

【県内の状況】手賀沼、印旛沼にはかつて緑肥に利用するほど多産したというが、両沼内では近年の急激な汚濁の進行によって絶滅した。沼周辺での工事や実験池に埋土種子による生育が確認されることがある。2002年に手賀川高水敷に掘られた実験池ではガシャモクの他、インバモ、ササバモ、ムサシモ、イバラモ、コウガイモなど沈水性の水草が多数発生し、かつての手賀沼の豊かな水生植物相を偲ばせるものとなった。

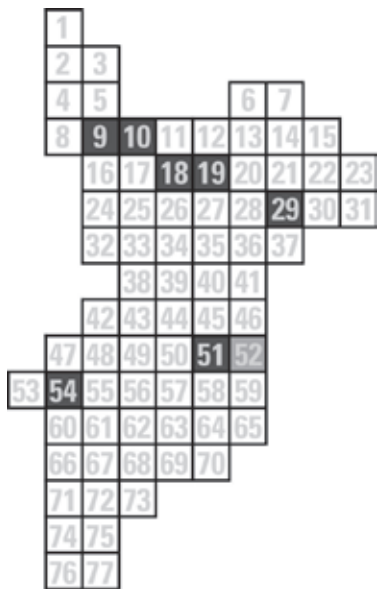
【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：432 / 大滝末男（1975）水生植物の分布と生態。新千植誌：216-232 / 千植誌 1975：478 / 齊藤吉永 1991 幻のガシャモクの出現。水草研究会報 43：24-26 / 林紀男 2005 埋土種子から蘇ったガシャモク マシジミとガシャモクに関する調査研究報告集 5-9 / 千植誌 2003：669,663

【写真】1997 柏市

谷城勝弘

(谷城勝弘)



B ホソバミズヒキモ ヒルムシロ科

2009	B
2017	B
2023	B

Potamogeton octandrus Poir.

【種の特性】沈水性の多年生草本。ため池や水路等に生える。葉は単葉で互生～対生。沈水葉は線形で、長さ3～5cm、幅0.3～1.0mm、浮葉は長楕円形で明るい黄緑色、長さ1.0cm、幅4～10mm。果実の背稜には突起がない。風媒で水散布。ヒルムシロ群綱。[HH]

【分布】本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、ウスリー。

【県内の状況】印旛沼、山武市、長生村、南房総市での標本、記録があるが、近年は確認されていない。水路やため池の植物調査が不十分であるので、生育状況の詳細は今後の精査にまつれる。

【保護対策】ため池や水路の汚濁をなくし、生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：432 / 新千植誌 1975：479 / 角野康郎 1994 日本水草図鑑：36 / 千植誌 2003：664,660

【写真】2009.8.20 いすみ市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B ツツイトモ ヒルムシロ科

2009	A
2017	B
2023	B

Potamogeton panormitanus Biv.

【種の特性】沈水性の繊細な多年生草本。葉は線形で長さ2～5cm、幅0.7～1mm。イトモに似るが托葉の縁は合生して筒状になり、地下茎が伸びる。花は上下2段に分かれてつく。

【分布】本州・四国。ヨーロッパ、北米。

【県内の状況】県内では初め横芝光町で確認された。千葉県立中央博物館の標本を調査したところ1964年に印旛沼で採集されていたことが明らかになった。その後、成田市の実験堀からも埋土種子からの発生が確認された。2007年に印西市で見出されたものはツツヤナギモ *P. × apertus* Miki の可能性が高い。

【保護対策】生育環境を良好に維持し、状況に応じて埋土種子からの再発生を促すことが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 660 / 千植写真 2005: 357 / 林紀男・谷城勝弘・浅間茂 2008: 手賀沼流域における水生植物の繁茂状況. 千生誌 (58) 1: 1-6

【写真】

2001.5.19 横芝光町
谷城勝弘・市原道雄
(谷城勝弘)



B イトモ ヒルムシロ科

2009	A
2017	B
2023	B

Potamogeton pusillus L.

【種の特性】沈水性の小型の多年生草本。葉は単葉で互生。水媒で水散布。水中茎の断面は楕円形。[HH]

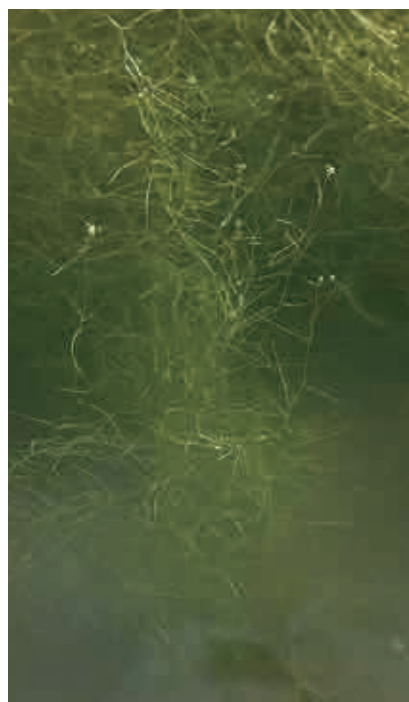
【分布】日本全土。サハリン、朝鮮、台湾、中国、北米、南米など。

【県内の状況】九十九里平野の河川や池沼、印旛沼、手賀沼を中心とする利根川水系から複数の記録がある。河川、水路などの改修と護岸整備、沼の汚濁の進行等によって生育可能な環境が失われ、現存する生育地は極めて少ない。近年、印西市と成田市で確認された。

【保護対策】旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を良好に維持することが望ましい。現生育地は保全の努力をすることが望ましい。

【文献】伊藤至 1988 水草三題. 千葉生物誌 37(1・2) : 11-14 / 千植誌 2003 : 660. / 林紀男・谷城勝弘・浅間茂 2008 手賀沼流域における水生植物の繁茂状況. 千葉生物誌 58(1): 1-9

【写真】(左) 2006.9.10 群馬県 谷城勝弘 / (右) 2004 市川市 大場達之 (谷城勝弘)



B カワツルモ カワツルモ科

2009	A
2017	B
2023	B

Ruppia maritima L.

【種の特性】沈水性の多年生草本。葉は単葉で互生し、先端はとがり不斉の鋸歯がある。水媒で水散布。感潮域の潟湖に通じる水路などに生じる。カワツルモ群団。[HH]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。世界に広く分布。

【県内の状況】九十九里平野の河口付近と東京湾沿岸に記録がある。浦安市には現存するが、九十九里沿岸では絶滅寸前と考えられる。近年、銚子市に作られた池に発生した。

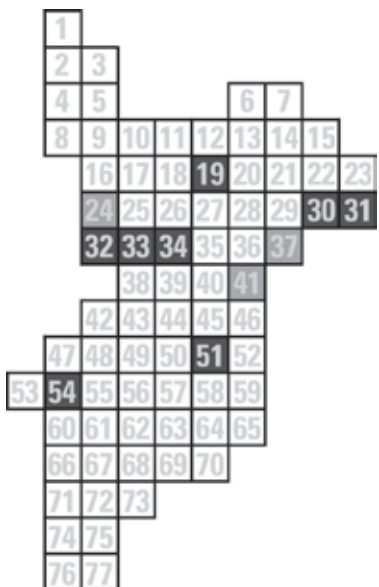
【保護対策】汽水域に生えるので保全は難しい。河口付近の汽水環境を積極的に保全するとともに生育地においては特に保全策を強化することが望ましい。

【文献】

千植誌 1958 : 432 /
 千植誌 2003 : 479 /
 千植誌 2003 : 664,669

【写真】

2002.08.14 浦安市大
 場達之
 (谷城勝弘)



重要保護

B

B スガモ アマモ科

2009	B
2017	B
2023	B

Phyllospadix iwatensis Makino

【種の特性】多年生草本。外洋に面した潮間帯下部から漸深帯上部の、小さい砂を被る岩礁に生育する。強い根茎があり節間から2本の短く太い根を出す。葉の基部が分解してできた黒色の繊維に被われている。葉は単葉で互生。雌雄異株。葉の長さは1.5mに達し、幅は0.3~0.8cm。平行脈は5本。葉は葉柄と葉身に分化していない。葉身は革質で縁辺部は透明質で翼状、葉の表面は。開花期はエビアマモとほぼ同じ2~5月。種子は錨形。牧野富太郎(1899)は、北海道と岩手県からの採集標本を*P. scouleri*と同日スガモの和名を与えて発表した。その後、三陸海岸(岩手県陸中、宮古半島とある)で採集した標本

を*P. iwatensis*としてハイスガモの和名を与えて新種記載を行った(Makino1931)。しかし現在は、ハイスガモとスガモは同一種と考えられている。エビアマモに似ている。水媒で水散布。[HH]。スガモ群集。

【分布】北海道・本州(太平洋沿岸)。

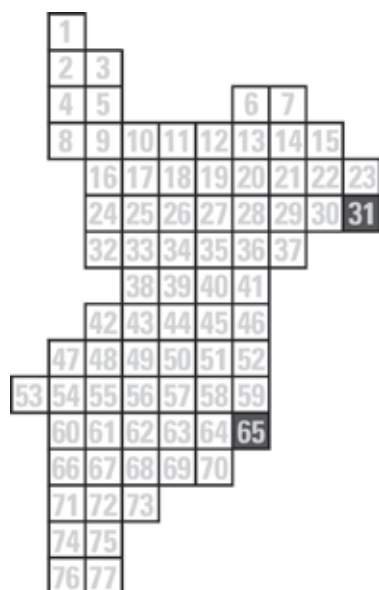
【県内の状況】銚子市~勝浦市にかけて分布し、房総半島が南限域である。

【保護対策】生育している海域を保全することが望ましい。

【文献】Makino, T. (1931) J. Jpn. Botc. 7(7) : 15 / 千植誌 2003 : 663,658 / 大場達之・宮田昌彦 2007 日本海草図譜 9-10,40-41

【写真】2004 銚子市 大場達之

(宮田昌彦)



B エビアマモ アマモ科

2009	C
2017	C
2023	B

Phyllospadix japonica Makino

【種の特性】 多年生草本。岩礁海岸潮下帯上部に生える茎は太く、枯れた葉の基部の黒褐色の繊維で被われる。葉は長さ 30～100cm で幅 1.5～2.5mm で 3 脈があり、葉の縁には透明で鋭い鋸歯が並ぶ。花は 4～5 月に咲く。エビアマモ群集。[HH]

【分布】 本州(茨城県以西)・四国・九州、サハリン、朝鮮、ブリモリア。

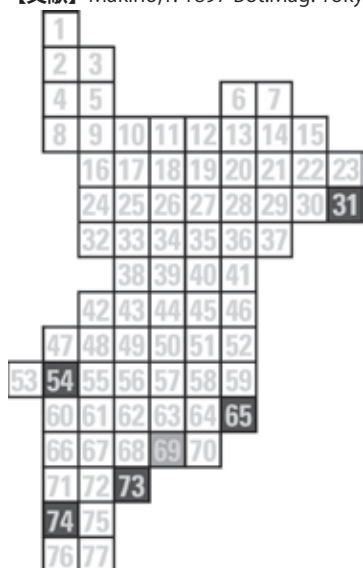
【県内の状況】 銚子市から南房総市にかけての太平洋岸に見られる。1896 年に鴨川市で採集された標本によって記載された。

【保護対策】 岩礁海岸を自然に保つ。

【文献】 Makino, T. 1897 Bot. Mag. Tokyo 13:269 / 千植誌 2003:658,663 / 大場達之・宮田昌彦 2007 日本海草図譜 9, 40-41

【写真】 2011.6.19 いすみ市 標本:CBM BS-3007048

(宮田昌彦)



B ヒナノシャクジョウ ヒナノシャクジョウ科

2009	A
2017	A
2023	B

Burmattia championii Thwaites

【種の特性】 菌根性の多年生草本。無葉。虫媒で重力散布。高さ 5cm 内外。照葉樹林の下などの腐植土の厚い林床に生える。カクレミノースダジイ群目。[G]

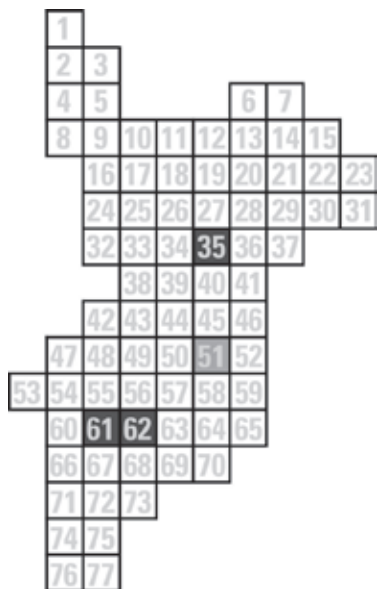
【分布】 本州(関東以西)・四国・九州・琉球。熱帯アジア。

【県内の状況】 山武市と茂原市～長生村で採集された標本がある。古い二次林などにも生えるが小型で見逃されていることが多いと考えられる。実際の分布はさらに広いであろう。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975 : 445 / 千植誌 2003 : 695,704

【写真】 1982.9 鹿児島県 大場達之 (大場達之/天野誠)



B ホンゴウソウ ホンゴウソウ科

2009	A
2017	A
2023	B

Sciaphila japonica Makino

【種の特性】 無葉緑性の多年生草本。無葉。虫媒で重力散布。高さ 3-5cm 程度。菌根性。極めて稀。モミなどの混じったやや乾いた照葉樹林の下に生える。[G]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。

【県内の状況】 清澄山に産することが知られていたが、1998 年に高岩山でも発見され、さらに木更津市ではモウソウチク林にクロヤツシロランと共に生えているのが発見されている。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975 : 476 / 遠藤泰彦 1999 ホンゴウソウの新産地. 千植誌資料 14 : 99 / 千植誌 2003 : 2003 : 666,671

【写真】 2006.10.22 木更津市 大場達之 (大場達之/天野誠)



B ヤマジノホトトギス ユリ科

2009	B
2017	B
2023	B

Tricyrtis affinis Makino

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。シイ・カシ帯上部からブナ帯下部にかけての夏緑林、スギ林などに生える。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】 かなり多くの地域から報告されているが、ヤマホトトギスあるいはホトトギスの誤認が多い。千葉県では少ない植物である。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 伊藤至 1962 千葉県植物誌・植物目録の追加. 千生誌 11(3) : 38 / 千植誌 2003 : 685, 678

【写真】 2021.9.27 野田市 岩槻秀明

(大場達之/天野誠)



重要保護 B

B タムムラサキ ヒガンバナ科

2009	
2017	A
2023	B

Allium pseudojaponicum Makino

【種の特性】 中型の球根植物。高さは30cmから60cmになる。花茎は円柱状で、先端に密な散形花序を付ける。葉は中実で扁平であることから、中空のヤマラッキョウと区別できる。花被片は鈍頭、雄蕊は花被片より長い。虫媒で、重力散布。花期は、9～12月。海岸草地や海に面した崖に生育する。[G]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】 館山市で1992年11月3日に採集された標本（CBM BS-98812）と同市で1995年10月28日に採集された標本（CBM BS-117493）と同市で2007年12月15日に採集された標本（CBM BS-243972）と同市で2008年9月30日に採集された標本（CBM BS-265508）がある。また、勝浦市で1980年11月2

日に採集された標本（CBM BS-360244）と富津市で1935年9月21日に採集された標本（CBM BS-328772）がある。現在まで、千葉県ではヤマラッキョウと区別されてこなかったため、房総半島南部の海辺のヤマラッキョウの記録の中にタムムラサキの記録が混じっている可能性が高い。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 青木慎哉・大場達之 2013 千植誌資料 28:281

【写真】 1943.11.28 勝浦市 標本: CBM BS-6617 (天野誠)



B ハマオモト ヒガンバナ科

2009	A
2017	A
2023	B

Crinum asiaticum L. var. *japonicum* Baker

【種の特性】 大型の常緑多年生草本。葉は単葉で互生。花は夏に咲き白色。虫媒で水散布。礫浜または砂浜のゴミの打ち上げの多いハマゴウ群落やケナシチガヤ群落の中などに生える。[H]

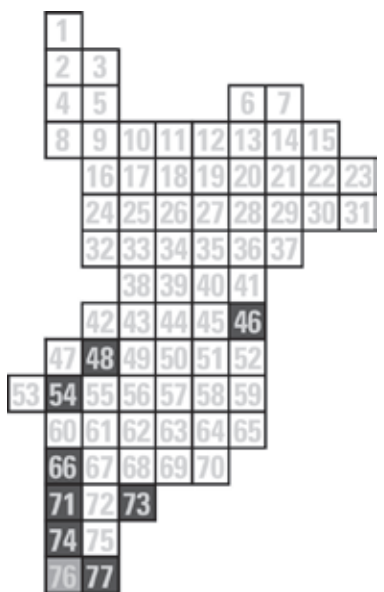
【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】 館山市、南房総市、富津市。日本南部の黒潮など暖流の影響の強い海岸に分布し、千葉県は太平洋岸での北限とされている。気候の温暖化により、今後分布域が北にひろがるものと考えられる。

【保護対策】 鑑賞目的での採集を控える。観光目的などで海岸に植えられていることがあるが、自然植生の中へ由来不詳の株を植えることは禁止すべきである。

【文献】 千植誌 2003: 690, 683

【写真】 館山市 宮田昌彦 (大場達之/天野誠)



B コキンバイザサ キンバイザサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Hypoxis aurea Lour.

【種の特性】 小形の多年生草本。葉は単葉で根生し長い毛が多い。地下に球茎がある。虫媒で重力散布。やや湿った草地にはえ、黄色い花を咲かせる。[G]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】 茂原市周辺に多かったが、現在は激減している。市原市でも見つかったが、これは芝の移植に伴ったものと考えられる。

【保護対策】 鑑賞目的での採取を防ぐ。自生環境を保全する。

【文献】 腰野文男 1959 佐原市の食虫植物。佐原市誌シリーズ第2輯。26. 佐原市。千植誌 2003：689, 683

【写真】 2001.5.16 市原市 大場達之
(大場達之/天野誠)



B クサスギカズラ キジカクシ科

2009	C
2017	A
2023	B

Asparagus cochinchinensis (Lour.) Merr. var. *lucidus* Hatus.

【種の特性】 中型の常緑多年生草本。海岸の崖地に生える。葉は単葉で互生。虫媒で、鳥散布。[G] ボタンボウフウ群団。

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国。

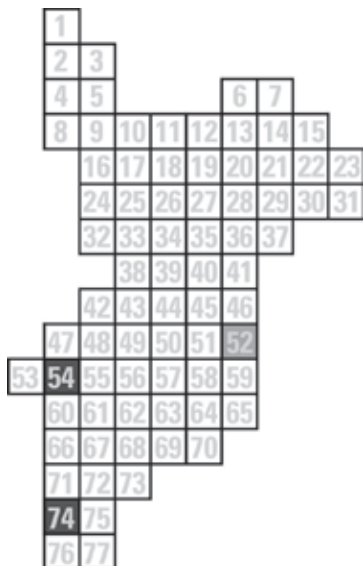
【県内の状況】 一般に海崖のしぶきの当たるような草地にはえるが、千葉県では砂浜海岸のクロマツ林の周辺で採集されている。

【保護対策】 自生環境を保つ。

【文献】 千植誌 2003：674, 666

【写真】 22000.11.21 富津市 標本：CBM BS-188432

(大場達之/天野誠)



重要保護

B

B キジカクシ キジカクシ科

2009	C
2017	C
2023	B

Asparagus schoberioides Kunth

【種の特性】 中型の多年生草本。コナラなどのやや乾いた林の林床に見られる。葉は針状の単葉で互生。虫媒で果実は赤く熟し鳥散布。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、サハリン、ウスリー。

【県内の状況】 房総半島南部に点々と自生が見られるが少ない。

【保護対策】 生息地の下草刈りを定期的に行う。

【文献】 大野正男 (1972) 千葉県下に於けるキジカクシの自生地。植物採集ニュース 63 : 42 / 浅野貞夫 (1973) 千葉県の高塚山と嶺岡山にもキジカクシが自生する。植物採集ニュース 66 : 68 / 千植誌 2003 : 674, 666



【写真】 1991.5.3 柏市 標本: CBM BS-162325

(大場達之/天野誠)



B ヒメイズイ キジカクシ科

2009	A
2017	B
2023	B

Polygonatum humile Fisch.

【種の特性】 多年生草本。茎はおおむね直立し、葉は単葉で互生。上部の葉脇に緑色を帯びた筒状の花が下垂して咲く。虫媒で鳥散布。ススキ群綱。[G]

【分布】 北海道・本州・九州。朝鮮、中国、サハリン、極東ロシア。

【県内の状況】 北日本の砂浜海岸に多く見られるが、県内では銚子市に見られるほか、成東・東金食虫植物群落、栗山川にも見られる。銚子市などでは同所的にハマアマドコロが生えているので、本種と混同されている場合がある。新千植誌巻頭のヒメイズイとした写真はハマアマドコロである。



【保護対策】 鑑賞目的などの採集を行わない。自然の海岸草原の環境を良好に保つ。

【文献】 新千植誌 1975 : 479 / 千植誌 2003 : 674, 667

【写真】 2000. 銚子市 木村陽子

(大場達之/天野誠)



B ヒオウギ アヤメ科

2009	B
2017	B
2023	B

Belamcanda chinensis (L.) DC.

【種の特性】 大形の多年生草本。乾いたススキ草原や明るい夏緑樹の2次林に生える。葉は単葉で互生。種子は眞黒色。虫媒で重力散布。[H] ススキ群綱。

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾、中国、インド。

【県内の状況】 よく管理された乾き気味のススキ草原に見られるが稀である。

【保護対策】 花が美しく観賞用に採集されやすい。保護植物であることを周知徹底する。

【文献】 千植誌 2003：703, 695

【写真】 1999.8.22 市原市 平田和弘

(大場達之/天野誠)



B ノハナショウブ アヤメ科

2009	B
2017	B
2023	B

Iris ensata Thunb. var. *spontanea* (Makino) Nakai

【種の特性】 中形の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。[H] ホソバノヨツバムグラ—大形スゲ群団。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、東シベリア。

【県内の状況】 かつては水田周辺の湿地などに残されていたが、現在は極めて少なくなっている。

【保護対策】 花が美しく観賞用に採集されやすい。保護植物であることを周知徹底する。

【文献】 千植誌 2003：703, 694

【写真】 2001.6.9 多古町 谷城勝弘

(大場達之/天野誠)



B カキツバタ アヤメ科

2009	A
2017	B
2023	B

Iris laevigata Fisch.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。湿地に生える。ホソバノヨツバムグラ—大形スゲ群団。[HH]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、東シベリア。

【県内の状況】長生村、茂原市、柏市、光町、富里市、芝山町、習志野市、船橋市などから報告されている。かつては水田周辺に残された小湿地に稀ではなく、谷津奥のハンノキ林にも見られたが、現在は激減している。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：446 / 千植誌 2003：694,703

【写真】2003.05.11 君津市栽培
大場達之

(大場達之 / 天野誠)



B アヤメ アヤメ科

2009	B
2017	B
2023	B

Iris sanguinea Hornem.

【種の特性】中形の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で水散布。[H] ススキ群網。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】近年市原市、大多喜町などで確認されている。

【保護対策】花が美しく観賞用に採集されやすい。保護植物であることを周知徹底する。

【文献】小松崎一雄 1973 千葉県におけるアヤメ *Iris sanguinea* Hornem. の残存。植物採集ニュース 65：60 / 千植誌 2003：703, 694

【写真】2008.5.24 館山市 大場達之

(大場達之 / 天野誠)



B マメヅタラン ラン科

2009	A
2017	B
2023	B

Bulbophyllum drymoglossum Maxim.

【種の特性】 樹木着生性の常緑多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で風散布。細い茎を伸ばして基物に付着して広がる。主として照葉樹の樹幹あるいは岩に着生する。シダレヤスデゴケヘメケビラゴケ群団。[E]

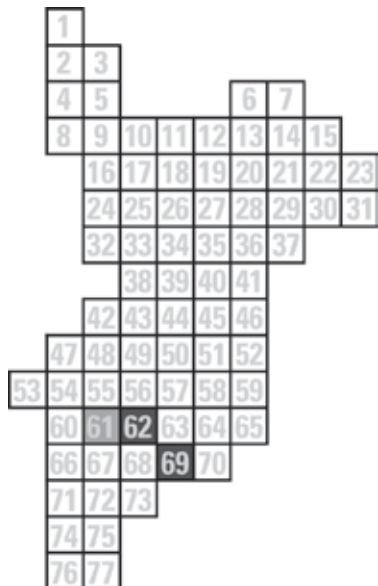
【分布】 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮南部、台湾、中国。

【県内の状況】 1882年に清澄山で採集された。その等価基準標本3枚は東京大学総合研究博物館に残っている。清澄山のほか、大福山、高宕山などでも採集されているが、確実に現存が確認できる場所は極めて少ない。

【保護対策】 生育環境の自然林を良好な状態に保護するとともに、観賞用の採取・販売・栽培をしない。生育地点のみを保護しても、周囲の伐採によって空中湿度が低下すれば衰退する。

【文献】 Okubo, S. 1887 Bot. Mag. Tokyo 1 : 14, t. 3 / 倉田悟 1951 千葉県清澄山のラン科植物・演習林 8 : 73 / 千植誌 2003 9/10,922

【写真】 2001.5.15 君津市 福田洋 (大場達之/天野誠)



B ムギラン ラン科

2009	A
2017	A
2023	B

Bulbophyllum inconspicuum Maxim.

【種の特性】 常緑の着生多年草。楕円球状の多肉の偽鱗茎から出る葉は厚く倒卵形。花は5～6月に咲き、短い花序の先に1～3花の淡黄緑色の花をつける。虫媒で風散。常緑樹の樹幹、ときに岩面に着生する。(E)

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。

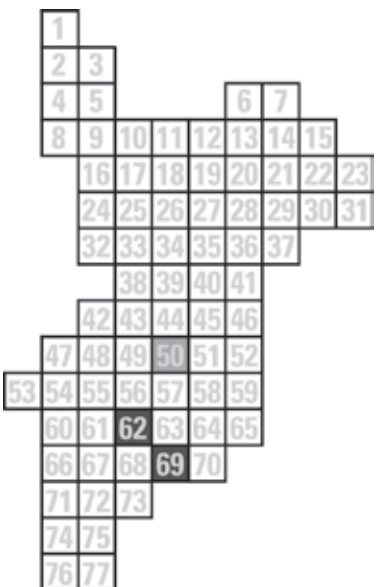
【県内の状況】 房総丘陵の自然林、社寺林、岩場などに生えるが、環境の乾燥化などで減少している。

【保護対策】 自生が見られるモミ林、ウラジロガシ林などを保全する。観賞用などでの採集を行わない。

【文献】 倉田悟 1951 千葉県清澄山のラン科植物・演習林 8 : 73 / 千植誌 2003 922,910

【写真】 1997 宮崎県産 千葉市栽培 大場達之

(大場達之/天野誠)



B クゲヌマラン ラン科

2009	B
2017	C
2023	B

Cephalanthera longifolia (L.) Fritsch

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生。花は白色、ギンランに似るが花は一回り大きく、距が短く、内花被片が外花被片より短かく、唇弁基部の色彩の状態が異なる。またササバギンランにも似るが、花序基部の葉は、花序より短い。虫媒で風散布。クゲヌマランの原産地では海岸付近の砂丘のクロマツ林の下に生えるが、近年神奈川県と千葉県では埋め立て地の植栽林や、内陸のコナラなどの二次林の下などに群生するのが発見されている。[G]

【分布】 本州・四国。神奈川県の高尾海岸で発見命名され、その後青森県から四国に至る太平洋岸から報告されている。ユーラシアに広く分布する *Cephalanthera longifolia* L. と同一種と考えられる。

【県内の状況】 千葉県植物誌 (1958) に「久内清考氏によれば前川文夫博士、一宮? に採るといふ」とあるが、

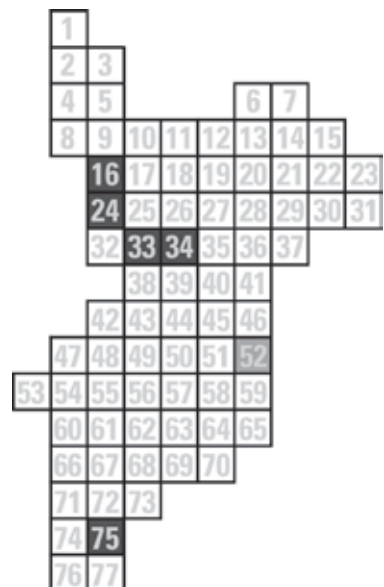
東京大学資料研究博物館には標本は存在しない。しかし 2007 年に千葉市の埋め立て地のクロマツ、スダジイ、マテバシイなどの植栽地で、キンラン、ギンランなどと共に大量に生育しているのが発見され、2008 年春の調査では船橋市、市川市などでも発見されている。植栽地の土壌環境などが、20 年ほどの年月で、クゲヌマランおよびそれら共生する菌類の生育に好適な条件に変化したものと推定される。その状況からすると今後分布地および個体数は増大すると推定される。

【保護対策】 植栽木の維持管理をこれまでと大きく変えず、鑑賞目的などでの採集を控えれば維持は容易と考えられる。

【文献】 前川文夫 1971 原色日本のラン：203 / 新千植誌 1975：442 / 大野啓一ほか 2008 クゲヌマランが千葉市内に多産。千植資料 24：213

【写真】 2008 千葉市 大場達之

(大場達之 / 天野誠)



B ハマカキラン ラン科

2009	A
2017	B
2023	B

Epipactis papillosa Franch. & Sav. var. *sayekiana* (Makino) T.Koyama

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生。若い花序の先端は垂れ下る。花は 6 月に咲く。唇弁基部の広い農褐色の蜜盤が特徴的である、虫媒で風散布。砂浜海岸のクロマツ林の下に生える。[G]

【分布】 本州。神奈川、千葉、茨城、宮城、岩手各県から知られている。最初神奈川県の藤沢市高尾海岸で発見され牧野富太郎によって命名された植物で、カキランの海岸型と考える研究者もあったが、後にエソズランの変種に組み替えられた。その後、橋本保はヨーロッパに広く分布する *Epipactis helleborine* (L.) Cranz の変種としている。E. helleborine は北アメリカの太平洋岸の広い範囲に帰化していることが知られている。日本に見られるものも E. helleborine の変種ではなく E. helleborine そのものの帰化である可能性がある。

【県内の状況】 最初は、県の一宮海岸で発見され、次いで神奈川県の鶴沼で採集されたという、すなわち千葉県が最初の発見地である。個体数は少ない。1997 年に長生村で確認されている。ほかにいすみ市、一宮町での観察記録がある。千葉県植物誌 (1958) に

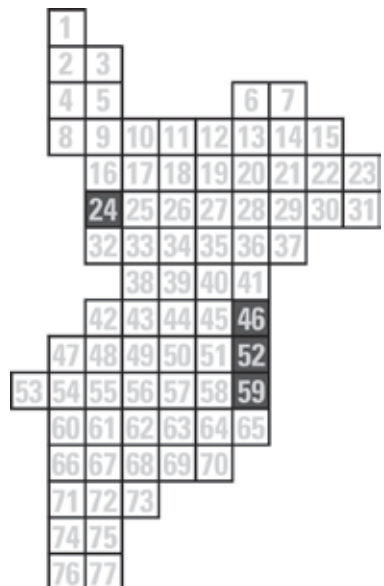
富津市で採集されたという記述もある (1958)。

【保護対策】 ほかのラン科植物と同じく、観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。また生育地の松林を自然な姿に保全する。

【文献】 牧野富太郎 1948 我が思ひ出 76。; 能勢保 (1958) 千葉県に於けるラン科植物の分布とその外的要因について。新千植誌 1975：198-198 / 橋本保・神田淳 1981 原色野生ラン 73 / Luer, C.A. 1975 The Native Orchids of the United States and Canada excluding Florida. 75-76. / 千植誌 2003 915, 9050

【写真】 いすみ市 能勢保所蔵標本 神奈川県 (花)

(大場達之 / 天野誠)



B カキラン ラン科

2009	B
2017	A
2023	B

Epipactis thunbergii A.Gray

【種の特性】 多年生草本。シイ・カシ帯からブナ帯にかけての湿原およびススキ草原に生える。根茎は横に伸び、数本が群がっていることが多い。茎は高さ 40～60 cm。葉は単葉で互生。花は 7 月に咲き黄褐色で、唇弁は白く紅紫色の斑紋がある。虫媒で風散布。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。朝鮮、中国、ウスリー。

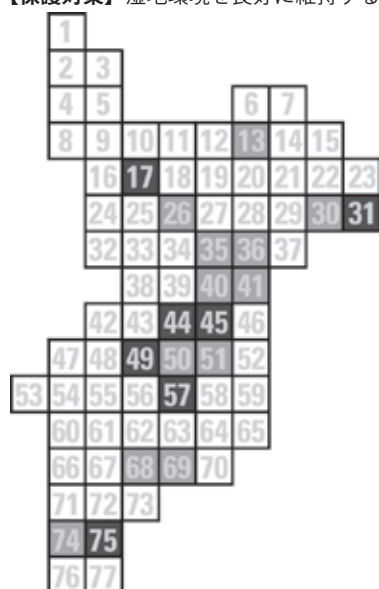
【県内の状況】 草地の面積の広い頃には県内全域では、谷津田の湿った斜面などに普通に見られたが、湿った草原の減少と選択的採取のために激減した。2000 年以降の記録は 4 例に過ぎない。

【保護対策】 湿地環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975：442 / 千植誌 2003：915, 905

【写真】 1998 市原市 平田和弘

(大場達之 / 天野誠)



B オニノヤガラ ラン科

2009	C
2017	A
2023	B

Gastrodia elata Blume

【種の特性】 大型の多年生草本。地下に楕円体状の大きな塊茎がある。茎は淡黄褐色で直立し枝分かれせず、大きなものは高さ 1 m になる。葉は無葉緑で鱗片状。花は 6 月に咲き黄褐色。虫媒で、風散布。菌根性。ナラタケと共生。ススキ草原あるいはナラ類の林などに生える。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。台湾、中国。

【県内の状況】 かつては普通にあったと考えられるが、標本あるいは観察記録は少なく、産地は市原市から八街市・八千代市・市川市にかけての県の中部に集まっており。綿密な調査が行われている富里市、佐倉市などでも記録がないことを見ると、現在は稀な植物になっていると考えられる。

【保護対策】 生育地を良好な状態に保つ。

【文献】 千植誌 2003：916, 906

【写真】 2008.6.19 千葉市 成田篤

(大場達之 / 天野誠)



B ナヨテンマ ラン科

2009	A
2017	A
2023	B

Gastrodia gracilis Blume

【種の特性】 無葉緑菌根性の多年生草本。花は白色。虫媒で風散布。照葉樹林あるいはスギ林の厚い腐植土に生える。6月末に開花する。オニノヤガラの花品種シロテンマに似ているが、花柄が花後に5cmほどに伸張すること、茎の鱗片葉が円頭であることなどで区別できる。[G]

【分布】 本州（関東地方以西の太平洋側）・九州。

【県内の状況】 1933年に清澄山で採集された標本が牧野標本館に収蔵されているほか、山武市、大網白里市、千葉市などで記録されているが、極めて稀な植物である。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 津山尚 1952 日本産オニノヤガラ属雑記(1) *Gastrodia gracilis* Bl. の再発見に就いて. 植物研究雑誌 27: 19-26. / 千植誌 2003: 916,906

【写真】 2006.07.09 大網白里町 福田洋 (大場達之/天野誠)



B ベニシュスラン ラン科

2009	A
2017	B
2023	B

Goodyera macrantha Maxim.

【種の特性】 小型の常緑多年生草本。葉は単葉で互生し、濃緑色で表面はピロード状でえ中肋は白い。花は7月頃に咲き、花茎の先に1~3個、長さ3cmほどの白くわずかに紅色を帯びた花を咲かせる。虫媒で風散布。空中湿度の高い渓谷の岩上に生える。地上生。[H]

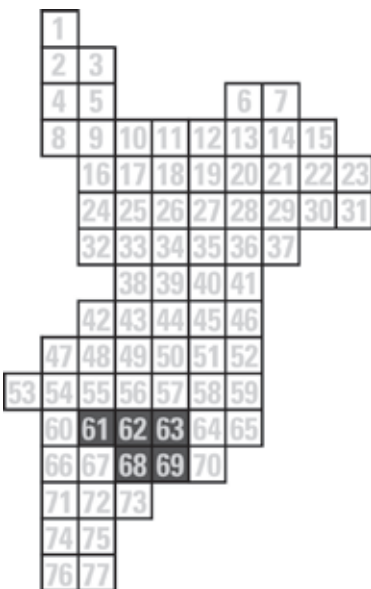
【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮南部。

【県内の状況】 大多喜町と君津市に記録されている。清澄山には古くから知られ、高岩山周辺からも採集されている。花が大きく観賞用に採取されることが多く、著しく少なくなっている。

【保護対策】 生育地の谷の植生を保全するとともに、観賞目的の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 能勢保 1951 千葉県産のラン科植物. 千植誌基礎資料 1(1): 44-50 / 正宗 巖敬・里見信生 1960 北陸の植物 9(1): 1. / 千植誌 2003: 919,907

【写真】 2003.07.17 鴨川市 大場達之 (大場達之/天野誠)



B ムヨウラン ラン科

2009	B
2017	B
2023	B

Lecanorchis japonica Blume

【種の特性】無葉菌根性の多年生草本。無葉。茎は群れて立ち、花は黄褐色で6月に咲く。照葉樹林のやや湿った林床などに生える。虫媒で、風散布。
[G] カクレミノースダジイ群目。

【分布】本州（東北南部）・四国・九州。

【県内の状況】清澄山・三石山系に古くから知られ、市原市、成田市、君津市、鴨川市などからも発見されているが、その一部はクロムヨウランの誤認の可能性がある。

【保護対策】生育地である森林の環境を良好に維持することが望ましい。／能勢保 1951 千葉県のラン科植物。千植誌基礎資料 1(1)：44-50／千葉県自然環境保全地域等変遷調査報告書（1987 及び 1994）。

【文献】千植誌 2003：916, 906

【写真】1997. 市原市 平田和弘

(大場達之／天野誠)



B ツレサギソウ ラン科

2009	B
2017	B
2023	B

Platanthera japonica (Thunb.) Lindl.

【種の特性】多年生草本。林縁や草地に生える。高さ 50 cm ほどになる。葉は単葉で互生し幅 3～5 cm。花は 5～6 月で白色、長さ 1.5 cm ほどの唇弁と、長さ 3 cm ほどの白い距が目立つ。虫媒で風散布。[G] ススキ群綱。

【分布】北海道（南部）・本州・四国・九州。

【県内の状況】成田市、東金市、山武市、千葉市、市原市、勝浦市や鹿野山など多くの報告があるが個体数はどこでも少ない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】能勢保 1951 千葉県のラン科植物 千植誌基礎資料 1(1)：44-50
／新千植誌 1975：444
／千植誌 2003：913, 903

【写真】1982 八街市 大場達之

(大場達之／天野誠)



B ヤマサギソウ ラン科

2009	B
2017	B
2023	B

Platanthera mandarinorum Rchb.f. var. *brachycentron* (Franch. & Sav.) Koidz.

【種の特性】多年生草本。湿地および明るい草地に生える。地下に肥厚した根がある。葉は単葉で互生し茎に1～2枚。花は6～7月に咲き淡黄緑色で、居は下を向く。虫媒で風散布。[G]

【分布】本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】茂原市～長生村のほか、佐倉市、山武市、東金市などでの記録があり、近年、酒々井町や銚子市でも記録されているが、稀である。

【保護対策】鑑賞目的での採取を行わないと共に、湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：444./千植誌 2003：903,913

【写真】1994. 銚子市 大場達之 (大場達之/天野誠)



B コバノトンボソウ ラン科

2009	B
2017	B
2023	B

Platanthera tipuloides Lindl. var. *nipponica* (Makino) Ohwi

【種の特性】小形の多年生草本。谷津田の周りの管理された湿った土手などに生える。葉は単葉で花茎には普通1枚の葉がつく。花は6～7月に咲き、黄緑色で、距の先端は上を向く。虫媒で風散布。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

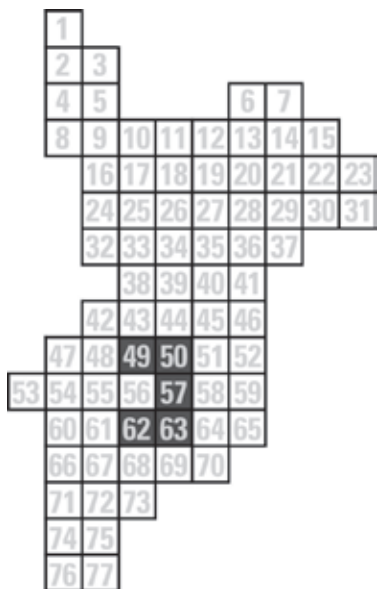
【県内の状況】木更津市、市原市、君津市、大多喜町、長柄町などで記録されているが、どこでも少ない。

【保護対策】鑑賞目的などの採取を行わない。水田周辺の土手の草地を外来雑草に占領されないように管理する。

【文献】千植誌 2003：913,903

【写真】1935.8.1 群馬県 標本：CBM BS-328601

(大場達之/天野誠)



B トキソウ ラン科

2009	B
2017	B
2023	B

Pogonia japonica Reichb.f.

【種の特性】 小形の多年生草本。貧栄養の湿地に生育する。根茎は横に長く這い分岐して、群生する。葉は単葉で互生。6月に花茎の長短に1個の紅紫色の花を横向きにつける。虫媒で風散布。[HH] ヨシ群綱。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。サハリン、朝鮮、中国。

【県内の状況】 山武市、茂原市～長生村に大きな群落が見られたが、現在は成東・東金食虫植物群落のみである。茂原市～長生村の群落は長生村内に移植された。また成田市などにも知られていたが、現在は絶滅している。

【保護対策】 湿地環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 915, 905

【写真】 2008.5.8 山武市 能勢正代
(大場達之/天野誠)



B カヤラン ラン科

2009	B
2017	B
2023	B

Sarcochilus japonicus (Miq.) Rchb.f.

【種の特性】 小形の常緑多年生草本。樹木着生。葉は単葉で互生。花は5月に咲き、淡黄色。虫媒で風散布 [E]

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 かつてはイヌマキ、カヤのどの樹幹に着生するのが珍しくなっていたが、大気汚染や、開発による大気乾燥化などによって衰退すると共に、観賞用の採取が加わって、著しく少なくなっている。

【保護対策】 観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 923, 910

【写真】 2002.6.16 市原市 福田洋
(大場達之/天野誠)



B クモラン ラン科

2009	A
2017	A
2023	B

Taeniophyllum glandulosum Blume

【種の特性】 小型で無葉性の多年生草本。無葉。虫媒で風散布。照葉樹林帯の主として常緑樹の樹幹に着生する。緑葉を欠き緑色の根で樹皮に着生する。花は淡緑色でごく小形。花期は5～6月。密集した自然林には少なく、空中湿度が高く、しかも樹幹に光の当たる林縁または、やや開けた林、ツツジ類の植え込み、梅林、イヌマキの生け垣、稀に石垣にも着生。特に社寺林に多く見られる。[E]

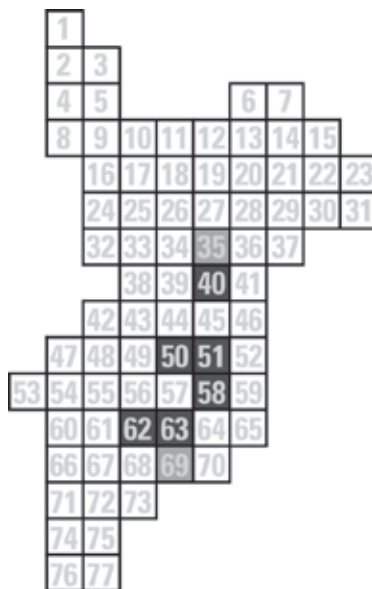
【分布】 本州（福島県以南）・四国・九州・琉球。朝鮮南部。

【県内の状況】 鴨川市、大多喜町、千葉市、長南町、横芝光町などに分布が知られている。もともと個体数が少なかったが、生活の根拠となる社寺林の樹木の減少と、大気汚染による枯死衰退で現在は極めて稀である。栽培は極めて困難であるにもかかわらず、稀少なラン科植物であることから採取され、人目につくところでは壊滅状態である。

【保護対策】 観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。生育地の社寺林などの保全に努めることが望ましい。

【文献】 能勢保 1951 千葉県産のラン科植物・千植誌基礎資料 1(1):44-50 / 正宗厳敬・里見信生 1961 北陸の植物 9 (3-4) : 65. / 千植誌 2003 : 922,910

【写真】 1998. 清澄山 大場達之 (大場達之/天野誠)



B ヒトツボクロ ラン科

2009	B
2017	A
2023	B

Tipularia japonica Matsum.

【種の特性】 多年生草本。尾根筋のモミ林や乾き気味のスギ林などに生える。葉は単葉で1枚根生。虫媒で風散布。1枚の冬緑葉を持つランで葉の裏は赤紫色。花は褐色で6月に咲く。単生し個体数は少ない。[H]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮南部。

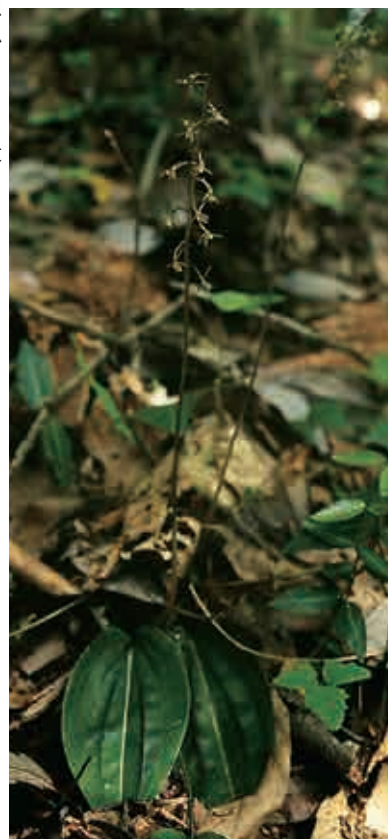
【県内の状況】 清澄山・三石山山系には古くから知られてきたが、近年市原市、佐倉市、八千代市、大多喜町などからも見つかっている。どこでも個体数は少ない。

【保護対策】 観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 919,908

【写真】 1995. 市原市 平田和弘

(大場達之/天野誠)



B トンボソウ ラン科

2009	B
2017	B
2023	B

Tulotis ussuriensis (Regal) H.Hara

【種の特性】 小～中形の多年生草本。暗く湿った照葉樹あるいは夏緑樹林の腐植の多い林床に群れて生える。葉は単葉で2枚互生。花は8月に咲き淡緑色。虫媒、風散布。[G]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、千島、中国、アムール、ウスリー。

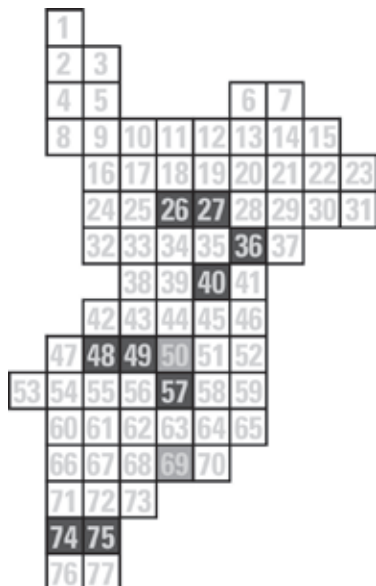
【県内の状況】 佐倉市、千葉市から館山市、南房総市にかけて産地が知られるが、比較的稀で、開花しない株が多いため見過ごされている可能性がある。

【保護対策】 鑑賞目的などの採取を行わない。

【文献】 千植誌 2003：914, 904

【写真】 1950.7.14 山武市 千葉県立中央博物館所蔵標本

(大場達之／天野誠)



B イセウキヤガラ カヤツリグサ科

2009	C
2017	C
2023	B

Bolboschoenus planiculmis (F.Schmidt) T.V.Egorova

【種の特性】 多年生草本。河口など汽水性の河畔、湿地に生える。葉は単葉で互生。コウキヤガラに似るが、葉は鋭三稜で小穂は1～2個。風媒で水散布。[HH]

【分布】 本州（関東以西）。

【県内の状況】 古くは長生村（1934.7 CBM BS-165675）、いすみ市（1956.7.26 CBM BS-10082）などの標本があるが、現在はこれらの既知産地での確認はない。河川改修、湿地の造成で消滅したものと思われる。近年、木更津市、船橋市、鉾子市、御宿町の海岸や河口部で確認されているが、生育地の環境変化で消滅するものが多い。

【保護対策】 現生育地の環境を良好に維持する。旧生育地には埋土種子が存在する可能性があるため、生育可能な環境を保全し、再生を促すことが望ましい。

【文献】 Koyama, T. 1958 TJ. Fac. Sci. univ. Tokyo III 7(6)：271-366 / 清水建美 1967 イセウキヤガラとその生態。植物研究雑誌 42(6)：175-181 / 小山鉄夫 1980 日本のウキヤガラ属。ActaPhytotax Geobot. 31：139-148 / 伊藤至 1981 千生誌 30(2)：49-50 / 木村陽子 1992 千生誌 42(1)：1-8 / 千植誌 2003：883

【写真】 2020.6.14 鉾子市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B イトハナビテンツキ カヤツリグサ科

2009	C
2017	C
2023	B

Bulbostylis densa (Wall.) Hand. -Mazz.

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で風散布。全草繊細。[Th]

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、インド。

【県内の状況】九十九里浜平野中南部、特に茂原市と長生村には生育量が多い。造成地や表土の攪乱箇所にしばしば出現するが、放置された所では数年で消滅してしまう。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。表土の攪乱や刈り取りによって遷移の進行を阻止するなどの管理を施すことも考えられる。

【文献】千植誌 1958：409 / 新千植誌 1975：455 / 折目 1993 富里の植物：128 / 千植誌 2003：866

【写真】2007.9.23 茂原市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B ショウジョウスゲ カヤツリグサ科

2009	B
2017	A
2023	B

Carex blepharicarpa Franch.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉で互生。山地や高山に生える。森林性。基部は栗色～褐色。時に短く斜上する匍枝をもつ。風媒で重力散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】清澄山系、鋸山、高岩山などの標高 300m 付近の岩上に少数個体が生育する。ツクバスゲの分布域に重なるが、より尾根の上方に生育する。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：409 / 千植誌 1975：455 / 千植誌 2003：841,845

【写真】2006.5.27 群馬県 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B ヌマアゼスゲ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

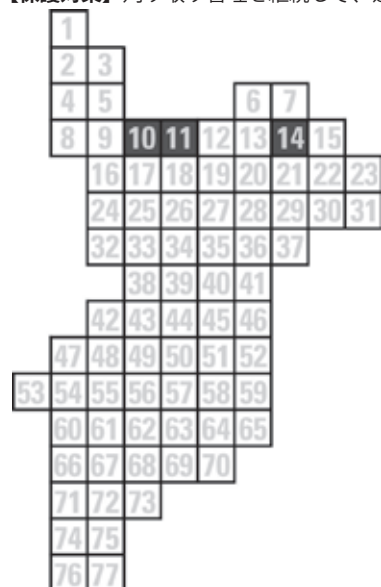
Carex cinerascens Kük.

【種の特性】 多年生草本。湿地性（河畔）。葉は単葉で互生。風媒で水散布。アゼスゲに似るが、密に叢生して長い根茎を出し、果胞が無脈で口部が全縁であることで異なる。[HH]

【分布】 本州（東北、関東）。朝鮮。

【県内の状況】 1997年に栄町で確認された（CBM BS-124226）。刈り取り管理の継続された過湿地にやや疎らに群生し、ヨシ、カサスゲ、オニナルコスゲ、アゼスゲ、シヨウブと混生する。利根川河川敷には広範囲に分布する可能性がある。

【保護対策】 刈り取り管理を継続して、遷移の進行を抑えることが望ましい。



【文献】 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物 37-50 / 谷城勝弘 1999 千葉県新記録のスゲ属植物。千葉生物誌 (49)1: 12-17 / 千植誌 2003 : 831,821

【写真】 1997 栄町 谷城勝弘 (谷城勝弘)



B ミヤマジュズスゲ カヤツリグサ科

2009	B
2017	C
2023	B

Carex dissitiflora Franch.

【種の特性】 多年生草本。森林湿地性（県内では丘陵地の斜面湿地性）。葉は単葉で互生。葉幅3～7mm。小穂は長い柄があり、果胞は隔たり嘴は長い。柱頭3。全体に柔弱。風媒で重力散布。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】 市原市(1989.5.3 CBM BS-85742)及び大多喜町(1996.5.25 CBM BS-152802)で採集されている。生育地の沢沿いの斜面は薄暗く絞り水が豊富である。このような環境の所は、これまでに詳細な調査が不十分であったため

発見が遅れたと考えられる。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物：37-50 / 平田和弘 1996 ミヤマジュズスゲを見つけた話。千植誌資料 8 : 49-50 / 谷城勝弘 1996 調査会目録 : 119 / 千植誌 2003 : 841,845

【写真】 1995 市原市 谷城勝弘 (谷城勝弘)



B サツマスゲ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Carex ligulata Nees

【種の特性】 多年生草本。森林性。葉は単葉で互生。走出枝は出ない。茎の上方に多数の葉を密生。基部の鞘は暗血紫色。果胞は密毛あり。本種は中国、ヒマラヤ要素の種で、ヒマラヤ山脈を故郷とし、その分布の端が日本に及んだと考えられている。風媒で、付着散布。[H]

【分布】 本州（関東南部以西）・四国・九州。朝鮮、中国、インド。

【県内の状況】 南房総市に産することが古くから知られている。山頂付近に複数の小群落の形成箇所がある。近年、周辺域にも点在することが明らかになった。

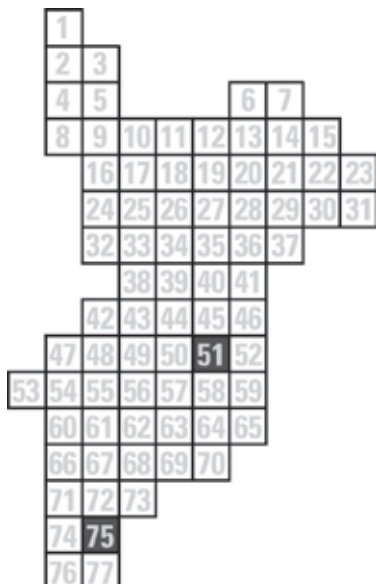
本種分布の北限地は南房総市である。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 小山鉄夫 1958 カヤツリグサ科について. 千植誌 1958 : 172-194 / 千植誌 1958 : 411 / 新千植誌 1975 : 457 / 千植誌 2003 : 854,848

【写真】 1996 南房総市 大場達之 (谷城勝弘)

Carex ligulata Nees 1999.05.21 千原町大井田



B アサマスゲ カヤツリグサ科

2009	C
2017	C
2023	B

Carex lithophila Turcz.

【種の特性】 多年生草本。湿地性または草党性。葉は単葉で互生。高さ 30 ~ 40cm、地下に長い根茎をもつ。果胞の表面は無毛、茎は花後著しく伸長する。風媒で、水散布。[H]

【分布】 本州。朝鮮、中国北部。

【県内の状況】 県内では初め印旛沼の低湿地で発見された（1988.4.30, CBM BS-030272）。その後、東庄町、香取市に複数の群生箇所が確認された。日本での既知記録は利根川上流の浅間山麓であり、本種は利根川上流部起源型（谷城 1995）に属す。満潮時には感潮域となる利根川河口堰の下流側には生育しない。

【保護対策】 群生地での刈り取りを継続することによって、ヨシ群落の遷移の進行を抑えるとともに、生育地周辺の河川敷を保全することが望ましい。

【文献】 谷城 1995 千葉県のスゲ属植物. 新版千葉県の生物 37-50 / 谷城勝弘 1999 千生誌 (49)1: 12-17 / 千植誌 2003 : 829 / 谷城勝弘 2005 千生誌 55(1): 9-16

【写真】 2006.5.19 成田市 谷城勝弘 (谷城勝弘)



B エゾツリスゲ カヤツリグサ科

2009	A
2017	A
2023	B

Carex papulosa Boott

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で互生、灰緑色を帯び、基部の葉鞘はわら色。風媒で水散布。高さ 30～50cm。小穂は 2～3 個あって、頂小穂は雄性、側小穂は雌性で長い柄があって下垂する。湿地性。ホソバノヨツバムグラ大形スゲ群団。[HH]

【分布】 北海道・本州（中部以北）・九州に稀。国内では隔離的に分布している。朝鮮、ウスリー。

【県内の状況】 多古光湿原で確認され（1987.5.5 CBM BS-145403）、その後この湿原を含む流域の詳細な調査により栗山川沿いの湿地にも点在することが判明した。湿原内には特に高密度で生育している。冬季の刈り取り範囲が激減しており、ヨシが密に繁茂した所では生育量が減っている。

【保護対策】 刈り取りによってヨシの純群落への移行とセイタカアワダチソウなどの大型多年草の侵入が抑えられ、小型の草本類の生育が維持されてきた。刈り取りを継続し、生育環境を維持することが望ましい。

【文献】 谷城勝弘 1987 栗山川中流部の湿原。千葉県自然環境保全地域等適地調査報告書：265-297。／伊藤至 1988 千葉県の新記録エゾツリスゲとヌマクロボスゲ。レポート日本の植物 37：165／谷城 1990 調査会目録：114／谷城勝弘 1991 調査会目録：167／岩瀬・谷城 1992 千葉県多古町次浦の栗山川沿い湿地の植物群落。千葉生物誌 4(21)：53-56／谷城勝弘 1993 調査会目録：249／岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原。千葉県自然環境保全学術調査報告書：7-56／谷城勝弘 1995 調査会目録：114／谷城 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物：37-50／千植誌 2003：844,846。／千植写真 2005：360。／岩瀬・谷城・市原・久保田・野口 2007 栗山川中流部河川敷の植物と植物群落。千葉生物誌 57(1,2)：39-45

【写真】 2004.5.4 多古光湿原 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B マメスゲ カヤツリグサ科

2009	C
2017	D
2023	B

Carex pudica Honda

【種の特性】 多年生草本。森林性または湿地性。葉は単葉で互生。花序は葉よりはるかに低く、小穂はすべて根生状。風媒で、重力散布。[H]

【分布】 本州にやや稀。

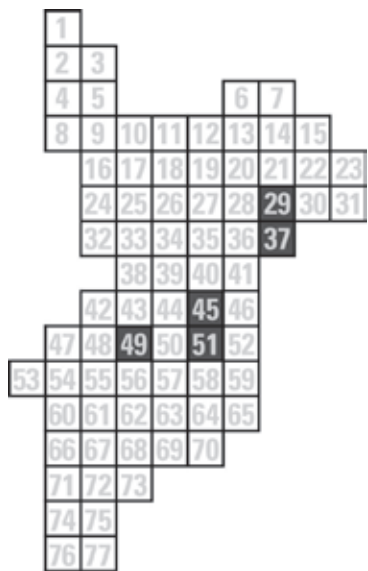
【県内の状況】 県内では初め横芝光町の乾草沼の湿地林で確認された（1989.4.23 CBM BS-91732）。九十九里浜平野南部一帯の長生村、茂原市、大網白里市の湿地にも点在する。柏市に数個体が生育する。

【保護対策】 生育地の湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 谷城勝弘 1990 調査会目録：112／谷城勝弘 1991 調査会目録：163／谷城勝弘 1993 調査会目録：248／谷城勝弘 1995 調査会目録：117／谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物：37-50／谷城・細川・伊藤・小野沢・山田・野口・久保田 1996 乾草沼。千葉県自然環境保全学術調査報告書：11-101／千植誌 2003：838,826

【写真】 2011.5.5 横芝光町 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B コカンスゲ カヤツリグサ科

2009	C
2017	C
2023	B

Carex reinii Franch. & Sav.

【種の特性】多年生草本。単葉。小穂は雄雌性。果胞は熟しても花軸に対して開かない。風媒で、重力散布。[H]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】古くは清澄山で採集された標本がある(1956.4.15 CBM BS-152460) が、現在は清澄山系で確認されない。富津市にまとまった群落がある。

【保護対策】現生育地の環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：841,845

【写真】2013.5.19 富津市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B アブラシバ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Carex satsumensis Franch. & Sav.

【種の特性】多年生草本。山地の荒れた裸地または河畔の砂礫地に生える。細長い地下走根があり、葉は単葉で互生。小穂は茶褐色を帯びてべたつく。風媒で、重力散布。[H]

【分布】本州・四国・九州。台湾、フィリピン、インド。

【県内の状況】船橋市(1977.5.19 HCM) と市原市に生育が知られる。船橋市は人口集中による土地の改変が著しく、生育地は消滅したと思われる。市原市では数個体が生育している。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】吉川代之助 1977 「新版千葉県植物誌」に加えるアブラシバとタチシオデ。植物採集ニュース 93：113 / 吉川代之助 1979 船橋市野外植物目録 / 谷城勝弘 1992 調査会目録：163 / 谷城勝弘 1995 千葉県のスゲ属植物。新版千葉県の生物：37-50 / 平田・田辺 1996 大福山周辺の自然環境。千葉県自然環境保全学術調査報告書：217-225 / 谷城勝弘 1996 調査会目録：118 / 千植誌 2003：832,823。 / 千植写真 2005：371

【写真】1995.6.11 市原市 谷城勝弘
(谷城勝弘)



B アズマナルコ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

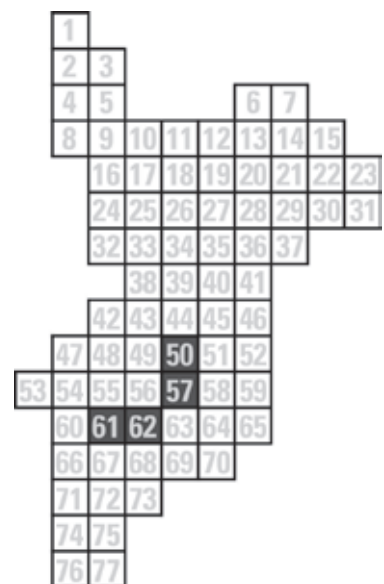
Carex shimidzensis Franch.

【種の特性】 多年生草本。山地の湿地性。葉は単葉で互生。茎は太く基部は肥厚する。果実の熟期は5月下旬から6月で、他のスゲ類より遅れる。風媒で重力散布。[H]

【分布】 北海道・本州・九州。

【県内の状況】 県内では初め市原市で確認され（1995.6.11 CBM BS-92886）、後に清澄山系、高宕山系を含む房総丘陵の湿潤な斜面や川沿いに複数の生育地が確認された。本種は類似した環境に生育するテキリスゲ *C. kiotensis* Franch. et Sav. に似ており、混同されることが多い。群生して生える所はなく個体数は限られる。

【保護対策】 斜面湿地や細流沿いの環境を良好に維持することが望ましい。



【文献】 谷城勝弘 1996 調査会目録：118 / 谷城勝弘 1999 千葉県新記録のスゲ属植物. 千葉生物誌 49(1): 12-17 / 千植誌 2003: 831,821

【写真】 2006.5.13 君津市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B コップモエギスゲ カヤツリグサ科

2009	
2017	C
2023	B

Carex tristachya Thunb. var. *pocilliformis* (Boott) Kük.

【種の特性】 小型の多年生草本。高さ、10～40cm。匍匐枝は出さない。基部の鞘は褐色で繊維状に分解する。雄小穂は著しく細く、雄花穎はコップ状。果胞は小さく、2.5～3mm。花の数は少なく、数個。雌花穎の芒は短い。花期は、4月から6月。風媒で重力散布。山地の草地に生育する。

【分布】 本州。

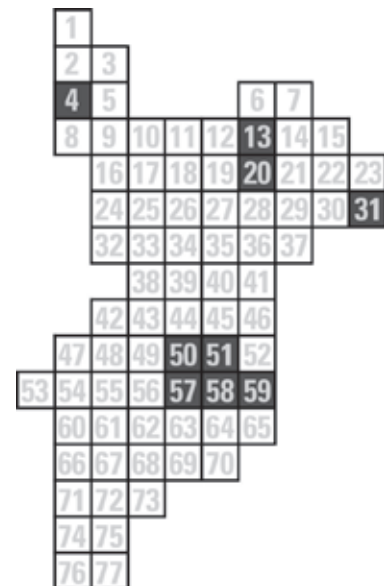
【県内の状況】 主に銚子市に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975:458 / 千植誌 2003:840 / 日本カヤツリグサ科植物図譜 2011 334

【写真】 1991.4.28 岬町 谷城勝弘

(天野誠)



B キンガヤツリ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Cyperus odoratus L.

【種の特性】一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で水散布。小穂の各小花間に関節がある。穂は熟して黄褐色となる。果実は扁平で倒卵形。湿地性。[H]

【分布】本州（関東地方）・四国・琉球、小笠原。

【県内の状況】県内における従来の記録は本種とその近縁種を区別しなかったため多数の記録があるが、県北部と利根川流域に記録される大多数のものはホソミキンガヤツリ *C. engelmannii* Steud. である。キンガヤツリの県内における生育地は館山市のみを確認している。古くはキンガヤツリが利根川流域にも生えていた可能性は否定できないが標本は見出せない。

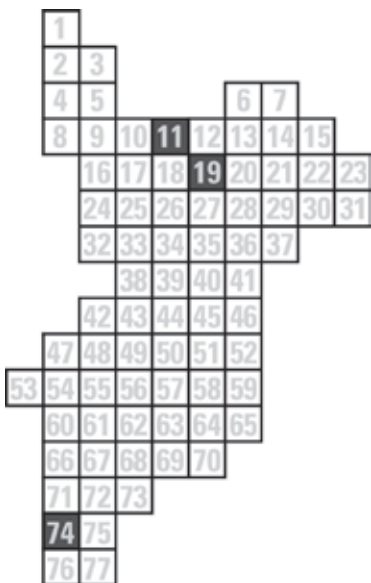
【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958 : 413 / 伊藤至 1971 千葉市内のムツオレガヤツリとウラギク. 植物採集ニュース 53 / 伊藤至・五十嵐幸 1971 房

総植物図譜キンガヤツリ. 千葉生物誌 53 / 千植誌 1975 : 459 / 斉藤吉永 1988 利根川河川敷のキンガヤツリ. レポート日本の植物 35 / 斉藤吉永 1989 千葉県下のキンガヤツリ. 千葉生物誌 38(2) : 57 / 千植誌 2003 : 895

【写真】2008. 11. 29 館山市大場達之

(谷城勝弘)



B ウキミガヤツリ カヤツリグサ科

2009	
2017	
2023	B

Cyperus pacificus (Ohwi) Ohwi var. *margoflatus* S.Fujii

【種の特性】一年生草本。花序は頭状。小穂は狭卵形、長さ2~7mmで扁平、多数の小花を2列につける。鱗片は卵円形で長さ1.5~1.7mm、薄膜質、鈍頭。瘦果は長楕円形で長さ0.8~1mm、2稜あって稜上には膨れた翼状のつくりがある。[H]

【分布】本州、四国。朝鮮。

【県内の状況】東金市、茂原市、睦沢町、いすみ市など水位の変動の顕著な溜め池において、秋季の干上がった時期に多数個体が一斉に発生する。

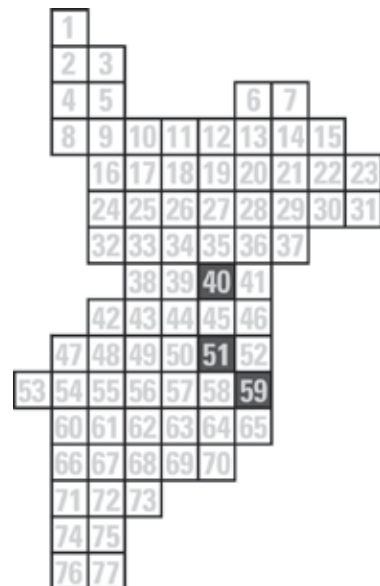
【保護対策】溜め池を保全し、本種の生育に適した環境を維持することが望ましい。

【文献】Shinji Fujii, 2016. A New Variety of *Cyperus pacificus* (Ohwi) Ohwi (Cyperaceae). Acta Phytotax. Geobot. 67(2):123-126

【写真】2004.10.2 睦沢町

谷城勝弘

(谷城勝弘)



B コツブヌマハリイ カヤツリグサ科

2009	B
2017	C
2023	B

Eleocharis parvinux Ohwi

【種の特性】 多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。果実は1～1.2 mm。刺針は4個で硬く直立し、果実の3倍になる。風媒で水散布。[HH]

【分布】 本州（関東地方）。

【県内の状況】 手賀沼、印旛沼流域を中心とする利根川水系及び茂原市～長生村に生育する。

【保護対策】 旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な環境を保全し、再生を促すことも考えられる。現生育地の環境を良好に維持する。

【文献】 千植誌 1958 : 415 / 新千植誌 1975 : 460 / 千植誌 2003 : 867,872

【写真】 2007.5.5 成田市 谷城勝弘 (谷城勝弘)



B マシカクイ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Eleocharis tetraquetra Nees

【種の特性】 多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。シカクイに似るが、茎は真四角で根茎は短く這う。小穂の表面はシカクイよりも滑らか。熟期は9月下旬から10月で、ハリイ属の中では最も遅い。風媒で水散布。[HH] ホソバナヨツバムグラ大形スゲ群団。

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮、台湾、インドシナ半島、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】 県内では、初め成東・東金食虫植物群落で発見された（1988.9.30 CBM BS-144455）。後に酒々井町、多古町、横芝光町で確認された。横芝光町は生育地の休耕地が耕作水田に転用となり個体は消滅したが、坂田池湿地植物園に移植されて育成されている。酒々井町では放棄田の遷移が進んで個体数は減少している。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 岩瀬・谷城 1987 成東・東金食虫植物群落保護増殖事業報告書 / 岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原。千葉県自然環境保全学術調査報告書 : 7-56 / 谷城・小野沢 1994 坂田城跡の自然。千葉県自然環境保全学術調査報告書 : 9-87 / 岩瀬徹 1996 調査会目録 : 2 / 千植誌 2003 : 877 / 谷城勝弘 2004 栗山川中流部の湿原の植物。千葉県自然環境保全学術調査報告書。千葉県環境生活部自然保護課 7-29

【写真】 2003.9.14 山武市 谷城勝弘 (谷城勝弘)



重要保護

B

B ミツカドシカクイ カヤツリグサ科

2009	B
2017	A
2023	B

Eleocharis wichurae Boeck. f. *petasata* H.Hara

【種の特性】多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。シカクイに似るが、稈は三稜。風媒で水散布。[HH]

【分布】北海道・本州。中国、カナダ。

【県内の状況】県内では初め多古光湿原で確認された(1989.6.15 CBM BS-142939)。後に旭市で確認された(1991.11.2 CBM BS-91821)。生育個体数は少なく、群落の遷移の進行により消滅寸前である。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】谷城勝弘 1990 調査会目録：121 / 谷城勝弘 1991 調査会目録：177 / 岩瀬・谷城・小野沢 1993 栗山川中流部の湿原。千葉県自然環境保全学術調査報告書：7-56 / 谷城勝弘 1993 調査会目録：252 / 谷城勝弘 1995 調査会目録：118 / 千植誌 2003：877 / 谷城勝弘 2004 栗山川中流部の湿原の植物。千葉県自然環境保全学術調査報告書。千葉県環境生活部自然保護課 7-29

【写真】1991.9.19 旭市 谷城勝弘
(谷城勝弘)



B コアゼテンツキ カヤツリグサ科

2009	C
2017	C
2023	B

Fimbristylis aestivalis (Retz.) Vahl

【種の特性】一年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。メアゼテンツキに似るが、小穂は小型で卵形、花柱脚は無毛。風媒で、水散布。[Th]。

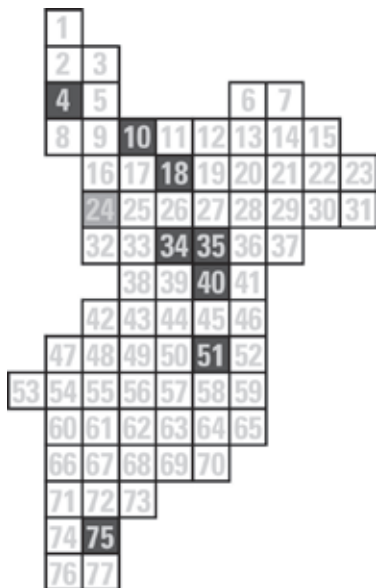
【分布】本州に稀。台湾、中国、インド、マレーシア、オーストラリア。

【県内の状況】我孫子市、印西市、東金市、長生村、千葉市などに生育するが、個体数は少ない。従来の記録は他のアゼテンツキ類を誤同定したものが多く含まれる。既知の生育地のほとんどは現在消滅している。我孫子市、東金市には比較的多い。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958：415 / 新千植誌 1975：461 / 谷城勝弘 1995 印旛沼を中心とする地域のテンツキ属植物。印旛沼—自然と文化—：19-24 / 千植誌 2003：865,869

【写真】2007.10.21
我孫子市 谷城勝弘
(谷城勝弘)



B イヌノハナヒゲ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Rhynchospora chinensis Nees & Meyen

【種の特性】 多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。オオイヌノハナヒゲに似るが刺針はそれより短く、密に上向き粗造。風媒で付着散布。[H] ホシクサーコイヌノハナヒゲ群団。

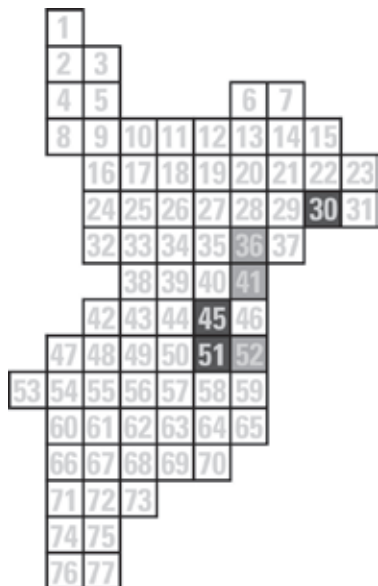
【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、台湾、インド、マレーシア。

【県内の状況】 県内では長生村～茂原市の湿地が現存する唯一の生育地である。長生村では、多数個体が高密度で生育していた。この群落はオオイヌノハナヒゲ、ヒメイヌノハナヒゲ、イトイヌノハナヒゲ、ゴマクサ、ヒメナエ、アイナエ、コモウセンゴケ、トキソウなど本県での希少種を複数交え、貴重な群落であった。その場所が工場用地として埋め立てられることになり、群落を含む表土の一部を近隣の長生村内に移植し、維持管理することになった。

【保護対策】 湿地の環境を良好に管理、維持することが望ましい。湿地性植物の保護には、刈り取りなどの人為的管理が不可欠である。適切な管理体制をつくるのが望ましい。

【文献】 谷城勝弘 1991 調査会目録：184 / 岩瀬・谷城 1992 千葉県長生村藪塚に残存する湿地群落：11 / 谷城勝弘 1992 調査会目録：171 / 谷城勝弘 1993 調査会目録：253 / 谷城勝弘 1994 調査会目録：122 / 野口昭造 1996 調査会目録：114 / 岩瀬・谷城・野口・久保田 1998 長生村湿地帯の植物。千葉生物誌 48(1)：6-22 / 千植誌 2003：859,850

【写真】 1990.8.28 長生村 谷城勝弘 標本 (谷城勝弘)



B ヒメイヌノハナヒゲ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Rhynchospora faberi C.B.Clarke f. *umemurae* Ohwi & T.Koyama

【種の特性】 多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。小穂は5～6mm。果実は広倒卵形で長さ2mmくらい。刺針は6本でやや太く、上向粗造。風媒で付着散布。[H] ミミカキグサーイヌノハナヒゲ群綱。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。

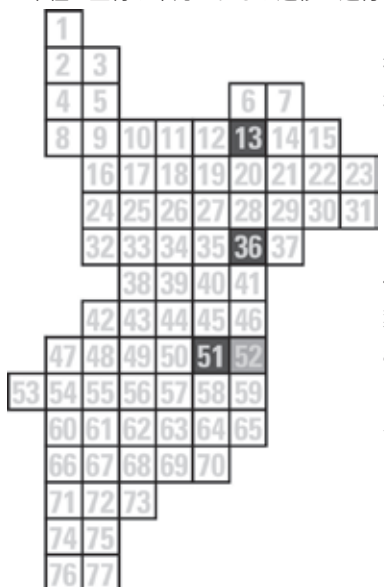
【県内の状況】 千葉県植物誌(1958)に茂原市、長生村の記録がある。近年、成東・東金食虫植物群落、長生村に多産することが確認されている。茂原市～長生村には、改変されることなく残されてきた小湿地が点在しており、このような所に本種の生育が確認されるが遷移の進行に伴って衰退しているところが多い。

【保護対策】 現生育地の環境を良好に維持することが望ましい。旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるため、生育可能な湿地を保全することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958：417 / 千植誌 1975：462 / 岩瀬・谷城・野口・久保田 1998 長生村湿地帯の植物。千葉生物誌 48(1)：6-22 / 千植誌 2003：859,850

【写真】 1990.8.28 茂原市 谷城勝弘 線画

(谷城勝弘)



B ヒメホタルイ カヤツリグサ科

2009	C
2017	C
2023	B

Schoenoplectiella lineolata (Franch. et Sav.) J.Jung et H.K.Choi

【種の特性】 多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。根茎は細長くは、小穂は細長く鋭頭で1個。風媒で、水散布。[HH]

【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。台湾。

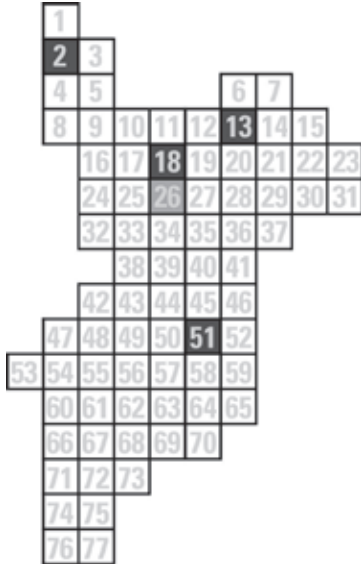
【県内の状況】 県内の多数地点に記録されるが、ホタルイ (*S. hotarui* Holub) やイヌホタルイ (*S. juncooides* Palla) の小型個体を誤同定したものが多く。印旛沼周辺と九十九里平野南部で確認される。湿地の放置、水田地帯での農業の多用により激減したと考えられる。

【保護対策】 生育可能な環境を保全することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958 : 418 / 新千植誌 1975 : 463 / 千植誌 2003 : 882,875

【写真】 2009.9.23 成田市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B タイワンヤマイ カヤツリグサ科

2009	C
2017	C
2023	B

Schoenoplectus wallichii (Nees) T.Koyama

【種の特性】 一年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。小穂は狭い卵形、鱗片の中肋は緑色。柱頭2。果実の長さ2mm、刺針4本。風媒で、水散布。[HH]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】 県内では初め栄町で確認され(1988.9.25 CBM BS-133803)、その後県北部の主に休耕田に点在することが知られた。確認地の多くは後の環境の変化や耕耘により消滅し、現存地は極めて少ない。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 谷城勝弘 1993 調査会目録 : 254 / 千植誌 2003:882,875

【写真】 2008.8.26 大多喜町 谷城勝弘 (谷城勝弘)



B ヒゲアブラガヤ カヤツリグサ科

2009	C
2017	C
2023	B

Scirpus asiaticus Beetle

【種の特性】 多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。花序は頂生。小穂は球状または広楕円形。風媒で、風散布。[HH]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 茂原市、長生村、大網白里市、横芝光町などの九十九里浜平野域の他、成田市、柏市にも記録される。茂原市から長生村の湿地には複数の多産箇所があるが、近年の宅地造成に伴う土地の改変で失われる所が多い。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

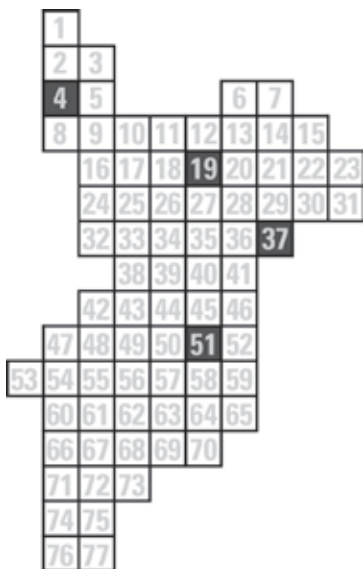
【文献】 千葉植誌 1958 : 417 / T, Koyama 1958 Taxonomic Study of the Genus *Scirpus* Linne. J. of the Faculty of Science University of Tokyo XII (4-6) : 271-366 / 谷城・細川・伊藤・小野沢・山田・野口・久保田 (1996) 乾草沼。千葉県自然環境保全学術調査報告書 : 11-101 / 岩瀬・谷城・野口・久保田 1998 長生村湿地帯の植物。千生誌 48(1) : 6-22 /

千植誌 2003 : 884

【写真】 2005.7.23

茂原市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B コマツカサスキ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Scirpus fuirenooides Maxim.

【種の特性】 多年生草本。湿地性葉は単葉で互生。マツカサスキに似るが、小穂塊の数が少なく、鱗片は卵形で幅 1 ~ 1.3 mm あり、頂花序は 1 回分岐するのみである。。風媒で、水散布。[HH]

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 県内に複数の記録があるが、小型のマツカサスキ *S. mitsukurianus* Makino を誤同定したものが含まれる。確認し得た標本は次のものである。八街市 (1932.9.26 CBM BS-1031)、山武市 (1933.8.19 CBM BS-1335)、成田市 (1950.7.23 CBM BS-5590)、市原市 (1991.10.18 CBM BS-33694)、成田市 (1992.8.8 CBM-BS 190199)。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958 : 418 / 千植誌 1975 : 462 /

千植誌 2003 : 884,885 / 千植写集 2005 : 371

【写真】 1989.9.23 八街市 谷城勝弘 標本

(谷城勝弘)



B アイバソウ カヤツリグサ科

2009	
2017	C
2023	B

Scirpus wichurae Maxim.

【種の特性】多年生草本。葉は単葉。アブラガヤform. *concolor* (Maxim.) T. Koyama に似るが、小穂は柄の先に単生する。風媒で、水散布。山地性要素。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】県北の台地や丘陵地の斜面下の小湿地等に点在する。柄の先に小穂が2〜3個集着するアブラガヤと混生することはない。

【保護対策】斜面下方の湿地の環境を維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 884,885

【写真】2007.8.26 君津市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B カガシラ カヤツリグサ科

2009	B
2017	A
2023	B

Scleria caricina (R.Br.) Benth.

【種の特性】小型の一年生草本。湿地性。日当たりの良い裸出した地表に生える。葉は単葉で互生。風媒で、水散布。ミミカキグサイヌノハナヒゲ群目。[Th]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・琉球。台湾、熱帯アジア。

【県内の状況】九十九里平野の湿地を中心に多産したと推測されるが、開発と圃場整備に伴う環境の改変で生育の適地となる湿地が急減した。現在では少数個体が確認されるにすぎない。

【保護対策】生育地の湿地環境を良好に維持することが望ましい。湿地群落の遷移の進行を抑えるために刈り取りなどの管理を継続することが望ましい。

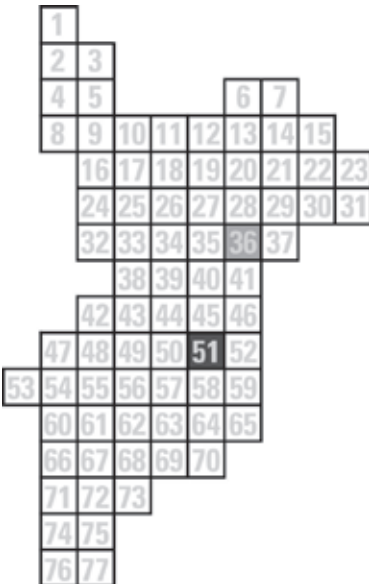
【文献】千植誌

1958 : 415 / 新千植誌 1975 : 463 / 千植誌 2003 : 856,898

【写真】2003.9.19 山武市

谷城勝弘

(谷城勝弘)



B コシンジュガヤ カヤツリグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Scleria parvula Steud.

【種の特性】 多年生草本。湿地性。葉は単葉で互生。葉鞘は翼がある。果実には網状隆起がある。風媒で、水散布。[H]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国、インド、マレーシア。

【県内の状況】 九十九里平野のほか県北の低湿地に複数の記録がある。本種の生育地の多くが環境の変化と土地の改変によって失われた。

【保護対策】 1990年代までは多古光湿原、横芝光町に多産箇所があった。旧生育地には埋土種子が残っているので生育可能な環境を創出することが望ましい。表土の攪乱や大型草本の刈り取りを行うことが発芽を促す有効な手法であろう。

【文献】 千植誌 1958 : 418 / 新千植誌 1975 : 463 / 千植誌 2003 : 857 / 千植写真 2005 : 371

【写真】 2005.7.23 長生村 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B イヌノヒゲ ホシクサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Eriocaulon miquelianum Körn.

【種の特性】 湿地に生える一年性草本。葉の中部幅は2～3 mm。花茎は葉より著しく長い。総苞片は披針形で外片は頭花の2～3倍長い。花苞の上縁に2細胞からなる短毛がある。[Th]

【分布】 本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】 県内に複数の記録があるが、ニッポンイヌノヒゲやイトイヌノヒゲを誤同定したものが多く含まれる。古くは茂原市での標本がある(1957.9.29, CBM BS-8459)。近年、香取市で記録された標本(2000.9.23 CBM

BS-175533)は、本種に酷似するが萼が黒色を帯びるイヌノヒゲモドキ *E. sekimotoi* Honda の可能性がある。

【保護対策】 生育地を良好な環境に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 711

【写真】 2011.9.23 銚子市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B クロホシクサ ホシクサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Eriocaulon parvum Körn.

【種の特性】 小型の一年生草本。湿地性。(湿地、休耕田)。葉は単葉で束生。虫媒で水散布。頭花は帯黒色。萼は2浅裂。雌花の花弁の内面に長毛がある。花床は無毛。子房室数と柱頭数は2と3を混生。[Th] ミミカキグサーイヌノハナヒゲ群目。

【分布】 本州・四国・九州・琉球。朝鮮。

【県内の状況】 茂原市、長生村、山武市など九十九里平野での生育地の記録と標本がある。茂原市には群生地があった。群生箇所では主としてコモウセンゴケ、ヒメナエ、アイナエ、ヒメイヌノハナヒゲ、アブラガヤ、ヒゲアブラガヤなどと混生している。宅地化の進行にともなって、生育地の多くが造成や盛り土によって消滅している。

【保護対策】 生育地の環境を維持することが望ましい。また、旧生育地には埋土種子として残っている可能性があるので、生育可能な環境を保全し、再生を促すことが重要である。



【文献】 千植誌 1958 : 407 / 新千植誌 1975 : 453 / 谷城 勝弘 1998 クロホシクサ . 生物分科会だより 56. 千葉県高等学校教育研究会 理科部会 1 / 千植誌 2003 : 711,700 / 千植写真 2005 : 219

【写真】 2007.9.23 茂原市 谷城勝弘

(谷城勝弘)



B ドロイ イグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Juncus gracillimus (Buchenau) V.I.Krecz. & Gontsch.

【種の特性】 多年生草本。水中や湿地の泥中に生える。葉は鱗片状で互生。風媒で水散布。花被片は朔果より短く、先端は尖らない。[HH] ドロイ群集。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。サハリン、朝鮮、中国、シベリア東部。

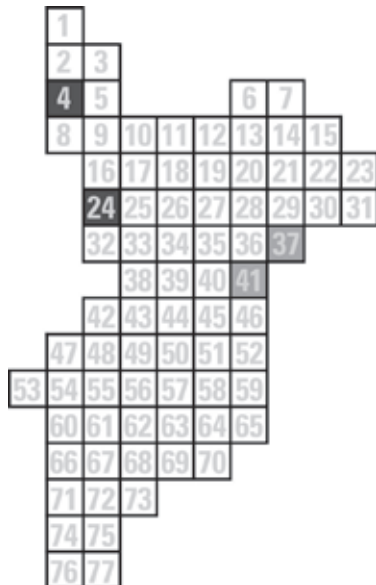
【県内の状況】 江戸川放水路では割合多く見られ、ほかには九十九里浜平野の木戸川や山武市に生育する。

【保護対策】 河川氾濫原の自然植生を保全することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 705, 696

【写真】 2001.7.8 市川市 標本 : CBM BS-189462

(木村陽子)



B セトガヤ イネ科

2009	B
2017	A
2023	B

Alopecurus japonicus Steud.

【種の特性】一年草生草本。春耕前の水田に多い。稈高は20～60cm。葉は白緑色。スズメノテッポウよりやや大形。苞穎は同長で、長さ約5mm。葯は白色で芒の長さ10～12mmと長く目立つ。花期は4～5月。

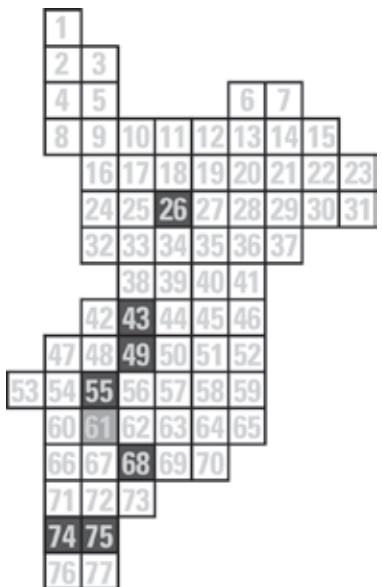
【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。中国南部。

【県内の状況】いすみ市、南房総市、鴨川市、四街道市、君津市、館山市（2008）。スズメノテッポウと誤認されている可能性もある。千葉県は本種の分布の東限に当たるせいなのか稀。

【保護対策】生育地の湿地や水田の保全。田の耕起を行う。

【文献】千植誌 2003：742, 735

【写真】2008.4.13
館山市 大場達之
(木村陽子)



重要保護

B

B ヒメタイヌビエ イネ科

2009	
2017	B
2023	B

Echinochloa crus-galli (L.) P.Beauv. var. *formosensis* Ohwi

【種の特性】中型の一年草生草本。高さ40～50cm。茎は直立する。葉は線形で、幅5～8mm。タイヌビエに比べて小さい。小穂の長さは3mm、小穂の第一包穎は、半分ほどの長さ、毛は少ない。風媒で、重力散布。水田に生育する。[Th]

【分布】本州・四国・九州・琉球。中国、東南アジア、インド。

【県内の状況】野田市で1998年10月7日に採集された標本（CBM BS-142429）と市原市で1991年8月2日に採集された標本（CBM BS-304597）と長南町で1960年に採集された標本（CBM BS-143458）がある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003:767 / 増補日本イネ科植物図譜 1996 574

【写真】1998.10.7 野田市 標本：CBM BS-142429

(天野誠)



B ウキガヤ イネ科

2009	
2017	B
2023	B

Glyceria depauperata Ohwi var. *infirmata* (Ohwi) Ohwi

【種の特性】 中型の多年生草本。高さ 30～50cm。葉は線形で、葉舌は 2～5mm。小穂は 15mm～40mm、小花は 7～16 個。ヒメウキガヤより小花が長く、4～5mm。花期は、5月～7月。風媒で、重力散布。水辺に生育し、時に水面に浮く。[HH]

【分布】 本北海道・本州。千島（南部）、中国（北部）。

【県内の状況】 佐倉市などに分布する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 762 / 改訂新版日本の野生植物 1 2016 54

【写真】 1989.7.23 佐倉市 標本: CBM BS-350581

(天野誠)



B アズマガヤ イネ科

2009	C
2017	C
2023	B

Hystrix longearistata (Hack.) Honda

【種の特性】 太い根茎のある多年生草本。花序の中軸に斜上する軟毛が密。稈の節部にも下向きの軟毛がある。葉身は基部近くでよじれ、上面は下を向き白緑色。下面は上を向き緑色で光沢がある。苞穎は針状で宿存性で残る。護穎は長さ 9～13mm でやや革質、先端に 10～22mm の芒がつく。花期は 5～7月。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮北部。

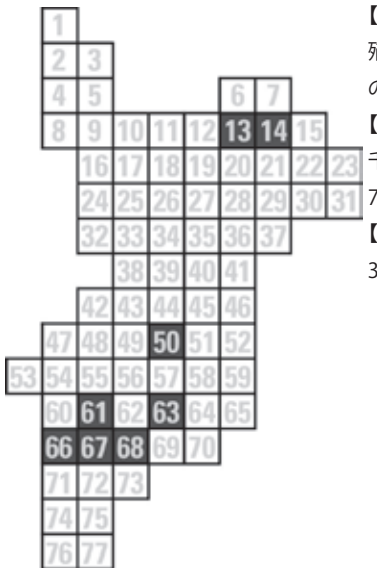
【県内の状況】 鋸南町、神崎町、香取市、富津市、南房総市など、産地の数は少ないが、群生するところもある。

【保護対策】 日当たりの良い林縁などでは繁殖が盛んであり、結実も良好なので、産地の保護を図れば、絶滅は免れる。

【文献】 伊藤至 1964 鋸山のアズマガヤ. 千葉県生物誌 14(2): 49 / 千植誌 2003: 757, 749

【写真】 2012.5.3 市原市 標本: CBM BS-327866

(木村陽子)



B ミノボロ イネ科

2009	C
2017	C
2023	B

Koeleria pyramidata (Lam.) P.Beauv.

【種の特性】 多年草。草原に生える。花軸と稈の上部に軟毛が密。円錐花序は枝が短く扁平な穂状花序にみえ、長さ5～15cm。淡緑色。千葉県産の小穂は長さ4mm、3小花からなり、強く扁平で、第1苞穎は3mm、第2苞穎は4mm、護穎は2.5～4mm。ミノボロは変異の大きい種で、基本種は小穂が7～10mmと大きく、日本在来品（サトミノボロ）は4mm程度であるので、学名の再検討が必要かもしれない。千葉県産は、今のところ帰化系統はみられない。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。ヨーロッパ、アジア、北米、アフリカ。

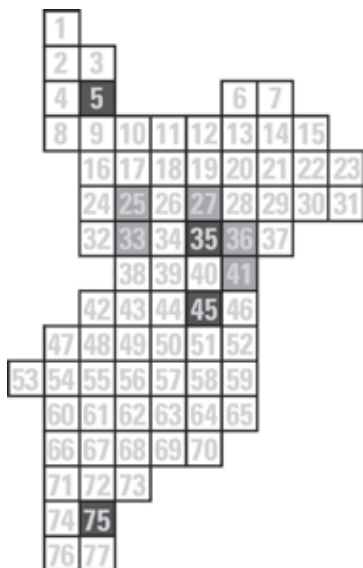
【県内の状況】 県北部。古い記録はあるが、近年では1995年6月12日に習志野市で行われた調査での標本と1996年君津市、2002年の記録があるのみである。

【保護対策】 かつてのカヤ刈場、ススキ草地の復活、保全。

【文献】 千植誌 2003 : 729, 723

【写真】 1969.6.22 岐阜県 標本 : CBM BS-208399

(木村陽子)



B ヌマガヤ イネ科

2009	B
2017	B
2023	B

Molinia japonica Hack.

【種の特性】 多年生草本。明るい湿地や池の畔に生育する。葉は単葉で互生。風媒で風散布。40cmにもなる大きな開いた花序を持つが、果期になると中軸によりそう。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。サハリン、南千島、朝鮮、中国。

【県内の状況】 近年、野田市、柏市、白井市、船橋市、茂原市などで、生育が確認されている。

【保護対策】 生育地の湿地が無くならないように保護し、乾燥化を防ぐよう、地下水位を保つことが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 743, 735

【写真】 2005.9.28 柏市 木村陽子

(木村陽子)



B アワガエリ イネ科

2009	
2017	X
2023	B

Phleum paniculatum Huds.

【種の特性】 中型の一年生草本。茎は立ち上がり、1つの穂を付ける。穂はオオアワガエリより短くて太い。風媒で、風散布。花期は、5月～6月。草原に生育する。[Th]

【分布】 本州・四国・九州、中国、ロシア、地中海沿岸。

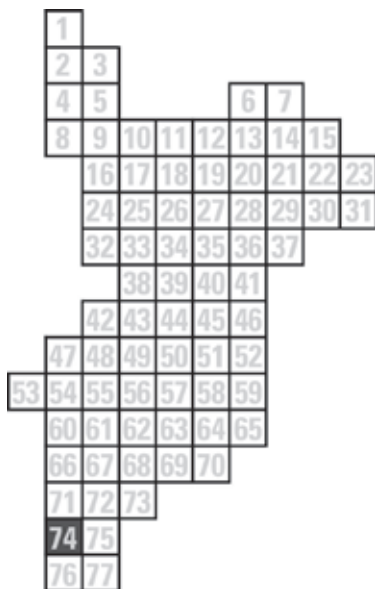
【県内の状況】 館山市で採集されている。

【保護対策】 生育地の草原を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003: 742

【写真】 1975.5.15 愛知県 標本：
CBM BS-210440

(天野誠)



B キボウシノ イネ科

2009	
2017	C
2023	B

Pleioblastus kodzumae Makino

【種の特性】 中型の竹笹類。高さ1～2m。枝を分枝する。稈鞘は無毛。葉鞘も同様。葉身は狭披針形。葉の上面は短毛が密生し、裏面は軟毛が密生する。風媒で、重力散布。海岸付近の林縁に生育する。[M]

【分布】 本州。

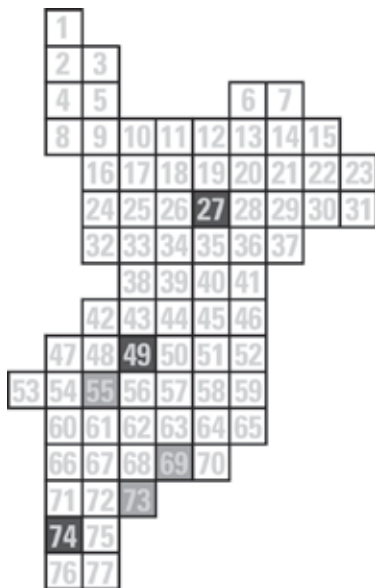
【県内の状況】 千葉県各地に散在する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975 474 / 日本タケ科植物図鑑 1996 173 / 千植誌 2003:808

【写真】 1937.6 鴨川市 標本：CBM BS-94066

(天野誠)



B ハマヒエガエリ イネ科

2009	B
2017	B
2023	B

Polypogon monspeliensis (L.) Desf.

【種の特性】一年生草本。海岸に近い水湿地や河川敷に生育。稈は束生し、高さ30～80cm。葉は白緑色、葉舌は白色膜質で3～8mmあり高い。円錐花序は小穂を密生し花時はやや枝を開くが、その前後は直立する。小穂は2mm、苞穎は同長でへりに長毛があり、先端が2裂しその間から直立した芒を出し、苞穎の2～3倍の長さとなる。護穎に短い芒がある。花期は5～7月。

【分布】本州・四国・九州・琉球。ユーラシア、北アフリカの暖帯、温帯。

【県内の状況】船橋市、匝瑳市、市原市などで記録されている。

【保護対策】生育環境である海岸に近い水湿地や河川敷の保全。

【文献】千植誌 2003 : 741, 734

【写真】1959.5.31 山武市 標本:CBM BS-9929

(木村陽子)



B ヒシュウザサ イネ科

2009	
2017	C
2023	B

Sasaella hidaensis (Makino) Makino

【種の特性】中型の竹笹類。茎は、1から2m。1節より普通1本の枝が出る。稈鞘には、逆向の細毛が密生する。葉鞘は、無毛。葉身は、披針形、上面は無毛で、下面は軟毛が密生する。風媒で、重力散布。林縁に生育する。[N]

【分布】本州、四国、九州。

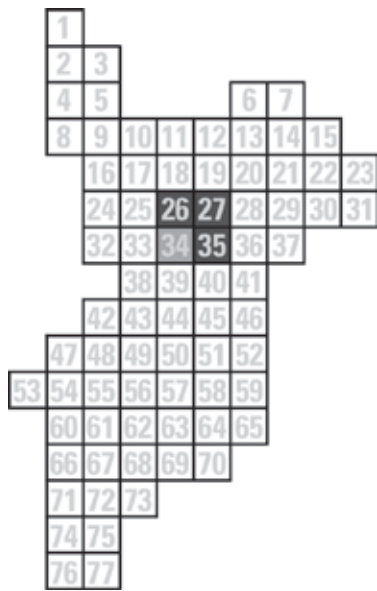
【県内の状況】主に佐倉市に分布している。

【保護対策】生育地の林を良好に維持することが望ましい。

【文献】日本タケ科植物図鑑 1996 263 / 千植誌 2003 807

【写真】1996.10.10 佐倉市 標本:CBM BS-124916

(天野誠)



B ヒゲシバ イネ科

2009	A
2017	A
2023	B

Sporobolus japonicus (Steud.) Maxim. ex Rendle

【種の特性】 日当たりの良い原野や丘陵地に生える一年生草本。稈はまばらに枝を分け、高さ10～25cm。葉身のへりに長毛がある。小穂は隙間なく並び穂状花序にみえ、1小花からなり長さ2～2.2mm、紫赤褐色で光沢があり半透明。花期は8～10月。[Th]

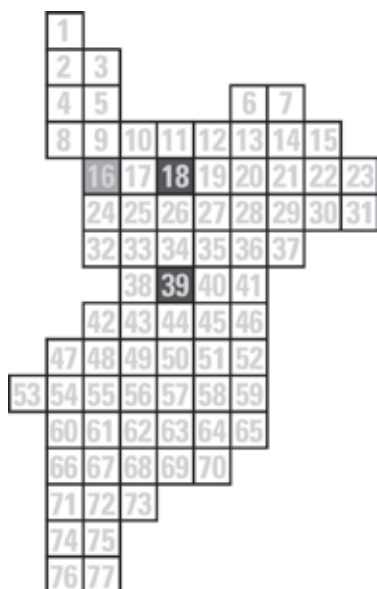
【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 県内では松戸市（1928-1931年）や成田市、長生村、茂原市に記録があるが、最近の報告はなく絶滅が懸念されていたところ、印西市の造成後の草地でウシクサと混生している本種が発見された（2001）。2008年10月には、印西市の造成地で確認された。土地を攪乱すると一斉に発芽する植物のようだ。

【保護対策】 裸地的な環境に生育するので、種を存続させるためには、時々ススキ草地などを掘り起こし、遷移の進行を止めると良い。

【文献】 本田正次 1933 松戸附近植物目録 千葉高等園藝学校學術報告第二号：61-92 / 新千植誌 1975 / 千植誌 2003：740,747

【写真】 2008 印西市
木村陽子
(木村陽子)



B ナガミノオニシバ イネ科

2009	C
2017	C
2023	B

Zoysia sinica Hance var. *nipponica* Ohwi

【種の特性】 多年生草本。海岸の風当たりの強い砂浜に生育する。風媒で水散布。葉先が硬化する。オニシバより全体細く、花序は葉鞘より抜け出る。花期は6～8月だが、千葉県南端部では、12月にも咲くことがある。海辺の塩湿地に生育する。ナガミノオニシバ群目。[HH]

【分布】 北海道（西南部）・本州・四国・九州・琉球。

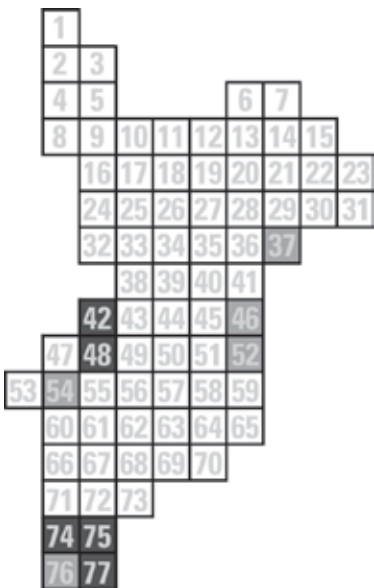
【県内の状況】 九十九里から東京湾までの海岸に生育する。

【保護対策】 開発により残り少なくなった自然海岸を保全することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：761,752

【写真】 2018.6.24 館山市 標本：CBM BS-412795

(木村陽子)



B オオミクリ ミクリ科

2009	A
2017	B
2023	B

Sparganium erectum L. var. *macrocarpum* (Makino) H.Hara

【種の特性】 多年生草本。ミクリに似るが果実は大小があり、大型のものは上部はほぼ平坦となる。牧野富太郎が市川市で採集した標本により記載した。

【分布】 本州。朝鮮、中国。ミクリ (var. *erectum*) と混同され分布の詳細は不明である。

【県内の状況】 成田市、横芝光町、茂原市、長生村などで確認され標本が得られている。詳細な調査によりさらに産地は増えると思われる。果実がミクリよりも大型になる点ではカドハリミクリ var. *coreanum* H.Hara にも似るが、カドハリミクリの果実上部は平坦にならない。ミクリ、オオミクリ、カドハリミクリの県内記録は混同している可能性があり、再検討が必要である。

あり、再検討が必要である。

【保護対策】 生育地の環境を維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 814,801 / 千植写真集 2005 : 359

【写真】

1995.7.29 成田市
谷城勝弘 標本
(谷城勝弘)



B ヤマエンゴサク ヤブケマン科

2009	B
2017	B
2023	B

Corydalis lineariloba Siebold & Zucc.

【種の特性】 小形の多年生草本。地下の塊茎から高さ 10～20cm の地上茎を 1 本伸ばし、3 出複葉の葉を 2 枚つける。花は 4～5 月。青紫色で、長さ 15～25mm。虫媒で自散布。低地遺存ブナ帯要素。丘陵の北斜面下部の湿った林に群れて生える。ケヤキ林の指標種。[G]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

【県内の状況】 千葉県北部に多く分布し。コクサギーケヤキ群集。古いスギの植林地周辺にも多い。

【保護対策】 カタクリ、キツネノカミソリ、ニリンソウなどと共生し、丘陵の北斜面下部の湿った林に群れて生える。斜面下部の湿潤な環境をふくめた斜面緑地の総合的保全を望まれる。

【文献】 千植誌 2003 : 230, 225

【写真】 2005.4.16

成田市 谷城勝弘
(大場達之/天野誠)



B フクジュソウ キンポウゲ科

2009	A
2017	A
2023	B

Adonis ramosa Franch.

【種の特性】 多年生草本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で重力散布。しばしばカタクリと同一箇所に見られるが、カタクリよりも斜面上部のやや乾いたところに見られる。日本のフクジュソウは、萼片が花弁より長いイチゲフクジュソウ *Adonis amurensis* Regelet Radde とフクジュソウ *A. ramosa* Franch の 2 種があり、前者は北方あるいは日本海側の多雪地に多く、後者は太平洋側に多い傾向がある。千葉県のフクジュソウは近景のものとともに全体に小型で開花時期が遅く、フクジュソウの中の別の変種を構成する可能性がある。北向きの夏緑林の林床に生える。低地遺存ブナ帯要素。[G]

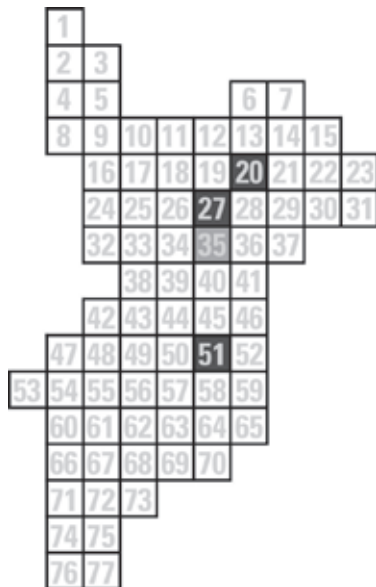
【分布】 北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】 千葉市に見られたものが有料道路建設で消滅したことが知られているが、県北部にはまだ自生地が残っている。

【保護対策】 観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。フクジュソウは園芸植物として出回っているが、千葉県自生のは前述のように、形態的に別の分類群として区別できるもので、従来の園芸品との識別は容易である。

【文献】 岩瀬徹 1982 フクジュソウの自生地を確認する。千葉生物誌 31(1-2)：27-28 / 谷城勝弘・村田威夫 1987 下総におけるフクジュソウ。千葉生物誌 36(2)：70-71 / 大場達之 1995 千葉県のフクジュソウ。千植誌資料 1：3-4 / 千植誌 2003：197, 205

【写真】 1993.3.30 成田市 谷城勝弘
(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



B アズマイチゲ キンポウゲ科

2009	B
2017	B
2023	B

Anemone raddeana Regel

【種の特性】 小型の多年生草本。葉は3出複葉で互生。虫媒で重力散布。早春3～4月に開花し、夏までには枯死するスプリング・エフェメラルである。主としてブナ帯の湿った夏緑林の下に生える。低地遺存ブナ帯要素。[G]

【分布】 北海道・本州・四国。

【県内の状況】 八街市、佐倉市、成田市、千葉市、君津市から採集されている。近年は本種の生育適地となる林縁の刈り取りが行われず、大型草本の繁茂によって消滅した所が増えている。

【保護対策】 生育地には個体数は多いが、観賞用の採取によって一挙に絶滅する可能性がある。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975：422 / 千植誌 2003：188, 205

【写真】 1989 成田市 谷城勝弘
(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



B オオバショウマ キンボウゲ科

2009	
2017	A
2023	B

Cimicifuga japonica (Thunb.) Spreng. var. *macrophylla* (Koidz.) H.Hara

【種の特性】 大型の多年性草本。90 から 120cm に達する。太い根茎は水平に伸びる。茎は枝分かれしない。葉は 1 回 3 出複葉で、小葉は腎形で、不規則な鋸歯がある。花柄はほとんどない。花に萼片はすぐにおち、雄蕊が目立つ。心皮は 1 つまたは 2 つ。虫媒で、重力散布。花期は、8 月～9 月。山地の林縁または林内に生育する。[G]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】 君津市で 2002 年 5 月 16 日に採集された標本 (CBM BS-269718) と君津市で 2009 年 10 月 16 日に採集された標本 (CBM BS- 291319) と酒々井町で 1986 年 7 月 23 日に採集された標本 (CBM BS-348609) がある。

【保護対策】 生育地の林床を保全する事が望ましい。

【文献】 千植誌 2003 186

【写真】 2009.10.11 君津市 CBM BS-291319



B カザグルマ キンボウゲ科

2009	B
2017	B
2023	B

Clematis patens C.Morren & Decne.

【種の特性】 夏緑藤本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で風散布。5～6月に大きな白い花をつける。地域によって青い花を付けるものも知られているが千葉県産は白花だけである。北向きの斜面下部の湿った林の林縁に生える。トコロクス群目。[M]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 千葉市、船橋市、富里市、山武市、君津市などから記録がある。生育の適地となる林縁が放置されて藪となっている所が増えており、アズマネザサなどの大型植物が繁茂して既に絶滅したところが多い。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 千植誌 1975: 423 / 木更津みちくさ会 1978 みちくさ 9 / 千植誌 2003: 187, 195

【写真】 1998 千葉市 大場達之 (大場達之 / 谷城勝弘 追補)



B トリガタハンショウヅル キンポウゲ科

2009	B
2017	B
2023	B

Clematis tosaensis Makino

【種の特性】夏緑藤本。葉は3出複葉で互生。花は狭鐘形、花糸は密に毛がある。虫媒で風散布。夏緑林の林縁に生える。ノイバラ群綱。[N]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

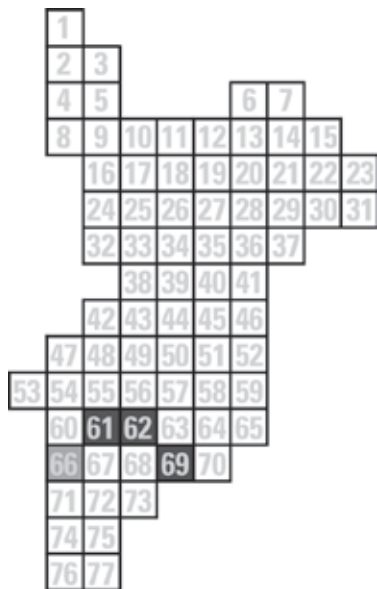
【県内の状況】清澄山、君津市、鹿野山、鋸山で記録されているが開花するような大きな個体は少ない。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1975：423 / 千植誌 2003：188, 196

【写真】1995.4.27 鋸山 大場達之

(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



B シロバナハンショウヅル キンポウゲ科

2009	B
2017	B
2023	B

Clematis williamsii A.Gray

【種の特性】夏緑藤本。葉は複3出複葉で互生。花は広鐘形、花糸はほとんど無毛。虫媒で風散布。夏緑林の林縁に生える。ノイバラ群綱。[N]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】高宕山系で発見され、市原市、富津市、大多喜町、長柄町、鋸南町などから記録されているが、その一部はトリガタハンショウヅルの誤認の可能性がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】戸部博 1975 千葉県に於けるシロバナハンショウヅルの出現とその分類学上の意味 / 新千植誌：233-237 / 千植誌

2003：188, 196

【写真】1985 奈良県 大場達之

(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



B セリバオウレン キンポウゲ科

2009	C
2017	C
2023	B

Coptis japonica (Thunb.) Makino var. *major* (Miq.) Satake

【種の特性】 林の湿った所に生える多年生草本。葉は2回3出複葉。

【分布】 本州（太平洋側）・四国。

【県内の状況】 県北部に少数の産地が知られている。標本は佐倉市（1997.3.8 CBM BS-118206）がある。佐倉市の生育地は古い栽培品に由来する逸出の可能性もある。

【保護対策】 林での過度の刈り取りに注意し、適正な環境を維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：186, 194

【写真】 2022.4.17 香取市 谷城勝弘

(大場達之/谷城勝弘 追補)



B ヒキノカサ キンポウゲ科

2009	B
2017	B
2023	B

Ranunculus extorris Hance

【種の特性】 小型の多年生草本。葉は互生で単葉、掌状に分裂し、茎や葉に長い毛が多い。虫媒で重力または鳥散布。オギーヨシ群団。ハナムグラ-オギー群集。[H]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾。

【県内の状況】 利根川水系と栗山川流域、作田川下流の湿地に生える。作田川下流では宅地造成に伴い、生育地は消滅した。栗山川中流の洪水敷には高密度に群生する地が連なる。

【保護対策】 河川洪水敷を、自然に保つことが必要である。ヨシ、オギーなどの高茎草本の刈り取りと除去を定期的に行い、腐植の蓄積を防ぐことが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：198, 206

【写真】 1999.4.18

横芝光町 谷城勝弘

(大場達之/谷城勝弘 追補)



B ノカラマツ キンポウゲ科

2009	B
2017	B
2023	B

Thalictrum simplex L. var. *brevipes* H.Hara

【種の特性】 中型の多年生草本。葉は3出複葉で互生。小葉の基部はくさび形で茎に鋭い稜がある。虫媒で風散。オギーヨシ群団。ハナムグラールオギ群集。[H]

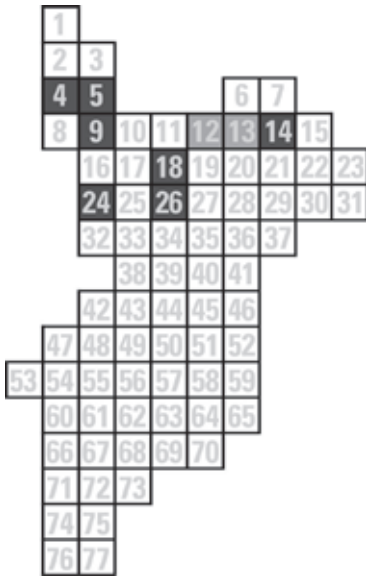
【分布】 本州・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 利根川流域の河原の湿った草原に生えるが少ない。野田市(1996.7.28 CBM BS-139476) の標本などがある。

【保護対策】 河原を自然状態に保つことが望ましい。生育地では定期的な刈り取りを実施し、大型草本の繁茂を抑えることが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 199, 207

【写真】 2000 栃木県 大場達之
(大場達之/谷城勝弘 追補)



B ミヤマハハソ アワブキ科

2009	B
2017	B
2023	B

Meliosma tenuis Maxim.

【種の特性】 夏緑大低木〜小高木。ブナ帯下部の夏緑林に生える。

細い枝に葉を互生し、倒卵形で薄く粗い鋸歯がある。花は5〜6月。淡黄色の花弁は5個であるが2個は短縮して3弁に見える。果実はゆがんだ球形で黒紫色に熟す。[MM]

【分布】 本州・四国・九州。中国。

【県内の状況】 房総丘陵の沢沿いの斜面に、やや稀に見られる。

【保護対策】 自生環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003 : 348, 340

【写真】 2002.9.19 君津市
大場達之
(大場達之/天野誠)



B カツラ カツラ科

2009	
2017	A
2023	B

Cercidiphyllum japonicum Siebold & Zucc.

【種の特性】大木になる落葉性木本。高さ 30m に達する。よく萌芽し株立ちになる。葉は長枝では対生する。葉身は円心形で、波状の鋸歯がある。雌雄異株。花に萼や花弁はない。風媒で、重力散布。花期は、3月～5月。山地の谷沿いに生育する。サワグルミ群団。[MM]

【分布】北海道・本州・四国・九州

【県内の状況】君津市で 2011 年 7 月 15 日に採集された標本 (CBM BS-312349) がある。大木だが、1 本しか確認できなかった。君津市で 1976 年 3 月 25 日に採集された若い果実の標本 (CBM BS-383541) と君津市で 1975 年 5 月 29 日に採集された標本 (CBM BS-333542) がある。東京大学千葉演習林の標本庫には、君津市で 1932 年 6 月 27 日に採集された標本、同市で 1949 年 9 月に採集された標本が収蔵されている。目視記録として、君津市がある。他に富津市で、1999 年 10 月 15 日に採集された標本 (CBM BS-

372455) と鴨川市で 1975 年 8 月 15 日に採集された標本 (CBM BS-383540) がある。千葉県北部で採集されたものは、栽培か逸出の可能性がある。遺存的な分布をしており、雌雄異株で、それぞれの産地の個体数が少ないので、次世代の維持が困難であると考えられる。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:380 / 新千植誌 1975:424 / 千植誌 2003:185 / 演習林 (東大) 2017:12

【写真】1999.10.15 富津市 標本:CBM BS-372455

(天野誠)



B ミツバベンケイソウ ベンケイソウ科

2009	A
2017	B
2023	B

Hylotelephium verticillatum (L.) H.Ohba

【種の特性】高さ 20 ~ 30 cm の夏緑の多年生草本。山地の湿った傾斜地に生える。根は前年の茎の下部から出る不定根で、太い。茎は斜上し、多肉で、無毛。葉は 3 輪生、まれに対生、長楕円形で、多肉、長さ約 5 cm、波状鋸歯があり、蒼緑色。花は集散花序に 10 ~ 20 個つく。花は 5 数性、萼は披針形、花弁は狭楕円形で、黄緑色。雄しべは 10 本で、葯は黄色。離生心皮は 5 つ。果実は蒴果で、熟すと上部から裂ける。葉は単葉で輪生。虫媒で重力散布。[H]

【分布】九州・四国・本州・北海道。

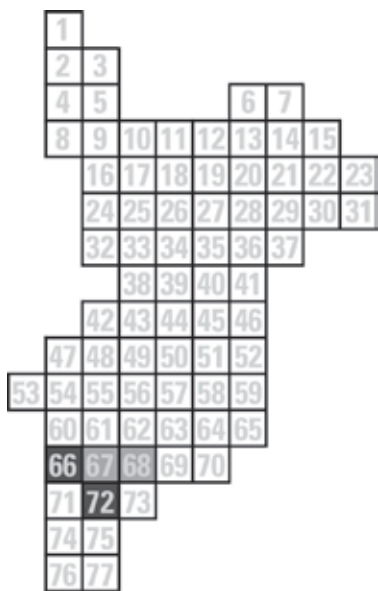
【県内の状況】以前から南房総市の富山で記録されていたが、鴨川市や南房総市にも新たな産地が発見された。千葉県の分布は遺存的であり、生育地も小さいので保護が必要である。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 253, 262

【写真】1995. 南房総市 平田和弘

(天野誠)



B アズマツメクサ ベンケイソウ科

2009	A
2017	A
2023	B

Tillaea aquatica L.

【種の特性】 高さ2～5 cm、弱々しい無毛の一年生草本。湿地や水田などに生える。根はひげ根で、茎から不定根を出す。茎は多肉で、下部で枝分かれする。葉は線形で全縁、鋭頭、対生する。ほぼ無柄。花は夏に咲く。花は上部の葉腋に単生する。花柄はない。花は4数性で、萼片は卵形で、長さ約1 mm。花弁は、狭卵形で、白色で、長さ約1.5 mm。雄しべは、4本のことが多い。離生心皮は。果実は蒴果で、熟すと上部から裂ける。虫媒で水散布。ヒメミズニラーヒメコウガイゼキショウ群綱。[Th]

【分布】 本州・四国・九州。

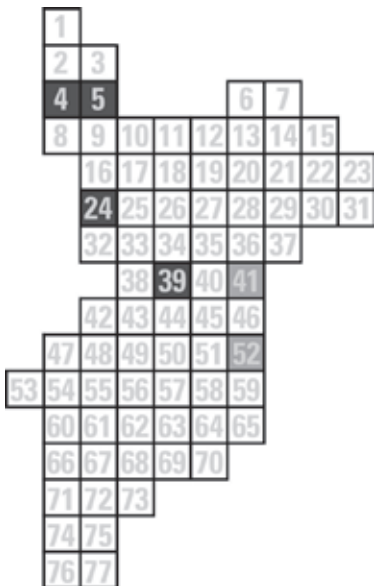
【県内の状況】 野田市、成田市、長生村などで記録されている。近年は市川市で確認されたが、非常に少ない。水位が季節ごとに変動する非常に不安定な環境を好み、かつては水田など浅い水辺に生えていたが、絶滅が心配される。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 土屋守 1999 野田市の植物 (1) 千葉生物誌 50(1):17. / 千植誌 2003 : 244,252

【写真】 2008.6.26

市川市 木村陽子
(天野誠)



B ヤブサンザシ スグリ科

2009	B
2017	B
2023	B

Ribes fasciculatum Siebold & Zucc.

【種の特性】 高さ約1 mに達する夏緑の低木。夏緑林あるいはその林縁に生える。雌雄異株。数本の有髄の幹を叢生する。枝は灰褐色で、樹皮は細かく裂ける。短枝があり、刺はない。葉は互生、浅く3裂または5裂し、鋭頭。基部は心形から截形で、有柄、葉身は長さ2～3 cm、油点はない。枝先に散形花序を付ける。花は5数性。萼は車型、径3 mm。花弁は、長楕円形で全縁、黄緑色で、長さ約2.5 mm、外側に反る。雄しべは萼筒の先に癒合し、花糸はきわめて短い。雌しべは2心皮で、合生。果実は液果で、赤熟する。虫媒で鳥散布。低地遺存ブナ帯要素。[N]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 1994年に八千代市と船橋市で発見された。2005年には千葉市でも発見された。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 大野景德 1994 八千代市植物目録 : 46. 八千代市歴史民俗資料館 / 大場達之 1999 千葉県 of ヤブサンザシ. 千葉県植物誌資料 14. / 千植誌 2003 : 256, 265

【写真】 1997. 八千代市 大場達之

(天野誠)



B フサモ アリノトウゲサ科

2009	C
2017	C
2023	B

Miriophyllum verticillatum L.

【種の特性】沈水性の多年生草本。葉は羽状複葉で輪生。水上葉は水中葉より小さいが、多少とも羽裂する。風媒で水散布。[HH] ヒルムシロ群網。

【分布】北海道・本州・四国・九州。北半球。

【県内の状況】県北部に記録が点在するが、ホザキノフサモの誤認の可能性もある。ホザキノフサモに比べて生育量はごく少ない。

【保護対策】生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：405,400

【写真】1999.8.4 富里市 標本：CBM BS-306276

(大場達之／谷城勝弘 追補)



B オニツルウメモドキ ニシキギ科

2009	C
2017	C
2023	B

Celastrus orbiculatus Thunb. var. *strigillosus* (Nakai) Makino

【種の特性】夏緑藤本。ツルウメモドキに似ているが、葉の下面の脈上にうね状の突起がある。

【分布】本州・四国・九州。

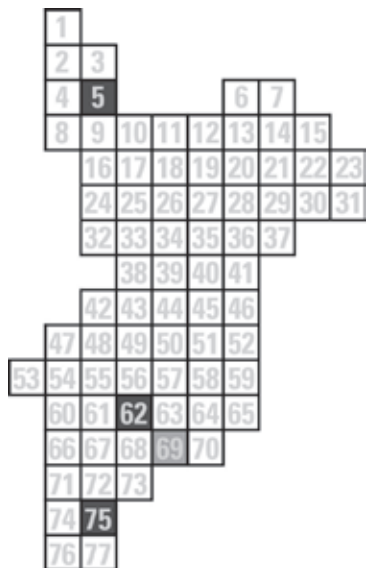
【県内の状況】清澄山と野田市から記録されている。近似した種類があるので詳細な再調査が必要である。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：353,359

【写真】2011.10.12 君津市 標本：CBM BS-312293

(大場達之／天野誠)



B オオツルウメモドキ ニシキギ科

2009	C
2017	C
2023	B

Celastrus stephanotifolius (Makino) Makino

【種の特性】夏緑藤本。ツルウメモドキに似ているが、葉の下面の脈上に柔毛がある。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵の溪谷に見られるが稀である。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 353, 359

【写真】2012.11.20 鴨川市 標本: CBM BS-330877

(大場達之/天野誠)



B サワダツ ニシキギ科

2009	C
2017	C
2023	B

Euonymus melanantus Franch. & Sav.

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で対生。虫媒で鳥散布。低地遺存ブナ帯要素。[N] ブナ群網。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵の湿った谷から記録されている。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003 : 353, 359

【写真】2010.6.9 鴨川市 標本: CBM BS-298086

(大場達之/天野誠)



B ウメバチソウ ニシキギ科

2009	B
2017	B
2023	B

Parnassia palustris L.

【種の特性】 高さ 10 ~ 30 cm の夏緑の小型多年生草本。日当たりのよい湿地や水がしみ出る湿った斜面に生える。根出葉と花茎を叢生する。花茎には無柄の1葉をつける。根出葉は心形で、円頭、長い柄がある。葉身は長さ 10 ~ 25 mm。花は頂生する。花は5数性で、萼片は楕円形で鋭頭、長さ 4 ~ 7 mm、緑色。花弁は白色で卵形、長さ 7 ~ 11 mm。雄しべは5本。仮雄蕊も5本で、細裂して先に黄色い腺球をつける。雌しべは5心皮で合生、果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で重力散布。ススキ群綱。[H]

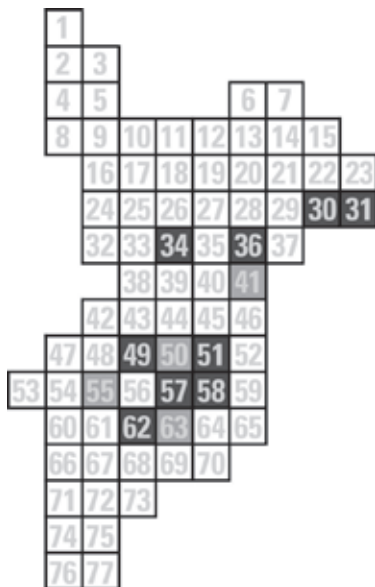
【分布】 北海道・本州・四国・九州。北半球。

【県内の状況】 主として南総の丘陵と九十九里平野の湿地に点在する。

【保護対策】 鑑賞目的の採取をやめる。

【文献】 千植誌 2003 : 258,263

【写真】 2004.10.24 山武市 能勢正代 (大場達之/天野誠 追補)



B イワタイゲキ トウダイグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Euphorbia jokinii Boiss.

【種の特性】 大形の多年生草本。葉は単葉で互生。虫媒で重力散布。岩礫あるいは礫浜の打ち上げゴミ上に生える。ツワブキ群団。[H]

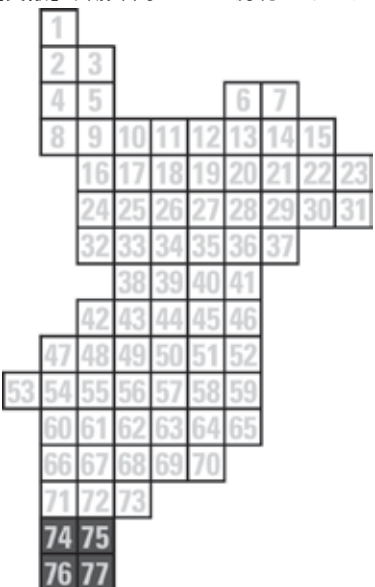
【分布】 本州 (千葉県以西)・四国・九州・琉球。朝鮮、台湾。

【県内の状況】 館山市・南房総市などに見られ、安定的な環境では大きな群落を形成している。

【保護対策】 海岸において稀少植物の集まる部分は立ち入りを制限する必要があると考えられる。

【文献】 齊藤吉永 1975 房総のイワタイゲキ. 千生誌 24(12) : 61. 千植誌 2003 : 328,333

【写真】 1998 館山市 大場達之 (大場達之/天野誠)



重要保護

B

B センダイタイゲキ トウダイグサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Euphorbia sendaica Makino

【種の特性】 中形の多年生草本。地中に横走る根茎がある。虫媒で重力散布。葉は単葉で互生。夏緑林の肥沃な土壤に群れて生える。[H]

【分布】 本州（関東以北）。

【県内の状況】 松戸市から採集記録があるが、これは絶滅している。また八千代市でも記録されたが自生地は開発によって失われ、栽培品だけが残っている。現在確実な自生地は富里市だけである。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 小松崎一雄 1951 千葉県東葛地区の植生に関する注目すべき事項。

就中センダイタイゲキの分布に関して、千植誌基礎資料 1(1)：51-53 / 小松崎一雄 1965 センダイタイゲキとフラサバソウ。千生誌 12(2)：40. 千植誌 2003：329,333

【写真】 1998 富里市 大場達之 (大場達之/天野誠)



B ヒメオトギリ オトギリソウ科

2009	B
2017	B
2023	B

Hypericum japonicum Thumb.

【種の特性】 一年生草本。茎はほぼ直立し、あまり分岐しない。葉は倒卵形で長さ7～13mm、基部は少し茎を抱く。コケオトギリに似るが雄ずいは10～20本で叢生する（コケオトギリは5～8本）。湿地性。

【分布】 本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球。朝鮮、東南アジア。

【県内の状況】 県内に複数の記録があるが少ない。長生村の湿地に多産したが、近年の宅地造成に伴う土地改変で生育地の多くが失われた。

【保護対策】 湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：218,222

【写真】 1985 山武市 大場達之

(谷城勝弘)



B アゼオトギリ オトギリソウ科

2009	A
2017	A
2023	B

Hypericum oliganthum Franch. & Sav.

【種の特性】 多年生草本。茎は硬く、中部からよく分岐する。葉の基部はやや茎を抱き長楕円形で1.5～2.5cm、縁は黒点が連続し、内側は明点がある。花弁は黒点と明点がある。果実は丸みがあり、近縁種に比べて大型である。湿地性。[H]

【分布】 本州（関東地方以西）、四国、九州。朝鮮。

【県内の状況】 酒々井町で2～3個体が確認された（1998.9.19 CBM BS-172092）が、消滅した。2005年に横芝光町で確認された。同所は除草剤を使用せず定期的な刈り取り管理が継続されている。県内記録は多いが、おおむね他種の誤認である。日本植物図譜の1204図（コオトギリ）は市川産の標本によって描かれたものであるが、これはアゼオトギリである。なお、寺崎日本植物図譜 p253のアゼオトギリの図（971）は日本植物図譜のコオトギリに用いられた図と同じものである。



【保護対策】 地権者に定期的な刈り取りを継続するよう連絡し、必要に応じて移植を行って管理育成することが望ましい。

【文献】 寺崎留吉（1933）：日本植物図譜 1204. / 奥山春季編 1977 寺崎日本植物図譜：253 / 千植誌 2003：218,222

【写真】 2008.8.10 / 2007.9.17
横芝光町 谷城勝弘
(大場達之/谷城勝弘 追補)



B オオネコヤナギ ヤナギ科

2009	
2017	C
2023	B

Salix furuta Seemen

【種の特性】 落葉低木。高さ、1～2m。材の表面に著しい隆起線がある。葉は長楕円形で、長さ10～21cm。葉の表面に白い伏綿毛がある。雄花は、雄しべが2本、花糸は無毛で、最基部が合着する。雌花は、白い絹毛がある。花期は、3月～5月。風媒で風散布。丘陵地に生育する。[N～M]

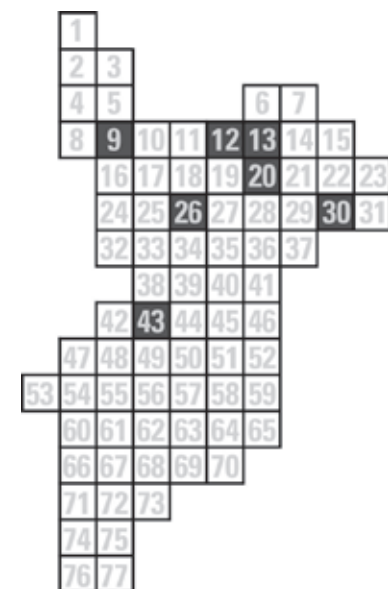
【分布】 本州

【県内の状況】 主に北総東部に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003:93,104 / 改訂新版日本の野生植物 3 2016 198

【写真】 1999.11.7 成田市 標本：CBM BS-164097



(天野誠)



重要保護
B

B キヌヤナギ ヤナギ科

2009	
2017	C
2023	B

Salix kinuyanagi Kimura

【種の特性】落葉高木。高さ、3～6m。葉は線状狭卵形で、長さ10～20cm。全縁またはわずかに鋸歯がある。葉の裏面に絹毛が密生する。雄花は、雄しべが2本、花糸は無毛で、離生する。花期は、3月～5月。風媒で風散布。河岸に生育する。[M]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】主に北総と安房の河岸に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958: 394 / 新千植誌 1975:440 / 千植誌 2003:92 / 改訂新版日本の野生植物 3 2016:199

【写真】1995.5.19 芝山町 標本: CBM BS-120415

(天野誠)



B コゴメヤナギ ヤナギ科

2009	
2017	C
2023	B

Salix serissaefolia Kimura

【種の特性】落葉高木。高さ、10～25m。葉は長楕円状狭卵形で、長さ4～7cm。細鋸歯がある。葉は無毛。雄花は、雄しべが2本、基部で合着、花糸は基部が有毛。雌しべは、白色軟毛を密生する。花期は、4月～5月。風媒で風散布。河岸に生育する。ヤシャブシ-コゴメヤナギ群目。[MM]

【分布】本州。

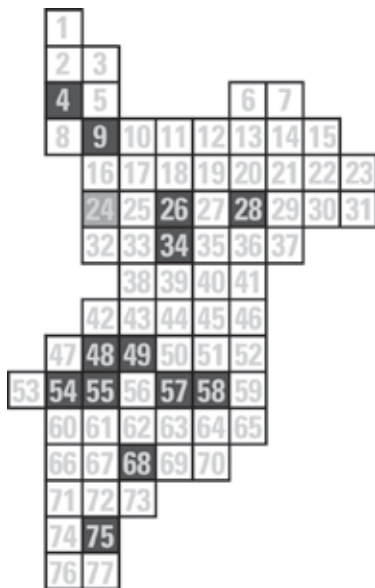
【県内の状況】主に北総と南総と安房の河岸に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:395 / 新千植誌 1975:440 / 千植誌 2003:91 / 改訂新版日本の野生植物 3 2016:196

【写真】1957.4.9 鴨川市 標本: CBM BS-259102

(天野誠)



B コミヤマスマレ スミレ科

2009	B
2017	B
2023	B

Viola maximowicziana Makino

【種の特性】 小型の多年生草本。葉の表面は緑色で脈が赤色を帯びるものから暗緑色、紫色を帯びるものなど変化がある。葉や花柄には粗い毛がある。萼片は有毛で反り返る。側弁の基部には毛がある。虫媒で虫散布。ケヤキ群団。[H]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】 南部の房総丘陵に稀。湿り気のある沢筋の林内、特にスギ林に生えることが多い。千葉県産のスマレの中では最も花期が遅い。

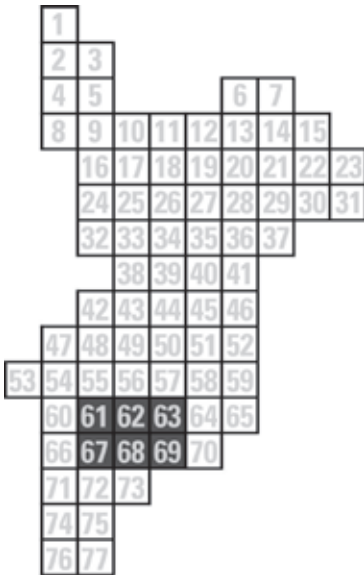
【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 379, 385

【写真】 1985.5 東京都

大場達之

(谷城勝弘)



B ヒナスミレ スミレ科

2009	B
2017	B
2023	B

Viola takedana Makino

【種の特性】 小型の多年生草本。葉の鋸歯は鋭く、先はやや尖り、両面とも粗い毛が多い。花は淡紅紫色で側弁の基部に疎らに毛がある。虫媒で虫散布。ケヤキ群団。[H]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国東部。

【県内の状況】 丘陵地に点在する。落葉広葉樹の腐葉の多い林内や林縁に生える。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 倉俣武男 1993 千葉県植物目録未記載種 5点について。千葉生物誌

42(2) : 64-65 / 千植誌 2003 : 380, 384

【写真】 2004 八街市 大場達之

(谷城勝弘)



B アギスミレ スミレ科

2009	
2017	B
2023	B

Viola verecunda A.Gray var. *semilunaris* Maxim

【種の特性】小型の多年性草本。高さは10cmから30cmになる。葉は横に長い三日月形、花後、茎が伸びる。花は母種のツボスミレと同じ。虫媒で、アリ散布。花期は、4月から6月。水田の畦や湿地に生育する。[H]

【分布】北海道・本州。

【県内の状況】船橋市で1995年6月12日に採集された標本（CBM BS-85154）と茂原市で1960年5月1日に採集された標本（CBM BS-10858）と銚子市で2006年9月11日に採集された標本（CBM BS-285150）と同市で2003年11月15日に採集された標本（CBM BS-331333）と同市で2013年6月25日に採集された標本（CBM BS-339410）がある。また、柏市で、2007年4月20日に採集された標本（CBM BS-285150）と千葉市に（CBM BS-399130）ある。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1956:353 / 新千植誌 75:397 / 千植誌 2003:377

【写真】2006.9.11 銚子市 標本: CBM BS-268857

(天野誠)



B ハマナタマメ マメ科

2009	B
2017	C
2023	B

Canavalia lineata (Thunb.) DC.

【種の特性】多年生つる草本。海岸の砂浜または崖地に生える。葉は3出複葉で互生。花は6～8月に咲き、やや淡紅紫色。花は竜骨弁を上にして咲くことが多い。花弁は滑らか。種子は水によく浮く。虫媒で海流散布。[H] クサトベラ群団。

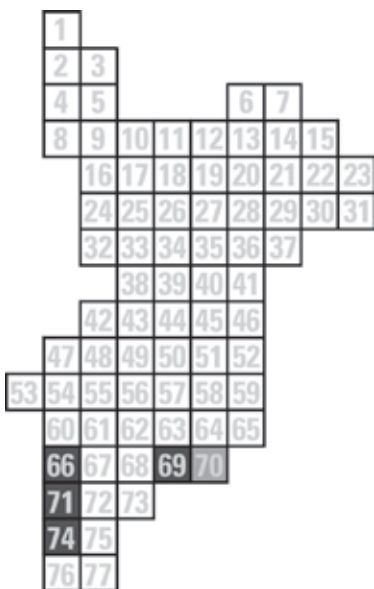
【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球・小笠原。台湾、中国。千葉県は北限にあたる。

【県内の状況】鴨川市から勝浦市、鋸南町、館山市などから生育が確認されている。

【保護対策】海岸崖地を保全することが望ましい。

【文献】浅野貞夫 1954 房総半島に於けるハマナタマメの分布. 採集と飼育 18(11): 143-145 / 山井 1979 冬虫夏草 14: 5-15 / 千植誌 2003: 298, 308

【写真】1997 館山市 大場達之 (遠藤泰彦/大場達之 追補/天野誠)



B フジキ マメ科

2009	B
2017	C
2023	B

Cladrastis platycarpa (Maxim.) Makino

【種の特性】 夏緑高木。沢沿いの夏緑林に生える。高さ 10～15 m。葉は羽状複葉で対生。花は 6～7 固に咲く。花序は枝に直立し円錐花序。果実は扁平で長さ 5～8 cm。虫媒で風散布。[MM]

【分布】 本州（東西南部以西）・四国。台湾、中国。

【県内の状況】 勝浦市、大多喜町など房総丘陵で生育が確認されている。

【保護対策】 自生環境をを保全する。

【文献】 千植誌 2003：294, 303

【写真】 2005.06.16 勝浦市 大場達之

(遠藤泰彦／大場達之
追補／天野誠)



B ミヤマトベラ マメ科

2009	B
2017	C
2023	B

Euchresta japonica Hook.f. ex Regel

【種の特性】 照葉樹林内に生育する小型の常緑低木。葉は 3 出複葉で対生。高さ 30～80 cm。花は 7 月で、花序は頂生し総状花序に 5～8 個ほどの白い花をつける。果実は黒紫色に熟し、中に 1 個の種子を入れ、果皮は成熟後も乾燥しない。虫媒で鳥散布(?)。カクレミノースダジイ群目。[N]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。済州島、中国。国内では生育地が限定されている。

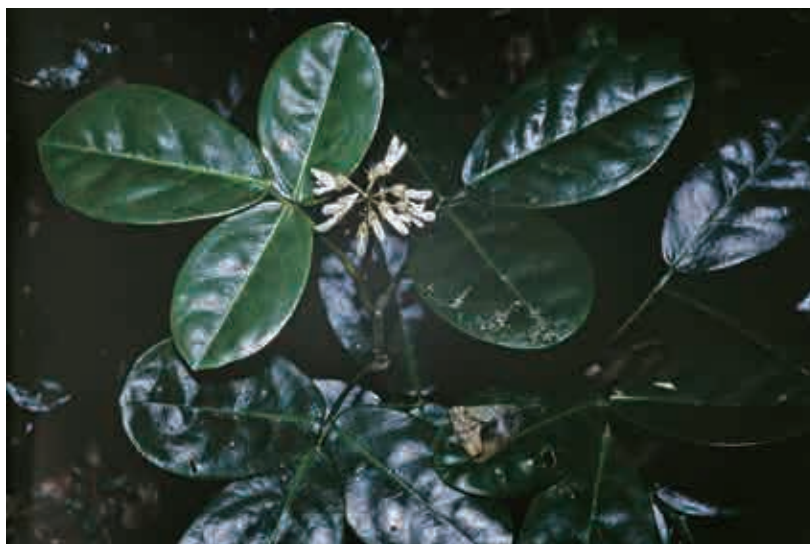
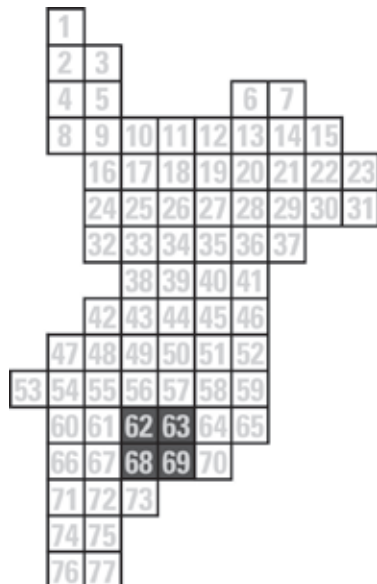
【県内の状況】 生育地は清澄山系などに限定される。

【保護対策】 自然林を保全することが望ましい。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975：406 / 千植誌 2003：295, 303

【写真】 1995 君津市 大場達之

(遠藤泰彦／大場達之 追補／天野誠)



B ビッチウヤマハギ マメ科

2009	
2017	A
2023	B

Lespedeza thunbergii (DC.) Nakai var. *albiflora* (Schn.) f. *angustifolia* (Nakai) Ohwi

【種の特性】 落葉性半低木。日当たりの良い草原に生育する。葉の表面には、一面に短毛が生えている。花序は、葉柄より長い。萼裂片は鋭頭。虫媒で、自動散布。花期は、8月から10月。[N]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 白井市で2004年9月25日に採集された標本（CBM BS-267903）と市川市で1950年9月17日に採集された標本（CBM BS-167838）がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 改訂新版日本の野生植物 3 2016 279

【写真】 2004.9.25 白井市 標本：CBM BS-267903
(天野誠)



B ミソナオシ マメ科

2009	C
2017	C
2023	B

Ohwia caudata (Thunb.) H.Ohashi

【種の特性】 夏緑小低木。日陰の林縁や林床に生える。

茎は分岐して、葉は3出複葉で互生、葉柄の上面が平坦になる、小葉は披針形で下面はやや白くなる。花は8~9月に咲き、総状花序は茎の頂あるいは上部の葉腋から出る。花は白色。果実は長さ8~13cmで4~6個の節があり、短い堅い鉤毛があって衣類などに付着する。虫媒で付着散布。[N]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州・琉球。朝鮮。

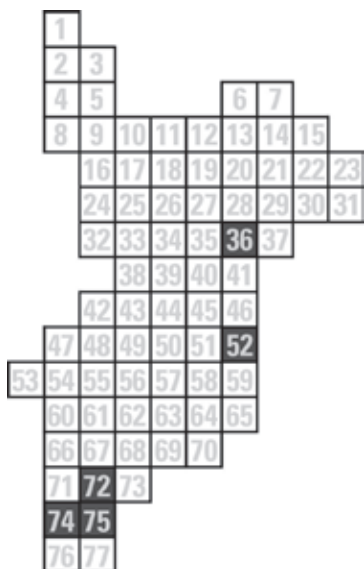
【県内の状況】 館山市で確認され、南房総市にわずかに見られるほか、山武市でも発見され、一宮町でも採集されている。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 297, 306

【写真】 1988.10.28 南房総市 標本：CBM BS-295264

(遠藤泰彦/大場達之 追補/天野誠)



B ノハラクサフジ マメ科

2009	C
2017	A
2023	B

Vicia amurensis Oett.

【種の特性】 多年生のつる性草本。茎は横に枝分かれして広がり高さ80～150cm。葉は羽状複葉で互生し小葉は10～16個でやや無毛で黄緑色。托葉は歯牙があるか2裂する。花は7～9月に咲き淡青紫色。虫媒で重力散布。植物体はヒロハクサフジに似るが毛が少ない。県内では海岸に面した崖地に生育する。[H]

【分布】 本州（秋田県、千葉県、神奈川県、中部地方）・九州（薩摩半島）。朝鮮、中国東北部、アムール、ウスリー。

【県内の状況】 鴨川市及び勝浦市に分布が限定される。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 遠藤泰彦・大橋広好 1994 植物研究雑誌 69 : 379-382 / 千植誌 2003 : 300, 317

【写真】 1953.8.3 勝浦市 標本: CBM BS-179637

(遠藤泰彦/大場達之 追補/天野誠)



B オオバクサフジ マメ科

2009	
2017	C
2023	B

Vicia pseudo-orobus Fisch. & C.A.Mey.

【種の特性】 中型のつる性多年生草本。茎は高さ80～150cm。葉は、4～10枚の小葉があり、先はつるになる。総状花序に多数の蝶形花を付ける。虫媒で、自動散布。花期は、8月～10月。丘陵の草地に生育する。[H]

【分布】 北海道、本州、四国、九州。

【県内の状況】 北総の千葉市、佐倉市、成田市などに分布する。

【保護対策】 生育地の草地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958 367 / 新千植誌 1975 409 / 千植誌 2003 309 / 改訂新版日本の野生植物 2 2016 299

【写真】 2015.10.3 成田市 標本: CBM BS-389347

(天野誠)



B ヒナノキンチャク ヒメハギ科

2009	B
2017	A
2023	B

Polygala tatarinowii Regel

【種の特性】 小形の一年生草本。高さ4～12 cmで基部から分枝。葉は互生し、卵円形で全縁、縁に細毛がある。花は7～10月。枝の先に総状につき淡紅紫色。虫媒でアリ散布。[Th]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国、東シベリア、インド。

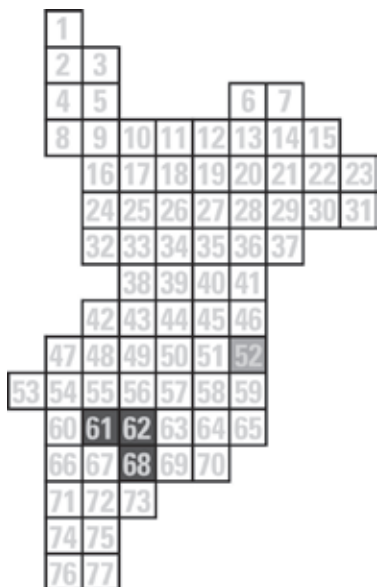
【県内の状況】 乾いた草地の間の小裸地、芝生などに生える。一宮町・君津市に記録がある。

【保護対策】 現在知られている山地の環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003：344, 337

【写真】 2000.10.20 君津市 大場達之

(大場達之/天野誠)



B クロツバラ クロウメモドキ科

2009	B
2017	A
2023	B

Rhamnus davurica Pall. var. *nipponica* Makino

【種の特性】 夏緑低木。葉は短枝に集まってつき、倒卵形～倒卵状楕円形で長さ3～8cm。短枝はのちに棘状になる。花は5月。黄緑色。果実は黒く熟す。[MM]

【分布】 本州（中・北部）。中国、プリモリア、モンゴル。

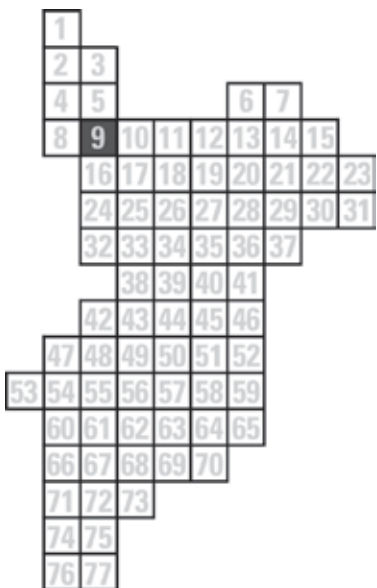
【県内の状況】 柏市で稀に見られる。

【保護対策】 自生地を保全する。

【文献】 千植誌 2003：356, 360。

【写真】 2001.10.17 柏市 標本：CBM BS-178017

(大場達之/天野誠)



B クロウメモドキ クロウメモドキ科

2009	B
2017	C
2023	B

Rhamnus japonica Maxim. var. *decipiens* Maxim.

【種の特性】夏緑低木。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。これまでコバノクロウメモドキとして記録されていた千葉県産のものはクロウメモドキの葉の少し小さい型と考えられる。コバノクロウメモドキは石灰岩地などに生え、葉の長さ1～3cm程度である。県内では湿地のハンノキ林の周辺や雑木林の中などに見られる。ほかではブナ帯の尾根筋、林縁、岩場などにも生える。低地遺存ブナ帯要素。[N]

【分布】本州・四国・九州の太平洋側。本州の日本海側と北海道には葉の大きなエゾクロウメモドキが分布する

【県内の状況】千葉市、佐倉市、柏市、八千代市、匝瑳市、白井市、富里市、芝山町、市原市、成田市などから報告がある。県北部に分布の重点がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】齊藤吉永 1970 コバノクロウメモドキの群落. 千生誌 19(2) : 66 / 新千植誌 1975 : 399 / 浅野貞夫 1978 千葉県の方言トリトマラスの分布. 植物採集ニュース 100 : 50. / 千植誌 2003 : 356, 360



【写真】2002.5.3 印西市
谷城勝弘
(大場達之/天野誠)



B コダイコンソウ バラ科

2009	C
2017	C
2023	B

Geum japonicum Thunb. ex Murray var. *iyonanum* (Koidz.) Murata

【種の特性】中型の多年生草本。茎葉は2～3裂、根生葉は羽状複葉。虫媒で付着散布。花は7～9月。[H] ヨモギ群綱。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】県内では稀で、勝浦市（1983）と鴨川市（1984）などで標本がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003 : 275, 279

【写真】2012.9.26 君津市 標本:CBM BS-330758



(御巫由紀)



B ズミ バラ科

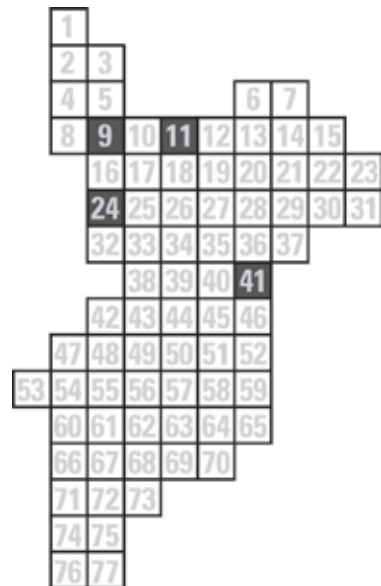
2009	B
2017	B
2023	B

Malus toringo (Siebold) Siebold ex Vriese

【種の特性】夏緑小高木。葉は単葉で互生。主としてブナ帯の明るい林、林縁、湿原などに生える。低地遺存ブナ帯要素。虫媒で鳥散布。ノイバラ群綱。[N～M]

【分布】北海道・本州・四国・九州の山地。

【県内の状況】標本は東金市（1929 CBM BS-27154）、柏市（1989.7.2 CBM BS-84380、1995.4.29 CBM BS-125757）、同市（1998.4.27 CBM BS-140537）で採集されている。



【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：292, 301

【写真】2005.5.1 柏市

谷城勝弘

(御巫由紀)



B オオウラジロノキ バラ科

2009	B
2017	B
2023	B

Malus tschonoskii (Maxim.) C.K.Schn.

【種の特性】夏緑高木。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。高さは最大10m。花は5月。低地遺存ブナ帯要素。[MM]

【分布】本州、九州（九重山）の山地。

【県内の状況】新版千葉県植物誌に、オオズミとして載っているものはオオウラジロノキである。清澄山、銚子市で記録している。鴨川市でも報告がある。

【保護対策】生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】鶴岡繁・福田泰二 1988 銚子で新しく発見された2種の植物について . 千生誌 38(1) : 1-4 / 千植誌 2003 : 292, 301

【写真】2002.4 銚子市 大場達之

(御巫由紀)



B カワラサイコ バラ科

2009	C
2017	C
2023	B

Potentilla chinensis Ser.

【種の特性】 小型の多年生草本。葉は羽状複葉で互生。虫媒で重力散布。カワラハハコ-ヨモギ群団。[H]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 採集された標本は、古いものでは東金市（1929）、鴨川市（1932）、多古町（1937）、館山市（1950）などがあるが、現状は不明である。近年では富津市（1983）、印西市（1986）、八千代市（1995）、習志野市（1995）、南房総市（1996）の標本がある。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：274, 278

【写真】 1932.6 鴨川市 標本：CBM BS-183023

(御巫由紀)



B オオバライチゴ バラ科

2009	C
2017	C
2023	B

Rubus croceacanthus H.Lév.

【種の特性】 夏緑性の低木。葉は3～5（～7）小葉からなる羽状複葉。虫媒で食散布。花は白色、3～4月。果実は球形ないし卵円形で紅熟する。全体に短い腺毛があるが、軟毛は少ない。[N]

【分布】 本州（房総、伊豆、紀伊半島および山陽）・四国・九州・琉球。朝鮮（南部）。

【県内の状況】 県内では市原市、鴨川市、清澄山等での標本がある。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：271, 267

【写真】 2007.6.16 鴨川市 標本：CBM BS-295283

(御巫由紀)



B ハルニレ ニレ科

2009	A
2017	A
2023	B

Ulmus japonica (Rehd.) Sargent

【種の特性】 夏緑高木。高さ 20～40 m。樹皮は縦に深い割れ目があり、鱗片状にはがれ落ちる。葉は倒卵形～楕円形で先端は短く尖り、表面はざらつく。葉脈は 10～20 対。花は 3～5 月に咲き、両性。果実は翼果で倒卵形～広楕円形。風媒で風散布。ブナ帯の肥沃で湿潤な林に生える。ブナ帯遺存要素 [HH]。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】 社寺に植えられるほか、自生と考えられる個体が千葉市などに見られる。保護対象は自生株のみ。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 114, 119

【写真】 2001 千葉市 大場達之
(大場達之/天野誠)



B シマナガバヤブマオ イラクサ科

2009	
2017	C
2023	B

Boehmeria egregia Satake

【種の特性】 大型の多年生草本。高さ、100～200cm。葉は狭卵形から卵状長楕円形で、先端は長く尾状に伸びる。花が球状に集った小花序が数珠状に集まっている。花期は、8月～10月。重力散布。海岸付近の道端に生育する。[H]

【分布】 本州（千葉）・伊豆諸島。

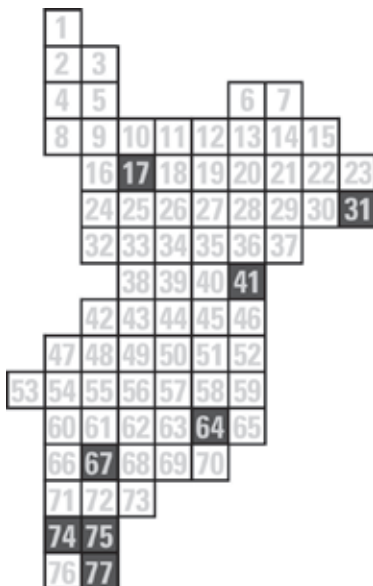
【県内の状況】 主に南総の丘陵地や海岸付近に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:389 / 新千植誌 1975:434 / 千県植誌 2003:128 / 改訂新版日本の野生植物 2 2016:344

【写真】 2008.9.20 館山市 標本 : CBM BS-285799

(天野誠)



B トキホコリ イラクサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Elatostema densiflorum Franch. et Sav. & Maxim.

【種の特性】 小形の一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。かつては湿った畑、あるいは半日陰の庭などに多く見られたが現在はほとんど絶滅して稀になっている。本来の生育地は河川氾濫原のオギ群落の下と考えられ、渡良瀬川遊水池には大量に見られる。[Th]

【分布】 本州。

【県内の状況】 利根川沿岸で記録されており、庭先あるいは路傍で採集されている。

【保護対策】 雑草の生活をする種類の保全是難しい。今後対策を練る必要がある。

【文献】 千植誌 2003 : 126, 123, 129

【写真】 2005 東金市 伊藤純子

(大場達之/天野誠)



B ホソバイラクサ イラクサ科

2009	B
2017	B
2023	B

Urtica angustifolia Fisch. ex Hornem.

【種の特性】 やや大形の多年生草本。茎は高さ 50 ~ 150 cm で直立。茎には上向き短い毛がある。葉は対生し披針形から卵状長楕円形。葉柄などに棘毛がある。托葉は各節に 4 枚。(H)

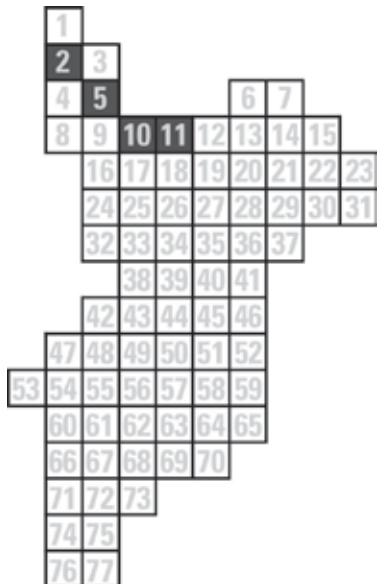
【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国東北部、モンゴル、東シベリア、プリモリア。

【県内の状況】 利根川沿岸で 2004 年にはじめて発見された。ブナ帯に主として分布する種類で、上流から流下したと考えられるが、シイ・カシ帯では河川の氾濫原の草原の構成種となっているらしい。

【保護対策】 河川の氾濫原を自然に維持する。

【文献】 大場達之・木村陽子 2004 利根川で発見されたホソバイラクサ。千植誌資料 20 : 161-162. / 千植誌 2003 : 126, 123, 129

【写真】 2004.07.13 柏市 木村陽子
(大場達之/天野誠)



重要保護

B

B アサダ カバノキ科

2009	B
2017	B
2023	B

Ostrya japonica Sarg.

【種の特性】 夏緑高木。樹皮は縦長にはがれて落ちる。葉は単葉で互生。風媒で風散布。ブナ帯下部からシイ・カシ帯上部の夏緑林あるいは針葉林に混交する。ツガ群目。[MM]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】 房総丘陵に稀に見られる。

【保護対策】 所在を明らかにして伐採を事前に防ぐ。

【文献】 千植誌 2003：109,107

【写真】 2002.5.5 君津市 標本：CBM BS-186592



(大場達之／天野誠)



B ナラガシワ ブナ科

2009	
2017	B
2023	B

Quercus aliena Blume

【種の特性】 落葉高木。高さ 25m に達する。樹皮は不規則に割れる。葉はコナラより大きく、長さ 20cm に達する。葉身は、倒卵形でまばらに大きな鋸歯がある。葉裏に星状毛がある。殻斗は幅広く、1.4～2.5cm になる。殻斗には、長楕円形の鱗片が密着して付く。風媒で、被食散布。花期は、4月。落葉樹林に散在する。[MM]

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国、東南アジア、ヒマラヤ。

【県内の状況】 南房総市で、1989年11月8日に採集された標本 (CBM BS-85018) と同市で、1972年12月18日に採集された標本 (CBM BS-278510) がある。また、山武市で、1927年7月5日に採集された標本 (CBM BS-26846) がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:335 / 新千植誌 1975:380 / 千植誌 2003:111 / 改訂新版日本の野生植物 3 2016:96

【写真】 1972.12.18 南房総市 標本：CBM BS-85018



(天野誠)



B イチイガシ ブナ科

2009	B
2017	B
2023	B

Quercus gilva Blume

【種の特性】常緑高木。樹皮は薄片となつてはげ落ちる。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。葉は倒披針形で上部に鋭い鋸歯がある、下面は黄褐色の星状毛が密にある。土壌の深いところに生える。カクレミノースダジイ群目。[MM]

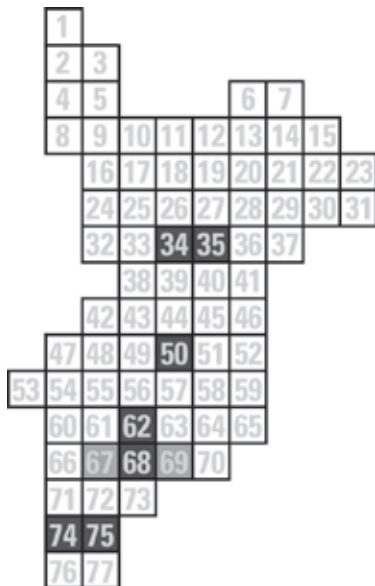
【分布】本州（関東以西）・四国・九州。台湾、中国。

【県内の状況】房総丘陵南部の降水量の多い地域に見られるが、長南町に離れた産地がある。

【保護対策】イチイガシを含む林分の環境を良好に保全する。特に林内の空中湿度を保持する。

【文献】千植誌 2003 : 111, 117

【写真】2001 君津市 大場達之
(大場達之/天野誠)



B ウバメガシ ブナ科

2009	B
2017	B
2023	B

Quercus phillyraeoides A.Gray

【種の特性】常緑高木。葉は単葉で互生。風媒で重力散布。殻斗外面は鱗片で被われる。ウバメガシ群団。[N~M]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州・琉球。千葉県は三浦半島南端の産地とともに分布の北東限をなす。

【県内の状況】南房総市に自生と考えられるものが知られている。千葉市など都市部では街路・公園などに多く植栽され、それから逸出することもある。保護植物の指定は自生地に限っている。

【保護対策】自生地はいずれも社寺の境内にあたる。貴重な存在であることを地元で周知し、合意の上で保護策を講ずることが必要である。

【文献】山井廣・大場達之・木村陽子 1998 千葉県のウバメガシとイブキ. 千植誌資料 13 : 91-92. 千植誌 2003 : 111, 108

【写真】1998.4.10 南房総市 大場達之

(大場達之/天野誠)



重要保護

B

B サワグルミ クルミ科

2009	
2017	A
2023	B

Pterocarya rhoifolia Siebold & Zucc.

【種の特性】大木になる落葉性木本。高さ30mに達する。葉は奇数羽状複葉で、小葉の数は、11～21枚。雌雄異花。雄花序は長さ5～15cm、雄花には8～13本の雄蕊がある。雌花序は長さ10～20cm、雌花の柱頭は2裂する。果実は、羽状の小苞に包まれる。風媒で、風散布。花期は、4月～6月。山地の谷沿いに生育する。サワグルミ群団。[MM]。

【分布】北海道・本州・四国・九州。中国（山東省）。

【県内の状況】柏市で1990年6月8日に採集された標本（CBM BS-84930）がある。白井市で2006年5月28日に採集された標本（CBM BS-234343）がある。個体数は10株以下だった。他に鋸南町で採集された標本が収蔵されている。目視記録として、君津市、市原市、袖ヶ浦市がある。遺存的な分布をしており、風媒で、それぞれの産地の個体数が少ないので、次世代の維持が困難であると

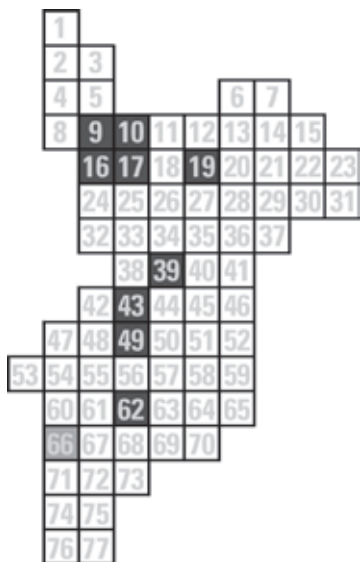
考えられる。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975:439 / 千植誌 2003:85

【写真】2000.8.18 市川市 標本:CBM BS-306638

(天野誠)



B ヒメビシ ヒシ科

2009	A
2017	A
2023	B

Trapa incisa Siebold & Zucc.

【種の特性】浮葉性の一年生草本。水中茎は節に羽状の根状の葉をつけ、茎の頂端に三角状菱形の葉を集めつけて浮かぶ。葉は光沢があり片側に3～4個の粗い鋸歯があり、幅1～2cm。葉柄は上部がふくらみ浮き袋となる。花は7～9月に咲き、花弁は3個で白色～淡紅色で、径6～8mm。果実は上縁に2本の棘があり、両側面にも下向きの棘がある。虫媒で水散布。(HH)。

【分布】北海道・本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国東北部、プリモリア。

【県内の状況】印旛沼、香取市など利根川水系に多いが、鴨川市、南房総市、大多喜町などからも報告があるが、近年の記録は少ない。

【保護対策】池・沼を自然に保つ。

【文献】千植誌 20033 : 93,397

【写真】2004 千葉市栽植 大場達之

(大場達之/天野誠)



B タニタデ アカバナ科

2009	
2017	B
2023	B

Circaea erubescens Franch. & Sav.

【種の特性】 中型の一年生草本。茎は、10 から 50cm。葉は、長卵形から卵形、低鋸歯がある。花弁は、3 裂する。果実に溝がない。虫媒で、動物外散布。花期は、7 月から 9 月。林床に生育する。[G]

【分布】 北海道、本州、四国、九州。

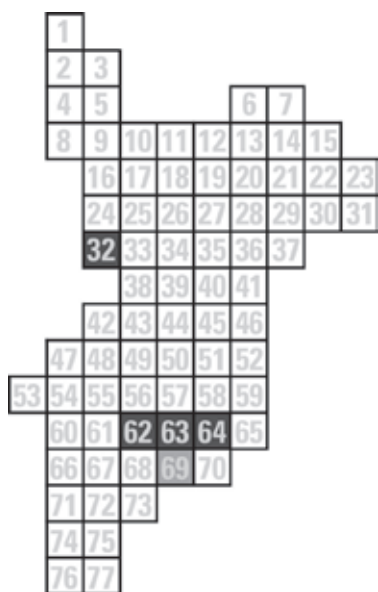
【県内の状況】 浦安市で 1987 年 6 月 22 日に採集された標本 (CBM BS-58114) と大多喜町で 1996 年 8 月 8 日に採集された標本 (CBM BS-128021) と同町で 2011 年 8 月 30 日に採集された標本 (CBM317991) と君津市で 2011 年 8 月 25 日に採集された標本 (CBM BS-316619) がある。

【保護対策】 生育地の林を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975:393 / 千植誌 2003:394 / 改訂新版日本の野生植物 3 2016:263

【写真】 2011.8.25 君津市 CBM BS-316619

(岩槻秀明)



B ムクゲアカバナ アカバナ科

2009	
2017	
2023	B

Epilobium parviflora Schreb.

【種の特性】 大型の多年生草本。低湿地に生え、茎は直立し、高さ 1.5m 前後に達する。地下茎をひかない。茎や葉は綿毛が密生し、白っぽく見える。柱頭は 4 裂するがオオアカバナのように開出しない。花弁の長さは 4-8mm。かつてはススヤアカバナとも呼ばれていたが、その和名の元になった標本が別種であったことから改称された。[H]

【分布】 本州 (中部以北)。ユーラシアの温帯

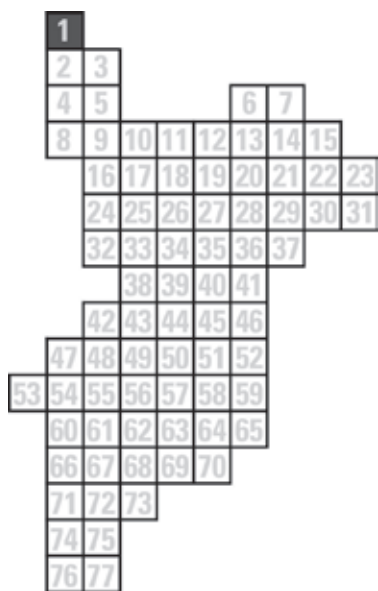
【県内の状況】 千葉市、佐倉市、印西市、野田市で確認されている。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。開発、除草剤の使用などは控える。また遷移の進行による草原化にも留意が必要。類似する生育環境を精査することで新たな産地が発見される可能性がある。

【文献】 大野啓一. ススヤアカバナが千葉市と佐倉市で見つかる. 千植誌資料 29: 285-287

【写真】 2020.8.2 野田市 岩槻秀明

(岩槻秀明)



B ミズユキノシタ アカバナ科

重	2009	B
	2017	B
	2023	B

Ludwigia ovalis Miq.

【種の特性】 高さ 12～25 cm の夏緑の多年生草本。主として海岸近くの明るい水湿地に生育する。茎の基部はしばしば匍匐し、不定根を伸ばす。葉はほぼ円形に近い広楕円形で、互生、基部は楔形で、短い葉柄がある。葉は全縁で、無毛。花は上部の葉腋に単生する。花は4数性で、萼片は三角形、花弁はない。果実は蒴果で、楕円球、上部から裂けて、種子を散布する。沈水形が存在する。アクアリウム・プランツとして栽培されており、都市部に生育するものについては、帰化の可能性が疑われる。虫媒で水散布。[HH]

【分布】 本州・四国・九州。台湾。

【県内の状況】 主として九十九里平野に分布するが、南総の丘陵地にも点在する。

【保護対策】 湿地の生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 395, 398

【写真】 1994.6 茂原市 大場達之

(天野 誠)



B キハダ ミカン科

	2009	C
	2017	C
	2023	B

Phellodendron amurense Rupr.

【種の特性】 夏緑高木。葉は羽状複葉で互生。虫媒で鳥散布。低地遺存ブナ帯要素。[MM] [H] ブナ群綱。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール、ウスリー。

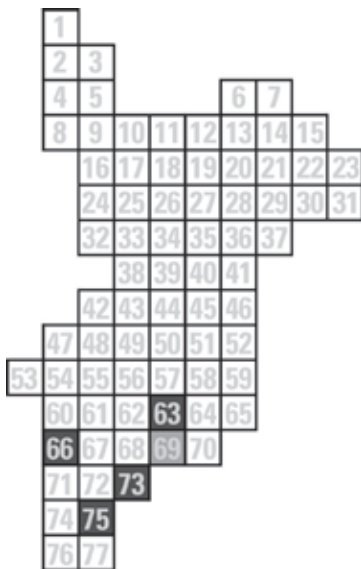
【県内の状況】 房総丘陵と船橋市から報告がある。

【保護対策】 真の自生か否か調査が必要。

【文献】 千植誌 2003 : 332, 335

【写真】 1952.4.30 八街市 標本:CBM BS-3183

(大場達之/天野誠)



B シコクハタザオ アブラナ科

2009	D
2017	C
2023	B

Arabis serrata Franch. & Sav. var. *sikokiana* (Nakai) Ohwi

【種の特性】 多年生草本。やや湿った日陰の岩場。葉は単葉で互生、茎基部の葉は地表近くにロゼット状に集まってつく。千葉県のは古い記録ではイワハタザオとされていた。虫媒で風散布。[H]

【分布】 本州・四国・九州。

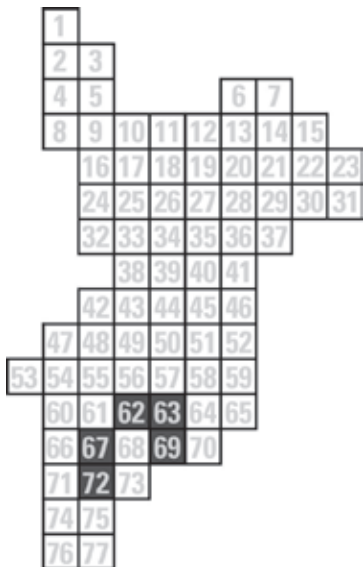
【県内の状況】 房総丘陵の湿った岩場にみられ、かつては林道沿いに多く見られたが、全体の乾燥化で減少している。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 236, 239

【写真】 2020.4.26 南房総市 谷城勝弘

(大場達之/天野誠)



B ユリワサビ アブラナ科

2009	B
2017	B
2023	B

Eutrema tenuis (Miq.) Makino

【種の特性】 小形で冬緑の多年生草本。葉は羽状複葉で根元に集まる。花は4~5月。長い斜上する枝を出し、総状に10個ほどの白い花をつける。虫媒で重力散布。低地遺存ブナ帯要素。[H]

【分布】 本州（関東以西）・本州・四国・九州・琉球。マレーシア。

【県内の状況】 沢沿いの湿った肥沃な林に生える。千葉県では極めて少ない。

【保護対策】 湿潤林の保全を考える。このような植物は、それが本拠とする植物群落を保全することが本来であろう。

【文献】 蒲谷肇 1994 演習林植物目録にないアブラナ科2種. 清澄 14 : 33-34. / 千植誌 2003 : 243, 250

【写真】 2004 山梨県 大場達之

(大場達之/天野誠)



重要保護
B

B ハタザオ アブラナ科

2009	C
2017	A
2023	B

Turritis glabra L.

【種の特性】 中型の二年生草本。全体が白緑色を帯びる、茎は直立し高さ 50～100 cm、枝は茎に沿って直立。葉は単葉で互生。花は 4～6 月に咲き黄白色。虫媒で重力散布。[Th]

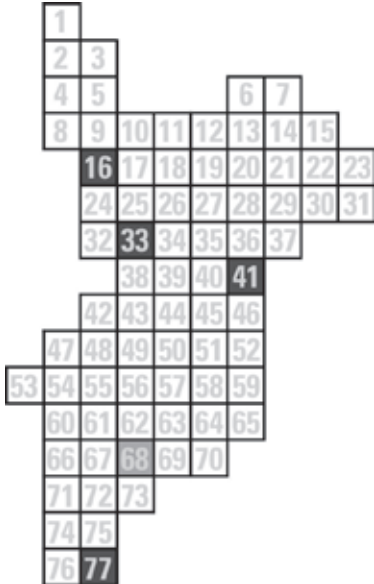
【分布】 北海道・本州・四国・九州。北半球温帯。

【県内の状況】 河原、砂地などの痩せた草地に生える。

【保護対策】 自生環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003：236, 239

【写真】 1998.5.13 九十九里町 標本：CBM BS-138098



(大場達之/天野誠)



B ハマボウ アオイ科

2009	A
2017	A
2023	B

Hibiscus hamabo Siebold & Zucc.

【種の特性】 夏緑低木で 2 m ほどになる。枝・葉・苞・萼などに星状毛が密生する。葉は偏円形～円形。長さ 3～6 cm で 5 脈がある。花は 7～8 月に咲き、直径 5 cm で黄色。虫媒で海流分布。(M)

【分布】 本州(千葉県以西)・四国・九州。済州島。

【県内の状況】 館山市などで記録があったが、高潮で流されたりして安定的な生育環境は少ない。2008 年に夷隅川河口で群落が発見されたほか、船橋市の埋め立て地でも漂着種子によると思われる個体が見つまっている。東京湾では多摩川河口でも漂着分布したと考えられるものが発見されている。

【保護対策】 生育地の開発を行わない。

【文献】 千植誌 2003：369, 362, 370

【写真】 1982 三浦半島 大場達之

(大場達之/天野誠)



B コショウノキ ジンチョウゲ科

2009	C
2017	C
2023	B

Daphne kiusiana Miq.

【種の特性】常緑小低木。葉は単葉で互生。虫媒で鳥散布。カクレミノースダジイ群目。[N]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。

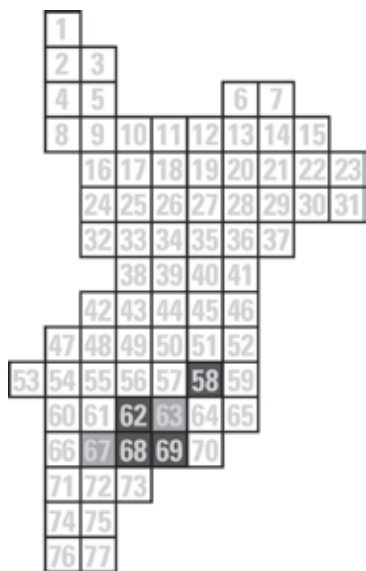
【県内の状況】房総丘陵の照葉樹林に見られるが、産地は少ない。

【保護対策】自生地の環境を保全する

【文献】千植誌 2003：373,364

【写真】2018.2.28 いすみ市 標本:CBM BS-400906

(大場達之/天野誠)



B マツグミ オオバヤドリギ科

2009	B
2017	A
2023	B

Taxillus kaempferi (DC.) Danser

【種の特性】寄生性の常緑低木。葉は単葉で対生。鳥媒で鳥散布。モミなどの針葉樹の枝に寄生する。

[E]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】清澄山、鋸山と長南町から記録がある。高い枝に寄生するので発見が困難で、大風の後に落下した枝で確認されることが多い。

【保護対策】生育地の寄主樹木を保護することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：433./千植誌 2003：135,132

【写真】2000 君津市 大場達之

(大場達之/天野誠)



重要保護

B

B オオバヤドリギ オオバヤドリギ科

2009	C
2017	C
2023	B

Taxillus yadoriki (Siebold) Danser

【種の特性】常緑小低木。常緑樹の枝に寄生する。葉は単葉で対生。花は9～11月に咲き筒状で外面は赤褐色で細かい毛が覆う、内面は光沢があって黒紫色、花被の裂片は4個で上方に反曲する。鳥媒で鳥散布。[N]

【分布】本州（関東南部以西）・四国・九州・琉球。朝鮮。

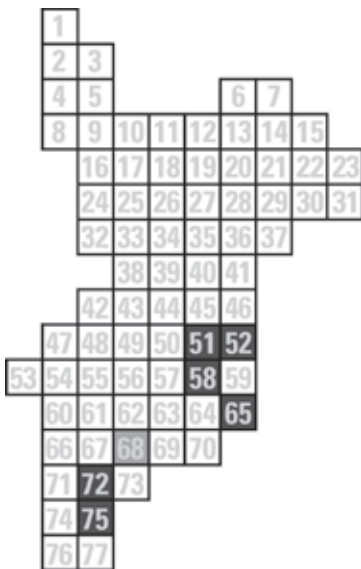
【県内の状況】房総丘陵以南に分布。

【保護対策】寄主木を保全する。

【文献】千植誌 2003：132, 135

【写真】2997.10.2 館山市 CBM BS-124179

(大場達之／天野誠)



B ツクバネ ビャクダン科

2009	C
2017	C
2023	B

Buckleya lanceolata (Siebold. & Zucc.) Miq.

【種の特性】夏緑低木。半寄生。葉は単葉で対生し卵形で先端は長く尖る。花は6月。雌雄異株で花は淡緑色で花被裂片は4個で淡緑色。果実は先端に長さ2.5～3cmの苞4枚がつき、つく羽根状。虫媒で重力散布。半寄生。低地遺存ブナ帯要素。[N] ブナ群網。

【分布】本州・四国・九州。

【県内の状況】房総丘陵の乾いた尾根筋などの林に生える。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：131, 135

【写真】1989.11.5 君津市 標本:CBM BS-41667

(大場達之／天野誠)



B ヒノキバヤドリギ バックダン科

2009	B
2017	B
2023	B

Korthalsella japonica (Thunb.) Engl.

【種の特性】 寄生性の常緑低木。葉は単葉で対生。鳥媒で鳥散布。主として照葉樹に寄生する。[E]

【分布】 本州（関東以西）・本州・四国・九州・琉球。台湾、中国、マレーシア。

【県内の状況】 清澄山、南房総市内浦山などから記録があり、かつては九十九里浜平野の生け垣などに稀でなく見られたが、現在では少ない。車の排気ガスなど大気汚染の影響が考えられる。伊豆諸島には多く見られ、県内でも伊豆諸島から移入した植木に付いてきたと考えられる例もある（国内帰化）。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975：433 / 千植誌 2003：131

【写真】 1990 東京都 大場達之
(大場達之/天野誠)



B マツナ ヒユ科

2009	B
2017	B
2023	B

Suaeda glauca (Bunge) Bunge

【種の特性】 中形の一年生草本。葉は単葉で細棒状、互生。風媒で水散布。塩湿地のゴミの集まる所に集まって生える。[Th] オカヒジキ群綱。

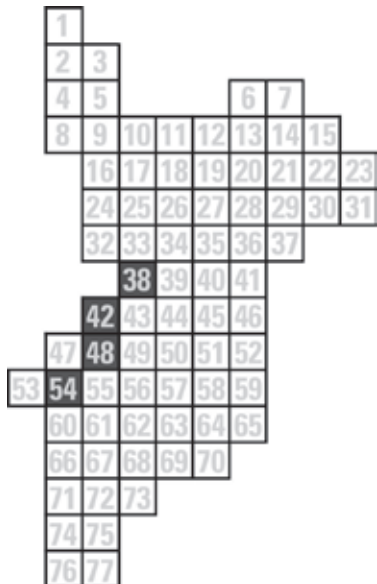
【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮、中国、ウスリー、プリモリア。

【県内の状況】 養老川、小櫃川などに残っているが、ハママツナにくらべて生育環境が狭小である。

【保護対策】 生育地が年々変動する傾向があるので、先駆的一年生草本は動的な塩湿地全体の保全が必要である。

【文献】 日本の野生植物 1981 草本 2, 49 図版 / 千植誌 2003：177,168

【写真】 1992.12.04 市原市 大場達之
(大場達之/天野誠)



B ハママツナ ヒユ科

2009	C
2017	C
2023	B

Suaeda maritima (L.) Dumort.

【種の特性】 小型の一年生草本。葉は単葉で互生。風媒で海流散布。[Th] ハママツナ群団。

【分布】 本州・四国・九州。世界に広く分布。

【県内の状況】 かつては東京湾沿岸の河口などに多かったが、埋め立てにより激減している。

【保護対策】 塩湿地を計画的の保全する。また埋め立て地内に塩湿地を汐入公園のような形で造成する。

【文献】 小松崎一雄 1971 千葉県小櫃川河口のハママツナ群落。植物採集ニュース 54: 62 / 千植誌 2003: 168, 177

【写真】 2016.9.29 木更津市 標本: CBM BS-402894 (大場達之 / 天野誠)



B ナンバンハコベ ナデシコ科

2009	C
2017	C
2023	B

Cucubalus baccifer L. var. *japonicus* Miq.

【種の特性】 長さ 150 cm にもなる夏緑の多年生つる性草本。適湿の林縁に生育する。茎には伏毛があり、他の植物によりかかって斜上する。

葉は対生し、卵形から楕円形で、鋭頭、基部は楔形で、短い柄がある。葉は全縁で、両面にわずかに伏毛がある。花は上部の葉腋に単生する。花は 5 数性で、萼片は癒着して皿形になる。花弁は、倒披針形で、深く切れ込み、白色で、長さ約 10 mm、長い爪がある。果実は液果で、球形、黒熟する。虫媒で重力散布。[H]

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮、中国、千島、サハリン、ウスリー。

【県内の状況】 主として南総台地に分布する。

【保護対策】 生育環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003: 154, 164

【写真】 1997.8.3 酒々井町 標本: CBM BS-170939 (大場達之 / 天野 誠 追補)



B フシグロ ナデシコ科

2009	C
2017	C
2023	B

Silene firma Siebold & Zucc.

【種の特性】 高さ 25 ~ 90 cm の二年生草本。乾いた斜面や草地に生える。茎を単生し、上部で枝分かれする。茎は四稜形で十字対生、毛がある場合もある（ケフシグロ form. pubescens (Makino) Ohwi）。その名の通り、節は紫色に着色する。葉は長楕円形で、鋭頭、基部は楔形で、明瞭な柄はなく、長さ 3 ~ 6 cm。葉は全縁で、葉脈と縁にわずかに毛がある。二出集散花序を頂部と上部の葉腋につける。花は 5 数性で、萼片は癒合し、卵形となる。長さ 7 ~ 9 mm。花弁は、狭倒卵形で深く二裂し、白色で、長さ 5 ~ 6 mm、爪が長い。果実は蒴果で、卵形、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で重力散布。[Th]

【分布】 北海道・本州・四国・九州・琉球。サハリン、朝鮮、中国、ウスリー、アムール。

【県内の状況】 北総と南総の丘陵地に点在する。

【保護対策】 自生環境を保全する。

【文献】 千植誌 2003 : 154

【写真】 1998.8.24 佐倉市 標本: CBM BS-141713
(大場達之/天野 誠 追補)



B イシモチソウ モウセンゴケ科

2009	A
2017	A
2023	B

Drosera peltata Thunb.

【種の特性】 食虫性の多年生草本。地下に丸い塊茎があり、高さ 15 ~ 30cm の茎を 1 本出す。葉は単葉で互生し楕形で腺毛が多い。花は 6 ~ 7 月に咲き白色。虫媒で風散布。湿原や明るい林に生える。[H]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。中国。

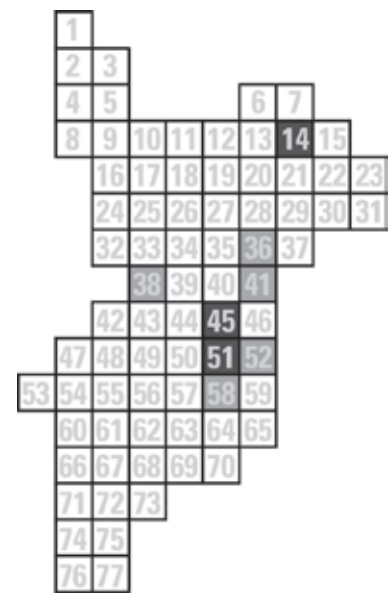
【県内の状況】 九十九里浜平野において古い砂丘間低地の湿地に見られ、特に茂原市~長生村、山武市が古くから知られた産地で、このほかに大網白里市からも採集されている。また利根川沿いの佐原市からも採集されているが、現在その湿地は消滅しイシモチソウは絶滅している。成東・東金食虫植物群落以外では生育環境が土地の造成などで消滅し激減している。茂原市では湿原に生えるほか、アカマツの植林地にも多く見られた。

【保護対策】 かつての生育地では剥土などの土地造成によって裸出した地表に、埋土種子から回復している例がある。一度消失した場所で再生をはかることも考えられる。観賞用の採取・販売・栽培をしないことが望ましい。

【文献】 Komiya, S. & C. Shibata 1978 Distribution of the Droseraceae in Japan. Bull. Nippon Dental Univ. Gen. Edc. 7 : 3-39 / 千植誌 2003 : 220, 223

【写真】 2000.6.18 山武市 谷城勝弘

(大場達之/天野誠)



B マルミノヤマゴボウ ヤマゴボウ科

2009	
2017	B
2023	B

Phytolacca japonica Makino

【種の特性】 大型の多年生草本。根は、肉質で肥大する。高さ 100cm ぐらい。茎は上部で分枝し、無毛。葉は、楕円形で鋭尖頭、長さ 15～20cm。花は直径 8mm ぐらい。果実は黒色で、10 個程度の心皮が合着する。虫媒で、鳥散布。花期は、6 月～9 月。やや湿った暗い林縁に生育する。[G]

【分布】 本州・四国・九州。台湾、中国。

【県内の状況】 君津市で 2009 年 7 月 30 日に採集された標本 (CBM BS-389240) と同市で 2010 年 5 月 27 日に採集された標本 (CBM BS-298080) がある。鴨川市で 2010 年 8 月 20 日に採集された標本 (CBM BS-301924) と南房総市で 2002 年 5 月 21 日に採集された標本 (CBM BS-307136) がある。また、市原市で 1991 年 6 月 2 日に採集された標本 (CBM BS-53030) と大多喜町で 1990 年 12 月 30 日に採集された標本 (CBM BS-327826) がある。その他、東大千葉演習林内で目視記録がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 1958:383 / 新千植誌 1975:428 / 千植誌 2003:148 / 天野誠・藤平晃司・軽込勉・三次充和・久本洋子・御巫由紀・尾崎煙雄 2012 千植誌資料 267,269 / 改訂新版日本の野生植物 4 2017: 144

【写真】 2009.6.11 鴨川市 標本:CBM BS-301798 (天野誠)



B ホソバナウナギツカミ タデ科

2009	C
2017	A
2023	B

Persicaria hasato-auriculata (Makino) Nakai

【種の特性】 一年生草本。湿地性。茎の下部は地をはい、上部に逆刺がある。葉は両面無毛。花穂は疎な穂状花序。花柄は無毛。虫媒で水分布。[Th]

【分布】 本州・四国・九州。中国南部、台湾。

【県内の状況】 県全域に少数の記録があるが、県内には極めて稀である。

【保護対策】 自然的な湿地をを保全することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 145, 140

【写真】 1991.11.12 市原市 標本:CBM BS-32707

(谷城勝弘)



B ナガバノウナギツカミ タデ科

2009	C
2017	C
2023	B

Persicaria hasato-sagittata (Makino) Nakai

【種の特性】 一年生草本。湿地性。茎の下部は地をはい、上部に逆刺がある。葉は両面無毛。花穂は球形または広卵形で、密に多花。花柄に腺毛がある。

【分布】 本州・四国・九州。中国南部、台湾。

【県内の状況】 県北部の平野部に複数の記録があるが、その多くは土地の改変によって消滅した。

【保護対策】 保護上の重要種が複数生育する多古光湿原を保全することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：144, 139

【写真】 1991.9 多古町 谷城勝弘
(谷城勝弘)



B タニソバ タデ科

2009	
2017	B
2023	B

Persicaria nepalensis (Meisn.) H.Gross

【種の特性】 小型の一年生草本。高さ 10cm～50m。茎はよく分枝し、斜上する。葉は三角状卵形で、葉柄に流れる。花序は頭状。果実はレンズ形。虫媒で、重力散布。花期は、7月～10月。山地の湿った林縁に生育する。[Th]

【分布】 北海道・本州・九州。千島列島（南部）、朝鮮、台湾、中国、東南アジア、ヒマラヤ、西アジア、北アフリカ。

【県内の状況】 印西市で 1984 年 6 月 14 日に採集された標本 (CBM BS-78790) と南房総市で 1977 年 7 月 24 日に採集された標本 (CBM BS-236817) と館山市で 1983 年 9 月 18 日に採集された標本 (CBM BS-236818) と富津市で 1988 年 6 月 7 日に採集された標本 (CBM BS-154359) がある。また、君津市で 2012 年 7 月 13 日に採集された標本 (CBM

BS-330854) と銚子市で 2013 年 10 月 23 日に採集された標本 (CBM BS-350831) と富里市で 1993 年 6 月 17 日に採集された標本 (CBM BS-62553) がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975:432 / 千植誌 2003:145

【写真】 2012.7.13 君津市 標本: CBM BS-330854

(天野誠)



B オオミチヤナギ タデ科

2009	
2017	C
2023	B

Polygonum aviculare L. var. *vegetum* Ledeb.

【種の特性】 中型の一年性草本。高さ 30cm～60cm。茎は直立する。葉は長楕円形、ミチヤナギより大きく、長さ 3～4 cm。花は緑色で上部の葉腋に数個付く。果実は、菱状卵形で、断面は三角形。種子には光沢がない。花期は、5月から10月。虫媒で、重力散布。海岸の砂地や砂泥地に生育する。[Th]

【分布】 北海道・本州。

【県内の状況】 主に東京湾岸の砂浜や砂泥地に生育する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 142

【写真】 1999.6.12 野田市 標本: CBM BS-231434

(天野誠)



B ノリウツギ アジサイ科

2009	C
2017	A
2023	B

Hydrangea paniculata Siebold

【種の特性】 高さ約 5 mに達する夏緑の低木。山地の明るい林縁や草地に生える。数本の有髓の幹を叢生する。樹皮は細かく縦に裂ける。茎は円筒形で十字対生。葉は楕円形で、鋭頭、鋭鋸歯がある。基部は楔形で、有柄、長さ 5～11 cm。枝先に密な円錐花序を付ける。装飾花は白色、4弁の楕円形の萼片が目立つ。有性花は 5 数性で、萼片は三角形で、鋭頭、長さ約 1 mm。花弁は、長楕円形で全縁、白色で、長さ 2.5～3 mm、反り返る。雄しべは長さ約 3 mm で、よく目立つ。雌しべは 3 心皮で、離生。果実は蒴果で、上部から裂けて、種子を散布する。虫媒で風散布。低地遺存ブナ帯要素。[N]

ミヤママタタビーヤマブドウ群団。

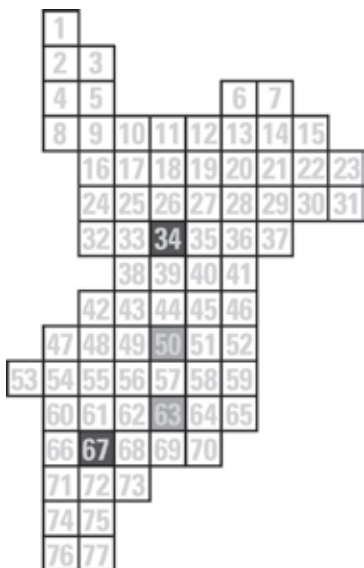
【分布】 北海道・本州・四国・九州。サハリン、中国。

【県内の状況】 北総と南総の丘陵地に点在する。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003 : 258, 265

【写真】 1999.8.11 千葉市 標本: CBM BS-161398 (大場達之/天野 誠 追補)



B ヒロハドウダンツツジ ツツジ科

2009	C
2017	C
2023	B

Enkianthus perulatus (Miq.) Schneider f. *japonicus* (Hook.f.) Kitam.

【種の特性】夏緑低木。虫媒で風散布。[N]

【分布】本州（関東以西）・四国。

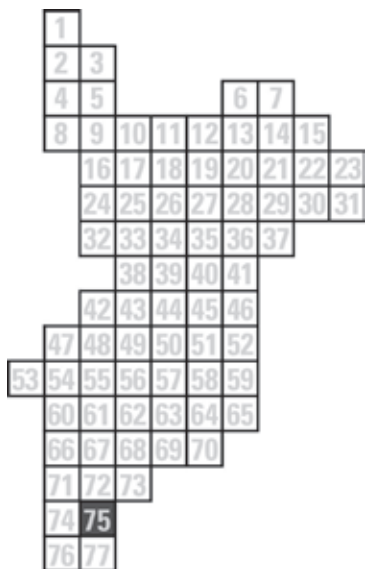
【県内の状況】安房丘陵の北部にのみ知られる。最も近い他の自生地は伊豆半島である。普通に植えられているドウダンツツジは四国の蛇紋岩地に生える葉の細い品種である。

【保護対策】自生地を保護する。

【文献】千植誌 2003：430,418

【写真】1986.8.29 南房総市 標本：CBM BS-374007

(大場達之/天野誠)



B ギンリョウソウ ツツジ科

2009	
2017	C
2023	B

Monotroastrum humile (D.Don) H.Hara

【種の特性】小型の多年生草本。菌根性。植物体は、無葉緑で、白色。茎は多数の鱗状の葉を付け、8～20cm。萼や花弁は果期まで残っている。果実は、液果で青い。花期は、4月～6月。虫媒で、風散布。腐植の多い湿った林床に生育する。[G]

【分布】北海道・本州・四国・九州・琉球。千島、サハリン、朝鮮、中国、ミャンマー、ヒマラヤ。

【県内の状況】主に南総の丘陵地の常緑樹の林床に生育する。

【保護対策】生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】千植誌 1958:343 / 新千植誌 1975:373 / 千植誌 2013:431 / 改訂新版日本の野生植物 4 2017:226

【写真】2006.6.8 君津市 標本：CBM BS-385050

(天野誠)



B レンゲツツジ ツツジ科

2009	C
2017	C
2023	B

Rhododendron japonicum (A.Gray) Swinger

【種の特性】夏緑低木。ススキ草原、シラカバ林などに生える。葉は単葉で互生。虫媒で、風散布。[N]

【分布】北海道・本州・四国・九州。

【県内の状況】県北部の雑木林などに稀に生える。本来はブナ帯を本拠とする種類で、種子の飛来によって散発的に生えているものと推定される。

【保護対策】自生環境の保全。

【文献】千植誌 2003 : 432, 420

【写真】1985.5.16 野田市 標本:CBM BS-79856

(大場達之/天野誠)



B ヒカゲツツジ ツツジ科

2009	A
2017	A
2023	B

Rhododendron keiskei Miq.

【種の特性】常緑低木。葉は単葉で互生。花は4～5月に咲き淡黄色。虫媒で風散布。シイ・カシ帯上部からブナ帯の日陰の岩場やモミ・ゴウマツ林の下などに生える。低地遺存ブナ帯要素。[N]

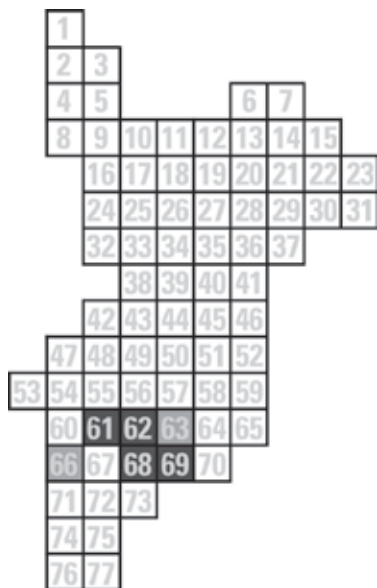
【分布】本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】清澄山系、高岩山系と鋸山に分布する。園芸的採取が著しく、個体数が減少している。

【保護対策】生育環境を良好に維持する。観賞用の採取・販売・栽培をしない。

【文献】新千植誌 1975 : 388 / Yamazaki, T. 1996 A revision of the Genus *Rhododendron* in Japan, Taiwan, Korea and Sakhalin. p.14-18 / 千植誌 2003 : 432, 419

【写真】2001.4.8 君津市
福田洋
(大場達之/天野誠)



B モロコシソウ サクラソウ科

2009	C
2017	C
2023	B

Lysimachia sikokiana Miq.

【種の特性】常緑多年生草本。湿った照葉樹林あるいはその縁に生える。葉は単葉で互生。虫媒で、重力散布。カクレミノースダジイ群目。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州・琉球。台湾。

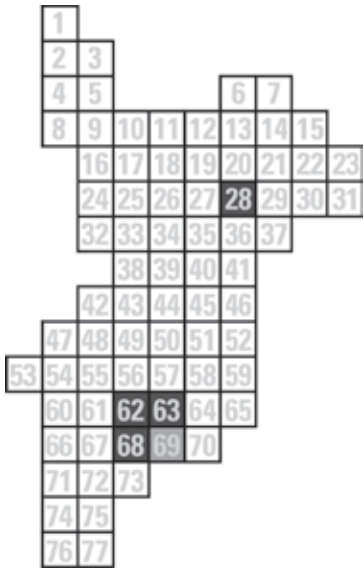
【県内の状況】降水量の多い房総丘陵南東部に限って見られる。

【保護対策】自生環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：436, 439

【写真】1991.7.3 鴨川市 CBM BS-87000

(大場達之/天野誠)



B コイケマ キョウチクトウ科

2009	C
2017	C
2023	B

Cynanchum wilfordi Hemsl.

【種の特性】つる性の多年生草本。葉は単葉で対生。花は7～8月に咲き淡黄緑色。虫媒で、風散布。[G]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国東北部。

【県内の状況】印西市から館山市にかけて全県的に分布するが、山地には少ない。

【保護対策】自生地を環境を保全する。

【文献】千植誌 2003：464, 455

【写真】1997.7.1 酒々井町 CBM BS-170822

(大場達之/天野誠)



重要保護

B サワルリソウ リンドウ科

2009	A
2017	A
2023	B

Ancystrocarya japonica Maxim.

【種の特性】 高さ 30～50cm の夏緑の多年生草本。深い沢の湿った林の林縁に生える。根は肥大し、数本の茎を立てる。葉は茎の中部にまとまってつく。茎は斜上し、円筒形。葉は互生、長楕円形で、鋭頭で、基部は楔形、両面に荒い毛が生える。さそり状花序を頂生および上部の葉腋につける。花序は分枝しない。花冠は白色、径約 7 mm で、花筒は長い。果実は白くて光沢のある小堅果で、ウシの角形。虫媒で重力散布。フナ群綱。[H]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。

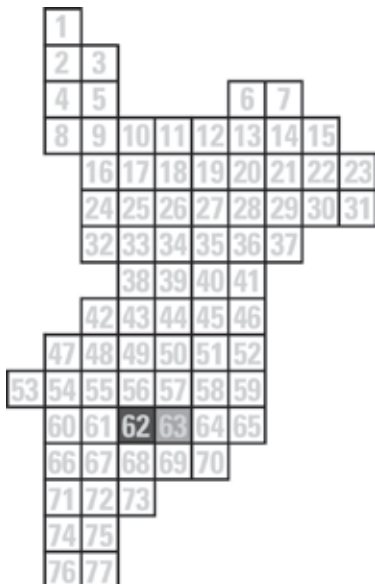
【県内の状況】 君津市、市原市、大多喜町からの報告がある。

【保護対策】 生育環境は沢沿いに限定され、個体数が極めて限られているので、生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 千植誌 2003：472, 482 / 千植写真 2005：353.

【写真】 2000 大多喜町 平田和弘

(大場達之/天野 誠 追補)



B ホソバリンドウ リンドウ科

2009	B
2017	B
2023	B

Gentiana scabra Bunge var. *buergeri* Maxim. f. *stenophylla* (H.Hara) Ohwi

【種の特性】 多年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。リンドウに似ているが葉が細く、茎は直立し湿原に生える。花は 9～11 月。ヨシ群綱。[H]

【分布】 本州（関東以西）・四国・九州。

【県内の状況】 九十九里平野の湿地に見られる。

【保護対策】 湿地の保全。観賞用などでの採集を防止する。

【文献】 千植誌 2003：451, 444

【写真】 2008.10.31 成東・東金食虫植物群落 能勢正代

(大場達之/天野誠)



B ハルリンドウ リンドウ科

2009	B
2017	B
2023	B

Gentiana thunbergii (G.Don) Griseb.

【種の特性】二年生草本。葉は単葉で対生し根生葉はロゼット状に集まりつく。花は4～5月。青紫色。虫媒で風散布。[Th]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

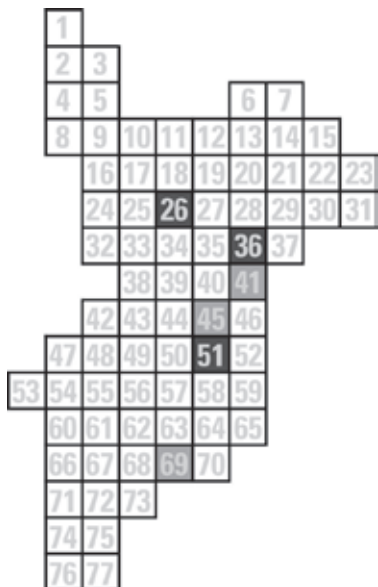
【県内の状況】九十九里平野と習志野市に記録されているが、すでに失われた産地が多い。

【保護対策】湿地の保存。観賞用などでの採集を防ぐ。

【文献】千植誌 2003：452,444

【写真】2008.4.18 成東・東金食虫植物群落
能勢正代

(大場達之/天野誠)



B イヌセンブリ リンドウ科

2009	B
2017	B
2023	B

Swertia diluta (Turcz.) Benth. & Hook.f. var. *tosensis* (Makino) H.Hara

【種の特性】一～二年生草本。葉は単葉で対生、やや幅広くて先端が丸みを帯びる。虫媒で風散布。湿地に生える。センブリによく似ているが全体に苦みがない。[Th]

【分布】本州・四国・九州。朝鮮、中国。

【県内の状況】九十九里浜平野の長生村、山武市、茂原市などから多くの標本が採集されているほか、千葉市、習志野市、柏市、佐原市、富里市、八街市などからの記録もある。

【保護対策】湿地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】新千植誌 1975：384./新千植誌 2003：452,453

【写真】2001 山武市 大場達之

(大場達之/天野誠)



B ムラサキセンブリ リンドウ科

2009	A
2017	A
2023	B

Swertia pseudochinensis H.Hara

【種の特性】 一～二年生草本。葉は単葉で対生。虫媒で風散布。センブリに似て全体に紫色が強く、花も紫色、葉は細く尖り、茎や花柄に細突起がある（センブリは平滑）。[Th] やや開けた草地に生える。

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、中国、アムール。

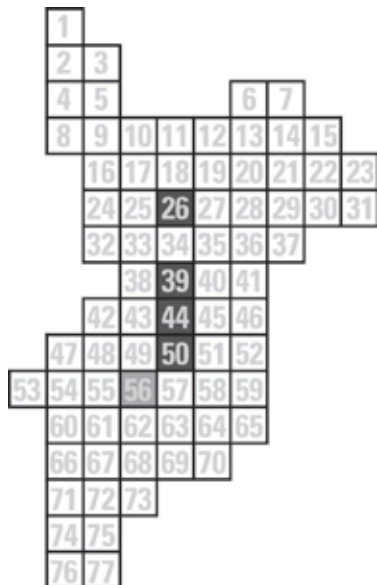
【県内の状況】 市原市、八街市の標本のほか、八千代市、松戸市、習志野市、柏市、山武市からの記録もあるが普通には見られない。

【保護対策】 生育地の草地環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975：384 / 千植誌 2003：452, 453

【写真】 2017.11.12 東京都植栽 石川和宏

(大場達之/天野誠)



B ヒメナエ マチン科

2009	B
2017	B
2023	B

Mitrasacme indica Wight

【種の特性】 小形の一年生草本。茎は細く立ち上がり高さ5～15 cmで少数の枝がある。葉は単葉で対生し披針形から広線形。花は8～10月。白色で花被片は4個。虫媒で風散布。[Th]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。台湾、朝鮮、中国、熱帯アジア、オーストラリア

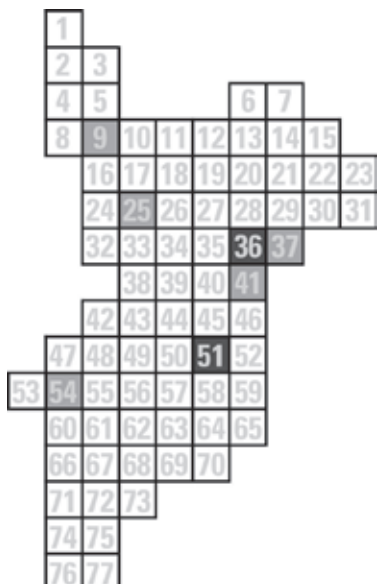
【県内の状況】 湿地の小裸地などに見られ九十九里平野などに記録があるが、現在は少ない。

【保護対策】 湿地の保全。

【文献】 千植誌 2003：451, 443

【写真】 2000 山武市 大場達之

(大場達之/天野誠)



B アイナエ マチン科

2009	B
2017	C
2023	B

Mitrasacme pygmaea R.Br.

【種の特性】 小形の一年生草本で高さ5～15 cm。葉は単葉で対生し茎の下部に集まり、卵形～長楕円形。花は8～10月。枝の先に3～5個の花が散形状につき、白色で花被片は4裂。虫媒で風散布。ハタガヤイトハナビテンツキ群綱。[Th]

【分布】 本州・四国・九州・琉球。台湾、中国、インド、マレーシア。

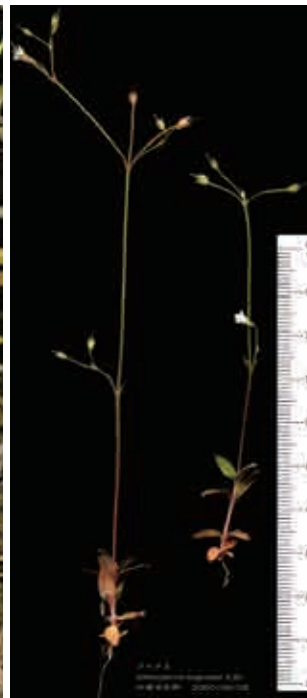
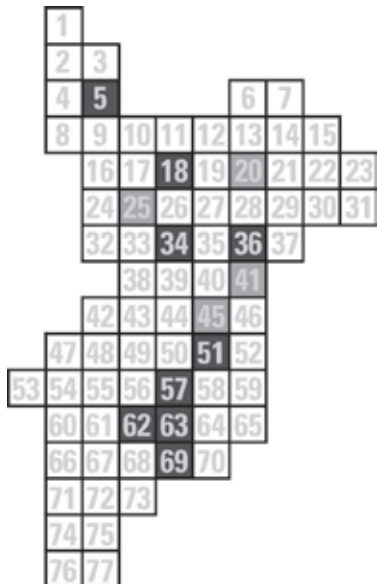
【県内の状況】 アイナエより乾いた裸地に生え、造成地、墓地などに生えることもある。分布は広いが普通ではない。

【保護対策】 一年草の保護方策を検討する必要がある。

【文献】 千植誌 2003：451, 443

【写真】 2000.9.5 印西市 大場達之

(大場達之/天野誠)



B カワラマツバ アカネ科

2009	C
2017	A
2023	B

Galium verum L. var. *asiaticum* Nakai f. *nikkoense* (Nakai) Ohwi

【種の特性】 多年生草本。日当たりの良い乾いた土手や草地に生える。葉は単葉で輪生。茎は刺がなく細毛を密生する。虫媒で、風散布。[H] ススキ群目。

【分布】 北海道・本州・四国・九州。朝鮮。

【県内の状況】 茂原市、柏市、市原市に記録がある。近年は報告がない。

【保護対策】 生育地の環境を良好に維持することが望ましい。

【文献】 谷城 (2003)：アカネ科 千葉県植物誌 477

【写真】 1991.6.7 市原市 標本：CBM BS-50530

(大場達之/谷城勝弘 追補)



重要保護

B

B カギカズラ アカネ科

2009	B
2017	B
2023	B

Uncaria rhynchophylla (Miq.) Miq.

【種の特性】常緑藤本。葉は単葉で対生。葉の脇に湾曲した刺をもつ。虫媒で風散布。ノイバラ群綱。[M]

【分布】本州（千葉県以西）・四国・九州。中国。

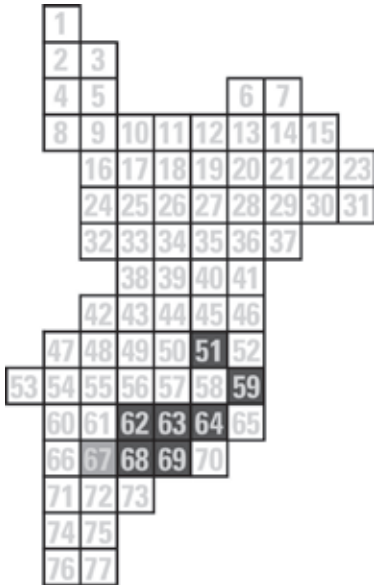
【県内の状況】清澄山系と長南町に分布する。個体数は少ない。

【保護対策】生育地を保護することが望ましい。

【文献】千植誌 2003：465 / 谷城・森 2007 内浦山自然環境保全地域の植物相・千葉県自然環境調査報告書：23-40. 千葉県環境部自然保護課

【写真】2008.8.25 清澄山 谷城勝弘

(大場達之 / 谷城勝弘 追補)



B ヤマトウバナ シソ科

2009	B
2017	B
2023	B

Clinopodium multicaule (Maxim.) Kuntze

【種の特性】中形の多年生草本。日陰の林縁あるいは林床に生える。

根際から基部が斜上する茎を数本だす。茎は高さ 10～25 cm。葉は対生し狭卵形で粗い鋸歯がある。花は 6～9 月。茎の先に集まって咲き、花冠は白色で長さ 7～9 mm。虫媒で風散。[H]

【分布】本州（関東以西）・四国・九州。朝鮮。

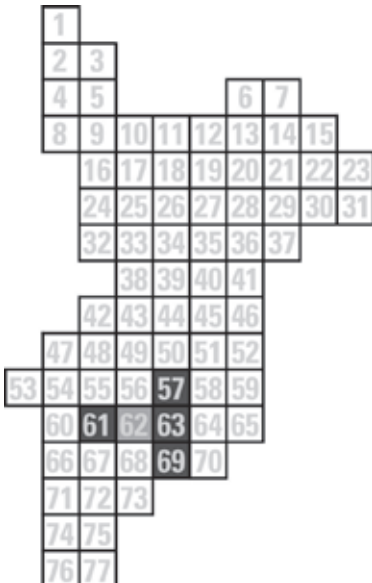
【県内の状況】1933 年に君津市で採集された標本があり、2007 年に高宕山で再発見された。清澄山の記録もあるが、標本は確認できない。

【保護対策】自生地の環境を保つ。

【文献】大野啓一 2008 高宕山でヤマトウバナを採集. 千植誌資料 24：219-220

【写真】2007 高宕山 大野啓一

(大場達之 / 天野誠)



B フトボナギナタコウジュ シソ科

2009	
2017	B
2023	B

Elsholtzia nipponic Ohwi

【種の特性】 小型の多年生草本。高さは30cm～60cmになる。葉は長い葉柄を持ち、葉身は卵形で3cm～8cm、揃った鋸歯がある。花序は直立する。花は片側に偏り、裏には偏円形の苞がある。虫媒で、重力散布。花期は、10月～11月。落葉樹林の道端に生育する。[Th]

【分布】 本州・四国・九州。

【県内の状況】 南房総市で1966年11月6日に採集された標本（CBM BS-12061）と君津市で2009年10月25日に採集された標本（CBM BS-287231）と同市で2000年11月2日に採集された標本（CBM BS-269693）と同市で2003年11月15日に採集された標本（CBM BS-205258）がある。

【保護対策】 生育地を良好に維持することが望ましい。

【文献】 新千植誌 1975:376 / 千植誌 2003:503

【写真】 2001.10.26 君津市 CBM BS-269693

(天野誠)



B ミズネコノオ シソ科

2009	B
2017	C
2023	B

Eusteralis stellata (Lour.) Murata

【種の特性】 一年生草本。葉は細長く単葉で輪生。虫媒で水散布。茎の上部で枝分かれます。水田に生える。[Th] タウコギ群綱。

【分布】 本州・四国・九州。朝鮮、台湾、中国、東南アジア。

【県内の状況】 我孫子市、多古町、市原市、茂原市、富里市などで採集されているが稀である。また以前から稀であった。自生するところでは群生することが多い。特別な環境要因が必要なものか、あるいは種子分散の能力が限られているものであろう。

【保護対策】 生育地の水田を従前通りに維持管理することが望ましい。

【文献】 伊藤至 1967 ミズネコノオを下総に採集。植物採集ニュース 29:38 / 新千植誌 1975:376. / 千植誌 2003:502,498

【写真】 1990.8.18 多古町 標本: CBM BS-83567

(大場達之/天野誠)

